

296

3

296-3



\*1200600223942\*

水産講習所一覽

昭和四年



始



水産講習所一覽

昭和四年

# 水產講習所一覽

## 目次

第一章 沿革及組織	一
第一節 沿革概要	一
第二節 官制	三
第一 水產講習所官制	三
第二 水產講習所規程	三
第三 水產講習所規則	三
第四 水產講習所處務規程	三
第五 水產講習所處務細則	三
第六 水產講習所教育規程	三
第七 水產講習所教授會規程	三
第八 本科成績考查細則	三
第九 實習規程	三
第一〇 實習船規程	三
第一一 圖書及標本ニ關スル規程	三
第一二 在外研究員ニ關スル規程及勅令	三
第二章 敷地、建物及諸設備	四
第一節 敷地及建物	四
第二節 諸設備	四
一 船舶	四
二 實習場及實驗場	四
第三章 研究成績	四
第四章 圖書刊行物	四
第五章 學生	四
第一節 在學生氏名	四
第二節 在學生府縣別	四
第六章 卒業者	四
第一節 卒業者氏名	四
第二節 卒業者狀況	四
附錄	四
一 在外研究員	四
二 職員移動	四
三 學友會	四
四 財團法人水產研究獎勵會	四

發行所寄贈本





# 水産講習所一覽

## 第一章 沿革及組織

### 第一節 沿革概要

#### 第一 本所創立以前

明治二十二年 一月大日本水産會ハ水産教育必要ノ主唱ニ基キ寄附金ヲ以テ東京市京橋區木挽町厚生館内ニ水産傳習所ヲ假設セリ。

二十六年 五月農商務省ハ一ケ年金六千五百圓ヲ交附シテ生徒ノ養成ヲ囑託シタルヲ以テ更ニ疊合ヲ三田四國町二番地ニ新築シテ修業年限ヲ三ケ年トシ教務ヲ擴張セリ

二十七年 一月文部省ハ徵兵令第十三條ニ依リ官公立尋常中學校ト同等以上タルコトヲ認定スルノ規ヲ定ム

二十九年 十二月文部省ハ水産科教員ノ養成ヲ囑託シ全國ヨリ十五名ヲ撰拔入學セシメタリ

三十年 政府ハ水産教育機關ヲ官設スルニ決シ其經費ヲ本年ノ議會ニ提出シテ其協賛ヲ得水産講習所ヲ創設スルコトナリタルヲ以テ水産傳習所ハ三月十一日限り閉所スルニ至レリ

# 水産講習所一覽

## 目次

第一章 沿革及組織	一	第一節 沿革概要	一
第二章 講習所	二	第一節 講習所	二
第三章 講習所	三	第一節 講習所	三
第四章 講習所	四	第一節 講習所	四
第五章 講習所	五	第一節 講習所	五
第六章 講習所	六	第一節 講習所	六
第七章 講習所	七	第一節 講習所	七
第八章 講習所	八	第一節 講習所	八
第九章 講習所	九	第一節 講習所	九
第十章 講習所	十	第一節 講習所	十
第十一章 講習所	十一	第一節 講習所	十一
第十二章 講習所	十二	第一節 講習所	十二
第十三章 講習所	十三	第一節 講習所	十三
第十四章 講習所	十四	第一節 講習所	十四
第十五章 講習所	十五	第一節 講習所	十五
第十六章 講習所	十六	第一節 講習所	十六
第十七章 講習所	十七	第一節 講習所	十七
第十八章 講習所	十八	第一節 講習所	十八
第十九章 講習所	十九	第一節 講習所	十九
第二十章 講習所	二十	第一節 講習所	二十
第二十一章 講習所	二十一	第一節 講習所	二十一
第二十二章 講習所	二十二	第一節 講習所	二十二
第二十三章 講習所	二十三	第一節 講習所	二十三
第二十四章 講習所	二十四	第一節 講習所	二十四
第二十五章 講習所	二十五	第一節 講習所	二十五
第二十六章 講習所	二十六	第一節 講習所	二十六
第二十七章 講習所	二十七	第一節 講習所	二十七
第二十八章 講習所	二十八	第一節 講習所	二十八
第二十九章 講習所	二十九	第一節 講習所	二十九
第三十章 講習所	三十	第一節 講習所	三十

發行所 文部省印刷局

第二本 所

明治三十年 三月二十二日勅令第四十七號ヲ以テ水産講習所ノ官制ヲ發布セラレ次テ諸規則ヲ定メ講習科入學ノ程度ヲ尋常中學第三學年級修業以上トシ修業年限ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テハ漁撈製造養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケ別ニ現業科ヲ置キテ實業者若クハ其子弟ノ就學ニ便ナラシメ又講習科卒業生ニシテ尙深ク既修ノ學科中一二ノ科目ニ就キ研究セント欲スルモノ、爲メニ研究科ヲ設ケ修業期間ヲ一ケ年以内トシ舊水産講習所ノ費舍ニ營繕ヲ加ヘテ之ヲ開設シ藤田四郎所長トナル

三十一年

三月教官ヲ會合シテ講習科ノ傳習要項ヲ定ム此月葦原清風所長トナル  
六月農商務省ハ遠洋漁業練習生規程ヲ定メテ生徒ヲ募集シ本所ニ於テ其授業ヲ開始ス此月研究科ノ修業年限ヲ三ケ年以内トシ尙遠洋漁業練習生ヲ本所ノ研究生ト爲ス  
九月初メテ罐詰及魚油魚蠟沃度製造ノ現業科生徒ヲ募集ス此月竹内正志所長トナル  
十一月牧朴眞所長トナル

三十二年

一月文部省ハ本所講習科ヲ文官任用令第三條ニ依リ官公立中學校ト同等以上ノモノト認定シテ之ヲ告示セリ  
十一月巾着網漁業ノ現業科生徒ヲ募集ス

三十三年

一月本所ノ規則ヲ更訂シテ講習科ヲ本科ト稱シ中學校卒業ノ程度ニ依リ漁撈、製造、養殖中ノ一科ヲ撰ミテ生徒ノ入學ヲ許シ又別ニ遠洋漁業科ヲ置キ遠洋漁業練習生規程ニ依

リテ採用セラレタル生徒ノ養成ヲナスト共ニ從來ノ學期及學年ヲ變更シ毎年九月ヲ以テ學年ノ始トセリ

四月神奈川縣下小田原町ニ於ケル所外製造實習場ノ建築ニ着手シ七月其工事ヲ竣ヘ八月開場式ヲ舉行セリ

九月地ヲ深川區越中島町ニトシテ本所費舍ノ新營ニ着手シ又石川島造船所ニ於テ實習用帆船ノ新營ニ着手セリ

三十四年 四月前年新營ニ着手セシ實習船ノ進水式ヲ舉行シテ快鷹丸ト命名シ八月ニ至リ全ク其工ヲ埃ヘ艤裝整頓セリ

六月初テ經費其他節類ノ現業科生徒ヲ募集ス

三十五年

文部省ヨリ水産教員養成ノ囑託ヲ受ケ全國ヨリ撰出ノ生徒十名ノ入學ヲ許ス

五月文部省ハ實業教員養成規程ニヨリ本科生徒中ニ學資ヲ補給シテ水産教員養成ノ方法ヲ定ム

六月農商務省ヨリ地方水産試驗場講習所職員講習會授業ノ囑託ヲ受ク

九月深川區越中島町ノ新築費舍ニ移轉ス

三十六年

十月第五回内國勸業博覽會ニ在リシ冷蔵庫ヲ本所ニ引繼キ翌三十七年六月之ヲ本所内ニ移築セリ  
十二月露國萬國水産博覽會ヨリ本所出品ニ對シテ名譽謝狀ヲ贈與セラレ

十二月官制ヲ改正シ專任所長ヲ置ク松原新之助所長トナル

三十七年 二月處務規程ヲ改正シ更ニ處務細則及試験部規程ヲ定メテ事務ノ分掌ヲ明ニセリ

三月傳習規則及傳習規程ヲ改正ス

四月千葉縣下元鹽業調査所津田沼製鹽試驗場ヲ引繼キ本所ノ實習場トセリ

三十八年 六月千葉縣製鹽實習場ヲ大藏省ノ所管トセリ又製鹽技術員養成科規程ヲ定メ生徒ヲ募集セリ

三十七八年戰役ニ際シ陸軍省ト協議ノ上軍用罐詰ノ監督ヲナシ本所冷蔵庫ヲ同省ノ使用ニ供セリ

三十九年 二月深川區冬木町養魚池ヲ本所々管ニ移サレタリ

四月伊太利國美蘭ニ開カレタル萬國博覽會ニ本所ヨリ出品シ十一月萬國審査委員ニ於テ

フオリ、コンコルソー(競争セサル名譽出品)トシ賞狀ヲ贈與セラル

四十年 四月六日水産傳習所ノ創設ヨリ二十年本所ノ開始ヨリ十年ニ相當スルヲ以テ紀念式ヲ舉行シ植樹ヲナシ翌七日所内ヲ一般公衆ノ觀覽ニ供セリ

六月捕鯨砲手養成ノ必要ヲ認メ現業科生徒トシテ其授業ヲ開始セリ

九月六日實習船準丸ノ建造設計成リ石川島造船所ニ於テ起工シ十二月二日進水シ生徒ノ實習ニ使用セリ

九月九日實習船快鷹丸(總噸數百四十噸)ハ實習中韓國迎日灣ニ於テ風波ノ難ニ遭ヒ難離

四

ノ途ナク同灣口冬外串ノ突角九萬里沿岸ノ岩礁ニ打揚グラレ忽チニシテ破壊シ終ニ教官

一名生徒三名殉難スルノ不幸ヲ見ルニ至レリ茲ニ於テ本所ノ漁撈科生徒實習ノ機關ヲ失

ヒ止ムヲ得ス民間實業者ノ漁船ニ乗組ミ實習セシメタルモ規定ノ期間内ニ於テハ豫定ノ

實習ヲ完了セシムルコト能ハサリシヲ以テ該生徒ノ卒業期ヲ四十一年十月マテ延期シテ

其實習ヲ繼續セリ

十月二十五日勅令第三百二十九號ヲ以テ在外研究生規程ヲ公布セララル

十一月議會ニ於テ快鷹丸代船新造豫算ノ協賛ヲ得タルヲ以テ直チニ其設計ニ着手セリ

遞信省ハ本科漁撈科卒業者ニシテ三箇年以上船舶ニ乗組タル者ニ對シテハ該船舶ノ種類

ニ依リ甲種二等運轉士ノ受験資格ヲ有スルコト又現業科中遠洋漁業專修ヲ卒リタル者ニ

對シテハ該船舶ノ種類ニ依リ一箇年ヲ短縮シテ丙種運轉士乙種運轉士又ハ乙種二等運轉

士ノ受験資格ヲ有スルコトヲ認定セリ

四十一年 五月大阪鐵工所ニ於テ起工シタル新造實習船ハ雲鷹丸(四百四十四噸)ト命名シ四十二年

二月進水同年五月十七日東京ニ廻航シテ生徒ノ實習ニ使用セリ

十一月本所構内ニテ圖書及標本室ノ建築ニ着手シ四十二年三月其工ヲ竣ヘタリ

十一月千葉縣下館山灣高島ニ於テ臨海實驗場ノ建築ニ着手シ四十二年三月竣工シ其三十

日ニ開場式ヲ舉グ五月ヨリ養殖科生徒ノ實習ニ使用セリ

四十二年 六月初テ貝殼彫刻ノ現業科生徒ヲ募集ス

四十二年 本年アラスカユニオン太平洋博覽會ニ本所ヨリ出品ヲナシ大賞牌ヲ受ク

四十三年 一月本所試験規程ヲ改正シテ一般營業者ヨリ試験或ハ鑑定ノ依頼ニ應スルノ制ヲ設ケ三月試驗廳舎ノ新營ヲ企テ四十四年四月落成セリ又高島臨海實驗場ニ氣象觀測室ヲ設ク三月特殊技術員養成科規程ヲ定メ從來ノ製鹽技術員養成科規程ハ之ヲ廢止セリ

四十四年 一月下啓助所長トナル

三月規則ヲ改訂シテ入學者ノ資格ヲ中學卒業者若クハ專門學校入學者檢定ニ合格シタル者及府縣立水產學校本科卒業者ニ限リ又學科課程ニ變更ヲ加ヘ物理及普通動物數學等ノ基礎學科ヲ加ヘ尙第三學年ニ於テモ學科ノ講義ヲ併課シ時宜ニヨリ必要ノ事項ヲ其專門家ニ委囑シテ課外講義ヲナスコト、セリ又特殊技術員養成科規程中改正ヲ加ヘ短期講習ヲ爲スノ制ヲ定ム

大正三年 七月二十五日海嘯ノ爲メ構内全部ニ浸水シ深サ三尺餘ニ及ヒ護岸堤防ハ殆ト破壊セラレ船圍場ハ之ニ格納セシ「ボート」ト共ニ全部ヲ流失シテ其形蹟ヲ止メサルニ至リ其他實習場及寄宿舎ノ一部破壊セラレシニヨリ直チニ復舊工事ニ着手四十五年五月之ヲ完成セリ三月處務細則ヲ改正スルニ方リ漁業基本調查部、漁撈試驗部、製造試驗部、養殖試驗部化學試驗部、漁船機械試驗部ニ分チ又編纂部ヲ設ケ傳習、調査及試驗ニ關スル報告其他ノ編纂ヲ行フコトトシ尙農商務省令ヲ以テ試驗規則及種苗拂下規則ヲ發布スルニ至レリ

四年 十二月水產局長松崎壽三所長心得ヲ命セラレ

五年 九月規則及規程ヲ更訂シ從前ノ學期及學年ヲ變更シテ每年四月ヲ以テ學年ノ始トナシ現業科ト稱シタルモノヲ別科ト改メ又從來ノ特殊技術員養成科ハ之ヲ廢シ單ニ必要ニ應シテ短期講習ヲ行フコトトセリ

六年 二月技師伊谷以知二郎所長トナル

十月一日風水害ニ依リ本所建築物ハ總テ多少ノ被害アリ殊ニ後方部面ノ諸建築物ハ殆ント倒壞シタルヲ以テ大正七年四月之カ復舊工事ニ着手シ大正八年三月竣功セリ

七年 天鷗丸(百六十一噸)ヲ新造シ海洋調査船トシテ專ラ海洋調査ニ使用スルコトトセリ

八年 一月處務細則ヲ改正シ漁業基本調查部ヲ海洋調査部ト改メ其定員經費共ニ之ヲ増加シ試驗事業ノ擴張ヲ圖レリ

從來本科生徒ハ漁撈科三十名製造科二十五名養殖科十五名合計七十名募集シ來リシガ時代ノ要求ニ伴ヒ本年度ニ於テ各科五名宛都合十五名ヲ増募スルコトトナリ隨テ教授ノ増員ヲモ爲セリ

七月文部省告示第一九二號ヲ以テ本所本科卒業生ハ公私立實業學校教員タルコトヲ得ルモノト指定セラレタリ

九年 二箇年ノ繼續ヲ以テ漁船機械試驗ノ擴張ヲ行ヒ專任職員並經費ノ増加ヲ得タリ

十二月二十三日祝融ノ災ニ罹リ水產化學試驗部、淡水養殖室、漁撈標本室及海洋調査部ロリ成ル一棟ト生徒控室トヲ燒失直チニ復舊工事ニ着手セリ

十年

前年罹災ノ復舊工事ト共ニ講習部ノ革進及漁船機械試驗、養殖試驗事業ノ擴張ヲ伴ヒ舊東京工業試驗所敷地ノ一部保管轉換ヲ受ケ之レト本所敷地内ニ亘リ費舍其他ノ増設ヲ圖レリ猶本所以外ニ於テハ講習部擴張ノ爲メ館山實習場、高島實驗場、小田原實習場等ニ改増築ヲ行ヒ養殖試驗擴張ノ爲メニハ長野縣木崎湖、愛知縣豐橋市外、兵庫縣二見、廣島縣大長等ニ夫々養魚養貝試驗場ヲ設置シ深川區冬木町養魚試驗池ハ之ヲ廢止セリ

十一年

一月講習規則及同規程ヲ更訂シ本科ノ修業年限ヲ延長シテ四箇年トシ其入學資格ヲ變更シテ中學校第四學年修了者並ニ之ヲ準スル者又ハ甲種水産學校卒業者並ニ之ヲ準スル者ト爲シ更ニ學科課程ヲ改正シテ應用的技術ノ向上ト基礎的學力ノ充實トヲ圖レリ  
五月講習規則第十一條ノ二ニ依リ農商務省告示第百六十六號ヲ以テ臺灣、朝鮮及外國人特別入學規程ヲ設ク

十二年

七月講習規則及同規程ヲ更訂シ遠洋漁業科ノ修業年限ヲ二ケ年ニ改メ又本科漁撈科學科課程ノ一部ヲ變更シ同科第四學年ニ於ケル授業ハ他學年ニ於テ之ヲ課シ同學年全部ヲ乘船實習ト爲セリ

十三年

七月陸軍省並文部省ハ本科第一學年ヲ修了シタル者ハ徵兵令第十三條第一項第二號ニ規定スル中學校ノ學科程度ト同等以上ノ課程ヲ修了シタル者ト認定シ又本科在學者ニ對シ徵兵令第二十三條第一項ノ規定ニ依ル一年志願兵ノ入營ヲ滿二十五歳マデ延期スルコトヲ認定セリ

十四年

九月大震火災ノ爲メ本所諸建物諸設備等大半烏有ニ歸セルカ此際ハ教務上重要ノ時期ニ屬シ一日モ學業ノ中斷ヲ許サ、ルヲ以テ應急處置トシテ府下豐多摩郡杉並村蠶業試驗場ノ一部ヲ其假費舍ニ充テテ事務ヲ執ルコト、シ十月十五日ヨリ爰ニ應急ノ授業ヲ開始セリ而シテ直チニ善後復舊ノ計畫ヲ立テ更ニ應急ノ處置トシテ舊敷地ノ一部ニ約二千坪ノ假費舍建設ニ着手シタリ

十三年

四月八日舊敷地ノ假費舍ニ於テ授業ヲ開始シタリ又小田原、館山、高島等ニ於ケル本所實習場並實驗場モ前年九月ノ震火災ノ爲メ總テ多少ノ被害アリタルモ急速ニ復舊又ハ修繕ヲ爲シ共ニ完成ヲ告ケタリ

十五年

五月文部省ハ大正七年文部省令第三號第二條第四號ニ依リ高等試驗令上明治三十三年以後ニ入學シタル本所本科卒業者ニ對シ高等學校大學豫科ト同等以上ト指定シ豫備試驗ヲ免除サル

十六年

八月技師岡村金太郎所長トナル  
九月遞信省令第四十號ヲ以テ船舶職員試驗規程公布セラレ本科漁撈科卒業者ニシテ三箇年以上船舶ニ乗組タル者ニシテ該船舶ノ種類ニ依リ甲種二等運轉士受験資格ヲ有スルコト又現業科遠洋漁業專修ヲ卒ヘタル者ニ對シテハ乗組期間一箇年ヲ短縮シ乗組船舶ノ種類ニ依リ乙種一等運轉士、乙種二等運轉士、丙種運轉士ノ受験資格ヲ有スルコトヲ認定セラレ且ツ右相當試驗ヲ受クル場合ニ於テ兩者共筆記試驗ヲ免除セラレタリ



十一月二十二日付文部省告示第四百三號ヲ以テ本所大正十一年以後ノ入學ニシテ本科第一學年修了者ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定セラル隨ツテ此資格ニ依リ高等試驗令ニ依ル豫備試驗ヲ受クル資格ヲ享有スルコトナレリ

十四年

二月長崎造船所ニテ蒼鷹丸ヲ建造セシメ天鷗丸ノ代船トセリ鋼鐵船ニシテ二百二噸ナリ六月陸軍省ヨリ所管替ヲ受ケタル青鷗丸ヲ隼丸ノ代船トナス噸數三十二噸餘ナリ

十一月農林省告示第三百三十三號ヲ以テ講習規程第一條ヲ改正シ兵式教練ヲ實施セリ

十五年

一月文部省告示第二十六號ヲ以テ明治三十六年文部省告示第三十號教員檢定ニ關スル指定學校名及學科目中ニ於テ本所本科製造科ハ化學(大正三年三月以後ノ卒業生ニシテ當該科目成績優等ナル者ニ限ル)同養殖科ハ動物(同前)ヲ指定セラル

一昨年以來大震災後ノ諸設備復舊ヲ繼續シ又本年度ニ於テ敷地ノ埋立工事ヲ完了セリ

昭和十二年

四月水産ニ關スル物理學の試驗ノ擴張ヲ行ヒ專任職員並經費ノ増加ヲ得タリ

十二月復舊工事中ノ試験部機械工場一棟(一〇〇坪)ヲ建設セリ

三年

本所實習船雲鷹丸ハ既ニ老齡ニ達シ安全ナル航海ヲ期シ能ハサルニ至リタルノミナラス時代ニ適合スル實習船ヲ建造シ學生ノ實習ヲ完カラシムルノ要ヲ認メ代船建造ノ豫算ヲ得十一月神戸市川崎造船所ニ於テ工事ニ着手セリ

四年

前年度ヨリ復舊工事中ノ漁撈科及製造科ノ實驗實習場一棟並ニ附屬建物(五四四坪三七

五)ノ建設ハ本年二月之カ竣工ヲ告ケタリ

三月官制ヲ改正シテ本所ハ専ラ水産ニ關スル學理及技術ノ教授及攻究ヲ掌ルコト、ナリ從來ノ試験部及海洋調査部ニ屬スル事務ハ擧ケテ之ヲ四月新設ノ水産試驗場ニ移セリ

四月講習所規程及講習所規則ヲ改正シ本科ニ於ケル學科課程ヲ改訂シテ本年度入學者ヨリ授業料ヲ徴收スルコト、シ又本科ノ上ニ修業年限二箇年ノ專攻科ヲ設ケ昭和八年度ヨリ開設スルコト、セリ

四月處務規程及處務細則ヲ改正シテ教務課及庶務課ノ事務分掌ヲ定メ教育ニ關シテハ重要事項審議ノ爲メ教授會規程ヲ制定シ從來ノ教官會議規程ハ之ヲ廢止セリ又教育規程ヲ設ケテ教務ニ關スル綱要ヲ定メタリ

八月兼テ建造中ノ實習船進水セルヲ以テ白鷹丸(一、三二七噸七八)ト命名シ九月竣工ト

一月初旬東京ニ廻航シテ學生ノ實習ニ使用セリ

十一月十八日品川沖碇泊中ノ實習船白鷹丸ニ於テ農林大臣其他所外ニ於ケル本所關係諸氏數百名ヲ招待シ翌十九日ハ職員學生一同同船ニ參集シ兩日ニ亘リテ同船ノ竣工式ヲ舉行シ超テ其二十三、四ノ兩日ハ芝浦岸壁ニ繫留シテ廣ク一般ノ觀覽ニ供シ以テ同船ノ將來ヲ祝福セリ

來ヲ祝福セリ

第二節 官制、規程及規則  
第一 水産講習所官制

明治三十年三月二十二日  
勅令第四十七號

(沿革)

明治三十一年一月勅令第二九八號、三十三年三月同第七二號、三十四年四月同第四二號、三十六年一月同第二三六號、四〇年四月同第一四七號、四一年一月同第二八五號、四二年三月同第七七號、四三年三月同第八四號、同年九月同第三五一號、大正二年六月同第二〇四號、七年四月同第一〇八號、八年四月同第一三六號、九年八月同第三三七號、一〇年五月同第二二〇號、一一年五月同第二四三號、同年一月同第五一〇號、一二年三月同第八八號、一三年二月同第二二號、同年一月同第二五七號、同年一月二月同第三六九號、一四年三月同第四一號、昭和二年四月同第八三號、四年三月同第二二號改正

第一條 水産講習所ハ農林大臣ノ管理ニ屬シ水産ニ關スル學理及技術ノ教授及攻究ヲ掌ル  
第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク  
所長 專任十六人 奏任

技師 專任三人 奏任  
助教 專任十人 判任  
屬手 專任四人 判任  
技手 專任五人 判任

第三條 所長ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ

所長タル教授ハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

所長ハ農林大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第六條 助教教授ハ上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第七條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

附則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二 水産講習所規程

昭和四年三月  
省令第三號制定

第一條 水産講習所ハ水産ニ關スル學理及技術ヲ教



製造科

學 科 目	年												
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	
修身	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
英語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
獨逸	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
物理	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
化學	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
生物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
食物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
製造	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
普通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
動物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
植物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
普通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
經濟	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
水產	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
細菌	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
水產	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

養殖科

學 科 目	年												
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	
修身	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
英語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
獨逸	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
物理	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
化學	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
生物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
食物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
製造	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
普通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
動物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
植物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
普通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
經濟	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
水產	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
細菌	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
水產	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

學 科 目	年												
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	
修身	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
英語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
獨逸	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
物理	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
化學	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
生物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
食物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
製造	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
普通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
動物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
植物	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
普通	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
經濟	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
水產	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
細菌	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
水產	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

ルケ於ニ外所		學 年	日 數	事 項
第一學年	第二學年			
水游及操縱此動植物學實驗	三〇	第一學年	三九	水游及操縱此動植物學實驗
動物學實驗	七	第一學年	三九	動物學實驗
地質學實驗	二	第一學年	三九	地質學實驗
動植物野外採集	五	第一學年	三九	動植物野外採集
海洋及湖沼學實驗	二〇	第一學年	三九	海洋及湖沼學實驗
動植物學實驗	一四	第二學年	三九	動植物學實驗



目		科		擇	
財政學	二	水產	二	水產	二
民衆學	二	商法	二	商法	二
水產學	二	水產	二	水產	二
水產金論	二	水產	二	水產	二
水產市場論	二	水產	二	水產	二
水產組合論	二	水產	二	水產	二
水產經營論	二	水產	二	水產	二
水產物理學	三	水產	三	水產	三
水產化學	三	水產	三	水產	三
水產物理學實驗	六	水產	六	水產	六
水產化學實驗	六	水產	六	水產	六
水產生理學實驗	六	水產	六	水產	六
水產病學實驗	六	水產	六	水產	六
水產比較發生學實驗	六	水產	六	水產	六
水產繁殖設計法實驗	六	水產	六	水產	六
水產土壤學實驗	六	水產	六	水產	六
水產繁殖土木學實驗	六	水產	六	水產	六

備考 各學年ノ授業學科目及其ノ授業時間數ハ時宜ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ  
 選擇科目ノ選擇方法ニ付テハ教授會ノ議ヲ經テ別ニ之ヲ定ム

第八條 本科又ハ專攻科ノ學科目中一科目又ハ數科目ヲ選擇シテ學修セムトスルモノハ選科生トシテ入學ヲ許可スルコトヲ得  
 第九條 水産ニ關スル特殊ノ科目ヲ限リ必要ナル學理及技術ヲ習得セシムル爲別科ヲ置クコトヲ得  
 第十條 臺灣人、朝鮮人及外國人ノ特別入學ニ關シテハ水産講習所長ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 本則施行ニ關シ必要ナル事項ハ水産講習所長之ヲ定ム  
 附則  
 本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ專攻科ニ關スル規定ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 水産講習所講習規則ハ之ヲ廢止ス  
 本令施行ノ際現ニ本科ニ在學スル者ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ水産講習所長之ヲ定ム

第三章 水産講習所規則

昭和四年四月制定

第一章 本科

第一節 學科及學科課程

第一條 本科ノ學科ヲ分テテ漁撈科、製造科及養殖科トス  
 各學科ニ於ケル學科目及其ノ程度左ノ如シ  
 略(本所規程第六條ノ通り)

第三節 入學、在學、退學及懲戒

第二條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル  
 第三條 一學年ヲ分テテ二學期トス  
 第一學期ハ四月一日ニ始マリ十月三十一日ニ終ル  
 第二學期ハ十一月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル  
 第四條 休業日左ノ如シ  
 一 大祭祝日  
 一 記念日 三月二十二日  
 一 春季休業日 自四月一日起至四月七日  
 一 夏季休業日 自七月二十日起至八月三十一日  
 一 秋季休業日 自十月二十八日起至十二月二日  
 一 冬季休業日 自十二月二十五日起至翌年一月七日  
 實驗及實習ハ休業日ニ於テモ之ヲ課スルコトアルヘシ

第五條 入學期ハ學年ノ始トス  
 第六條 入學ヲ許可セラルヘキ者ハ男子ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ且學力試驗及體格檢査ニ合格シタルモノニ付其ノ入學前ニ於ケル學業成績及性行ヲ考査シ之ヲ決ス  
 一 中學校第四學年ヲ修了シタル者  
 二 高等學校尋常科ヲ修了シタル者  
 三 高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者  
 四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者  
 五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者  
 六 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者  
 第七條 學力試驗ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依

リ左ニ掲クル科目ニ付之ヲ行フ

- 一 國語漢文
- 二 英 語
- 三 數 學
- 四 物理學
- 五 化 學

第八條 學力試験及體格検査ノ期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第九條 入學志願者ハ入學願書(様式第一號)ニ入學檢定料及左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ所長ニ差出スヘシ

一 履歷書(様式第二號)

二 第六條各號ノ一ニ該當スル資格ヲ證スル證明書又ハ其ノ資格ヲ取得スヘキ旨ヲ證スル當該學校長ノ證明書

三 第六條第一號、第二號、第五號又ハ第六號ニ該當スル者ニ在リテハ學校長ノ學業成績及性行調査書(様式第三號)

四 六月以内ノ撮影ニ係ル單身ノ半身脱帽ノ手札形寫眞(裏面ニ第一志望學科名、氏名及生年月日ヲ白署スヘシ)

入學志願者ハ第一條ニ掲クル學科ニ付其ノ一ヲ選ビ願書ニ記載スヘシ但シ志望ノ順位ヲ定メ爾餘ノ學科ヲ併記スルコトヲ得

第十條 入學檢定料ハ金三圓トシ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十一條 入學ノ許可ヲ受ケタル後ニ於テハ他ノ學科ニ轉スルコトヲ得ス但シ一學年以上在學ノ後特別ノ事由ニ因リ轉科ヲ望ム者アルトキハ詮衡ノ上學年ノ始ニ於テ他ノ學科ノ第一學年ニ編入スルコトアルヘシ

第十二條 第二十一條ノ規定ニ依リ退學シタル者再入學ヲ請フトキハ詮衡ノ上學年ノ始ニ於テ入學ヲ

許可シ原級又ハ原級以下ニ編入スルコトアルヘシ

第十三條 入學ヲ許可セラレタル者ハ許可ノ日ヨリ十日以内ニ在學證書(様式第四號)及戶籍謄本ヲ差出スヘシ正當ノ事由ナクシテ其ノ手續ヲ遅延シタルトキハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條 在學證書ニ署名スヘキ保證人ハ二人トシ内一人ハ入學者ノ父兄、親戚又ハ入學者ニ學資ヲ支給スル者、他ノ一人ハ東京市又ハ其ノ附近ニ在住スル年齢二十五年以上ノ男子タルコトヲ要ス

第十五條 保證人死亡シ又ハ保證人タル資格ヲ缺クニ至リタルトキハ遲滞ナク別ニ保證人ヲ定ムヘシ所長ニ於テ保證人ヲ不適當ト認ムルトキハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十六條 保證人轉籍、轉居、改姓、改名又ハ改印シタルトキハ直ニ之ヲ届出ツヘシ

第十七條 學生ハ本所所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ

第十八條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ缺課又ハ缺席シタル者ハ其ノ事由ヲ具シ通學生ニ在リテハ保證人ト連署ヲ以テ、寄宿舍生ニ在リテハ學生取締ノ證明ヲ經テ速ニ之ヲ届出ツヘシ疾病ニ因リ引續キ一週間以上缺席スル場合ハ届書ニ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第十九條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ其ノ學年間休學セムトスル者ハ事由ヲ具シ保證人ト連署ヲ以テ許可ヲ受クヘシ疾病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第二十條 兵役ニ服スル爲休學セムトスル者ニ對シテハ其ノ服役期間又ハ其ノ學年間休學ヲ許可ス

第二十一條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトスル者ニ於テ之ヲ原級ニ復學セシム

第二十二條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトスル者ニ於テ之ヲ原級ニ復學セシム

第二十三條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトスル者ニ於テ之ヲ原級ニ復學セシム

第二十四條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトスル者ニ於テ之ヲ原級ニ復學セシム

第二十五條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトスル者ニ於テ之ヲ原級ニ復學セシム

第二十六條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セムトスル者ニ於テ之ヲ原級ニ復學セシム

ル者ハ事由ヲ具シ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ疾  
病ニ因ル場合ハ醫師ノ診斷書ヲ添附スヘシ

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル學生ハ之ヲ除  
籍スルコトアルヘシ

一 數々遅刻、缺課又ハ缺席スル者

二 一月以上無届缺席スル者

三 成業ノ見込ナキ者

四 二學年ヲ超ユルモ尙原級ニ止マル者但シ休學

期間ハ之ヲ除ク

第二十三條 學生ノ本分ニ背キタル行爲アルトキハ  
其ノ輕重ニ依リ左ノ懲戒ニ附ス

戒飭、停學、退學

第四節 試驗、進級及卒業

第二十四條 各學年ノ課程修了ハ學業成績及平素ノ  
勤惰ヲ考查シテ之ヲ定ム

第二十五條 前條ノ考查ニ合格シタル者ハ之ヲ進級  
セシメ、合格セサル者ハ次學年ノ始ヨリ原級ノ課

程ヲ再修セシム

所長必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ進  
級シタル者ニ對シ所外ニ於ケル實驗、實習又ハ調  
査ニ限り原級ノ課程ノ全部又ハ一部ヲ再修セシム  
ルコトアルヘシ

第二十六條 試驗ハ各學科目ニ付每學期一回以上之  
ヲ行フ但シ學科目ノ性質ニ依リ試驗ヲ省略スルコ  
トアルヘシ

第二十七條 疾病其ノ他ノ已ムヲ得サル事故ニ因リ  
試驗ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ事由  
ノ明瞭ナル場合ニ限り追試驗ヲ施行ス

第二十八條 全課程ヲ修了シタル者ニハ卒業證書ヲ  
授與ス

第二十九條 本節ニ規定スルモノノ外成績考查ニ關  
スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第五節 授業料  
第三十條 授業料ハ一學年金六十五圓トス

授業料ハ左ノ二期ニ分チテ之ヲ徴收ス

第一期 自四月一日起至十一月三十一日 金二十五圓

第二期 自十一月一日起至翌年三月三十一日 金二十圓

授業料ハ第一期ニ在リテハ四月八日ヨリ同月十七  
日迄ニ、第二期ニ在リテハ十一月四日ヨリ同月十  
三日迄ニ之ヲ納付スヘシ

前項ノ期日後ニ入學又ハ復學シタル者ハ入學又ハ  
復學ノ際之ヲ納付スヘシ

第三十一條 既納ノ授業料ハ之ヲ還付セス

第三十二條 一期間ヲ通シテ休學シタルトキハ其ノ  
期ニ屬スル授業料ハ之ヲ徴收セス

退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ニ屬スル授業料ハ之ヲ  
徴收ス

第三十三條 授業料ヲ所定ノ期日ニ納付セサル者ア  
ルトキハ催告ヲ爲シ尙納付セサルトキハ之ヲ除籍  
スルコトアルヘシ

第二章 專攻科

第一節 學科及學科課程

第三十四條 專攻科ノ學科ヲ分チテ漁撈科、製造科  
及養殖科トス

第三十五條 學科目ヲ必修科目、選擇科目及隨意科  
目トス  
各學科ニ於ケル必修科目及選擇科目並其ノ程度左  
ノ如シ

略(本所規程第七條ノ通り)

第三十六條 隨意科目ノ種類及授業時間數ハ毎年之  
ヲ定ム

學生ハ所長ノ許可ヲ得テ他ノ學科ニ屬スル授業ヲ  
隨意科目トシテ履修スルコトヲ得

第二節 入學、在學及除籍

第三十七條 入學ヲ許可セラルヘキ者ハ男子ニシテ  
左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付其ノ入學前ニ於  
ケル學業成績及性行ヲ考查シ之ヲ決ス  
一 水産講習所本科ヲ卒業シタル者



- 二 實業專門學校タル水産學校ヲ卒業シタル者
  - 三 前二號ノ外所長ニ於テ水産講習所本科ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學術技能ヲ有スル者ト認ムル者
- 所長必要アリト認ムル場合ハ前項第三號ニ掲クル者ニ付其ノ資格ヲ試験スルコトアルヘシ
- 第三十八條 漁撈科ニ在リテハ水産講習所本科漁撈科ヲ卒業シタル者、製造科ニ在リテハ水産講習所本科製造科ヲ卒業シタル者、養殖科ニ在リテハ水産講習所本科養殖科ヲ卒業シタル者ハ他ノ入學志願者ニ先チ入學ヲ許可ス
  - 第三十九條 前條ノ入學志願者ノ數各學科ノ收容豫定ノ人員ヲ超ユルトキハ選抜試験ヲ行ヒ入學ヲ許可スヘキ者ヲ定ム
  - 第四十條 第三十八條ニ掲クル者ヲ入學セシメタル後尙闕員アル場合ハ其ノ他ノ本科卒業者ニ對シ先ツ入學ヲ許可シ尙闕員アル場合第三十七條第一項

- 第二號及第三號ニ該當スル者ニ對シ入學ヲ許可ス前條ノ規定ハ前項ノ入學志願者ノ數補闕豫定ノ人員ヲ超ユル場合ニ之ヲ準用ス
- 第四十一條 左ニ掲クル者ハ前三條ノ規定ニ拘ラス入學ヲ許可スルコトアルヘシ
  - 一 ノノ學科ヲ卒ヘタル者ニシテ更ニ他ノ學科ニ入學ヲ志願スルモノ
  - 二 退學シタル者ニシテ更ニ同一學科ニ入學ヲ志願スルモノ
- 第四十二條 選抜試験ノ科目、期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第四十三條 入學志願者ハ入學願書(様式第六號)ヲ所長ニ差出スヘシ
  - 入學志願者ハ第三十四條ニ掲クル學科ニ付其ノ一ヲ選ビ願書ニ記載スヘシ但シ志願ノ順位ヲ定メ爾餘ノ學科ヲ併記スルコトヲ得
- 第三十七條第一項第二號及第三號ニ掲クル者ハ願

書ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ但シ第四十一條ニ掲クル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 履歷書(様式第二號)
- 二 六月以内ノ撮影ニ係ル單身ノ半身脱帽ノ手札形寫真(裏面ニ第一志望學科名、氏名及生年月日ヲ自署スヘシ)
- 三 體格検査書(様式第七號)
  - 前項ノ書類ノ外所長必要アリト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ
- 第四十四條 入學ヲ許可セラレタル者ハ許可ノ日ヨリ十五日以内ニ在學證書(様式第八號)ヲ差出スヘシ
- 正當ノ事由ナクシテ其ノ手續ヲ遅延シタルトキハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル學生ハ之ヲ除籍スルコトアルヘシ
  - 一 缺席久シキニ亘ル者

- 二 成業ノ見込ナキ者
- 三 在學四年ヲ超ユルモ尙卒業セサル者但シ休學期間ハ之ヲ除ク

第三節 試験及卒業

- 第四十六條 專攻科ヲ卒業スルニハ必修科目ノ全部及第三十五條第三項ノ規定ニ依リ選擇シタル學科目ノ全部ニ付試験ニ合格シ且卒業論文ヲ提出シ其ノ考查ニ合格スルコトヲ要ス
- 前項ノ學科目中實驗及實習ニ付テハ試験ニ代フルニ平素ノ成績ノ考查ヲ以テスルコトヲ得
- 第四十七條 隨意科目ハ學生ノ希望アル場合ニ限り試験ヲ行フ
- 第四十八條 試験ハ每學年一回學年末ニ於テ之ヲ行フ但シ時宜ニ依リ學年中之ヲ行フコトアルヘシ
  - 學生前項ノ試験ヲ受クルコト能ハサリシトキ又ハ試験ヲ受ケテ合格セサリシトキハ其ノ試験ニ合格スルニ依リ專攻科ヲ卒業スルコトヲ得ヘキ者ニ限

リ次學年ノ始ニ於テ更ニ試験ヲ受クルコトヲ得

試験ノ期日ハ二週間以前ニ之ヲ所内ニ揭示ス

第四十九條 第四十一條ニ掲クル者ハ從前在學中試験ニ合格シタル學科目ニ付更ニ試験ヲ受クルコトヲ要セス但シ所長ニ於テ其ノ履修ノ程度カ學科課程所要ノ程度ニ相當セスト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 學生ハ本章第一節ノ規定ニ依リ第一學年ニ於テ履修スヘキ學科目中其ノ總數ノ三分ノ二以上ニ相當スルモノニ付試験又ハ之ニ代ハルヘキ成績考查ニ合格シタル後ニ非サレハ第二學年ニ於テ履修スヘキ學科目ニ付試験ヲ受ケ又ハ卒業論文ヲ提出シ其ノ考查ヲ受クルコトヲ得ス

第五十一條 卒業論文ハ學年ノ始ニ於テ其ノ題目ヲ定メ所長ノ承認ヲ經タル上指導教官ノ指導ヲ受ケテ之ヲ作成スヘシ

前項ノ卒業論文ハ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ提出

スヘシ

第五十二條 試験及之ニ代ハルヘキ成績考查ハ各學科目ニ付合格、不合格ヲ決ス

試験、之ニ代ハルヘキ成績考查及卒業論文成績考查ノ結果ハ優、良、可及不可ノ四等ニ分チ之ヲ評定シ優、良及可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス

第五十三條 前條ノ成績考查ノ結果ハ學生票ニ記入シテ之ヲ交付ス

#### 第四節 授業科

第五十四條 授業科ハ一學年金六十五圓トス

授業料ハ左ノ二期ニ分チテ之ヲ徴收ス

第一期 自四月三十一日 金三十五圓

第二期 自十一月三十一日 金三十五圓

#### 第五節 雜 則

第五十五條 第二條乃至第五條、第十一條、第十九條乃至第二十一條、第二十三條、第二十八條、第三十條第三項、第四項及第三十一條乃至第三十三

條ノ規定ハ專攻科ニ之ヲ準用ス

### 第三章 遠洋漁業科

第五十六條 遠洋漁業科ノ修業年限ハ二年トス但シ必要ニ依リ一年以内ニ限り之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五十七條 遠洋漁業科ノ學生ハ修業年限中本所實習船其ノ他所長ノ指定スル船舶ニ乗組ミ遠洋漁業ニ關シ必要ナル學理及技術ヲ習得スヘシ  
前項以外ノ學科課程ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第五十八條 入學ヲ許可セラレヘキ者ハ左ノ各號ノ

一ニ該當スルコトヲ要ス

一 水産講習所本科漁撈科ヲ卒業シタル者

二 所長ニ於テ前號ニ掲クル者ト同等以上ノ學術技能ヲ有スル者ト認ムル者

所長必要アリト認ムル場合ハ前項第二號ニ掲クル者ニ付其ノ資格ヲ試験スルコトアルヘシ

第五十九條 入學志願者ハ入學願書ニ履歷書ヲ添ヘ

之ヲ所長ニ差出スヘシ

前項ノ書類ノ外所長必要アリト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第六十條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ休學セムトスル者ハ事由ヲ具シ休學ノ期間ヲ定メテ其ノ許可ヲ受クヘシ

休學ノ期間ハ之ヲ修業年限ニ算入セス

第六十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル學生ハ之ヲ除籍スルコトアルヘシ

一 成業ノ見込ナキ者

二 修業年限ヲ超ユルモ尙卒業セサル者

第六十二條 遠洋漁業科ノ卒業ハ修業ノ成績、勤惰、報告書及漁撈日誌ヲ考查シ之ヲ定ム但シ必要アルトキハ試験ヲ行フコトアルヘシ

第六十三條 第十七條、第二十一條、第二十三條、第二十八條及第四十四條ノ規定ハ遠洋漁業科ニ之ヲ準用ス



特	技	趣味
備	考	
所	見	學校長ノ所見

年 月 日  
 學校所在地  
 學校長 氏 名  
 注意 學業成績及性行調査書ハ當該學校長ヨリ  
 直接所長へ提出スルヲ妨ケス

様式第四號

在學證書

印紙入  
(參錢)

私儀今般某科へ入學許可相成候ニ付テハ規則規程等固ク遵守シ専心  
 勉勵可致ハ勿論中途退學致ス間敷候仍テ在學證書如斯候也

本籍 族稱  
 家業 戶主又ハ世帯主トノ關係  
 現住所  
 年 月 日

何年何月何日生  
 右某儀今般入學許可相成候ニ付テハ同人ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ  
 於テ引受可申候也

本籍 族稱  
 職業 學生トノ關係(學生ノ父兄、親戚又ハ學費支給  
 現住所 人タル關係ヲ記スヘシ)  
 保護人 何 某  
 何年何月何日生  
 本籍 族稱  
 職業 學生トノ關係  
 現住所  
 保護人 何 某  
 何年何月何日生

水産講習所長何某殿

様式第五號

保護人變更届書

科第 學年學生

新保人證	
氏名	生年月日
現住所	
學生ノ續柄	

儀今般 候ニ付テハ 新ニ保證人ト相  
 定メ 下協力シ本人一身上ニ就テハ一切引受可申仍テ新舊保  
 證人連署此段及御届候也

年 月 日

舊保證人 何 某  
 新保證人 何 某

水産講習所長何某殿

様式第六號

入學願書

志望學科 第一 志望  
 第二 志望  
 第三 志望

私儀水産講習所専攻科へ入學致度左記書類相添へ此段相願候也

水産講習所長何某殿

左記

- 一 履 歷 書
- 一 寫 眞
- 一 體 格 檢 査 書

様式第七號

體 格 檢 査 書

族 籍 戶 主 又 ハ 世 帯 主 ト ノ 關 係

何 某  
 何年何月何日生  
 一 體 質 (強健、稍弱、弱)特別ナル事項ハ其ノ條件ヲ記ス  
 一 體 質 (甲、乙、丙) (最モ強健ナル者ヲ甲トシ之ニ亞ク者ヲ  
 乙トシ現ニ疾患ナキモ身體薄弱ナル者若ハ著シキ疾  
 歴ヲ有スル者ヲ丙トス)

様式第八號

在學證書

私儀今般専攻科某科へ入學許可相成候ニ付テハ規則規程等固ク遵守  
 シ専心勉勵可致ハ勿論中途退學致ス間敷候仍テ在學證書如斯候也

本籍 族稱  
 家業 戶主トノ關係

現住所  
年 月 日  
何 某  
何年何月何日生

水産講習所長何某殿

第四 水産講習所處務規程

明治三十七年一月二十三日  
訓令 第三三號  
（沿革）明治四一年一月訓令第四〇號  
大正八年九月訓令第二〇號  
昭和四年四月訓令第二號改正

- 第一條 水産講習所ニ教務課及庶務課ヲ置ク
- 第二條 教務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 入學、退學及試験ニ關スル事項
  - 二 教授會ニ關スル事項
  - 三 學生ノ訓育及取締ニ關スル事項
  - 四 寄宿舎ノ取締ニ關スル事項
  - 五 圖書及標本ニ關スル事項
  - 六 其ノ他教務ニ關スル事項
- 第三條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 官印ノ保管ニ關スル事項
  - 二 所員ノ進退身分ニ關スル事項
  - 三 所内取締ニ關スル事項
  - 四 文書ノ接受、發送及保管ニ關スル事項

五 豫算、決算及會計ニ關スル事項

六 國有財産及物品ニ關スル事項

七 他課ノ主掌ニ屬セサル事項

- 第四條 所長水産講習所規則ヲ定メ又ハ之ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 所長處務細則又ハ水産講習所規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設ケタルトキハ之ヲ農林大臣ニ報告スヘシ
- 第六條 所長ハ毎年事業ノ成績ヲ農林大臣ニ報告スヘシ

第五 水産講習所處務細則

昭和四年四月改正

第一章 總 則

- 第一條 所務ハ所長ノ決裁ヲ經ルニ非サレハ之ヲ施行スルコトヲ得ス但シ輕易ナルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條 教務課ニ教務、學生、圖書及標本ノ四係ヲ置キ庶務課ニ文書及會計ノ二係ヲ置ク

第三條 課ニ課長、係ニ主任ヲ置キ所管事務ヲ處理セシム  
所屬職員ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其ノ事務ニ從事スヘシ  
第四條 分掌セル事務ノ相關聯スルモノハ合議スヘシ  
第五條 所長ハ重要ナル事務ニ關シ必要アリト認ムルトキハ關係職  
員ノ會議ヲ開クコトアルヘシ

## 第二章 事務分掌

第六條 教務課教務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル  
一 學生ノ募集、入學、退學及休學ニ關スル事項  
二 學籍及學生ノ身上ニ關スル事項  
三 學生ノ試験、成績考査、進級及卒業ニ關スル事項  
四 漁場、製造及養殖各學科間ノ連絡統一ニ關スル事項  
五 學科課程及授業時間配當ニ關スル事項  
六 學生ノ所外ニ於ケル實驗、實習及調査ニ關スル事項  
七 卒業生ニ關スル事項  
八 教授會ニ關スル事項  
九 參觀人ニ關スル事項  
一〇 講堂、教室、學生控所及教具ノ設備及整理ニ關スル事項  
一一 教務ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項  
一二 儀式ニ關スル事項  
一三 其ノ他教務ニ關スル事項  
第七條 教務課學生係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル  
一 學生ノ訓育及賞罰ニ關スル事項

四 標本ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項  
五 其ノ他標本ニ關スル事項  
第十條 庶務課文書係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル  
一 御眞形及勅語謄本ノ保管ニ關スル事項  
二 官印ノ保管ニ關スル事項  
三 所員ノ進退、身分ニ關スル事項  
四 所員ノ出勤簿管理ニ關スル事項  
五 所員ノ出張及諸願届ニ關スル事項  
六 公文書ノ接受及發送ニ關スル事項  
七 諸規則ノ制定及改廢ニ關スル事項  
八 庶務ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項  
九 他課ノ主掌ニ屬セサル事項  
第十一條 庶務課會計係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル  
一 歳入歳出ノ豫算及決算ニ關スル事項  
二 金錢ノ出納及保管ニ關スル事項  
三 物品ノ出納及保管ニ關スル事項  
四 國有財産ノ管理ニ關スル事項  
五 廳舎其ノ他ノ營繕ニ關スル事項  
六 會計ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項  
七 守衛、給仕、小使等ノ備罷、賞與及監督ニ關スル事項  
八 宿直ニ關スル事項  
九 所内取締ニ關スル事項  
一〇 其ノ他會計ニ關スル事項

二 學生ノ風紀取締ニ關スル事項  
三 學生ノ衛生保健ニ關スル事項  
四 學生ノ集會、揭示及印刷物ニ關スル事項  
五 學生ノ勤惰ニ關スル事項  
六 學生ノ願届ニ關スル事項  
七 學生ノ兵籍ニ關スル事項  
八 學生ノ寄宿舎入退ニ關スル事項  
九 寄宿舎ノ取締ニ關スル事項  
一〇 學生取締ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事  
項  
第八條 教務課圖書係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル  
一 圖書ノ出納、整理及保管ニ關スル事項  
二 研究報告及圖書目錄ノ編纂ニ關スル事項  
三 圖書ノ貸付ニ關スル事項  
四 書庫及閱覽室ノ整理取締ニ關スル事項  
五 圖書委員會ニ關スル事項  
六 圖書ノ交換及配付ニ關スル事項  
七 圖書ニ關スル公文書ノ立案及其ノ整理保管ニ關スル事項  
八 其ノ他圖書ニ關スル事項  
第九條 教務課標本係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル  
一 標本ノ出納、整理及保管ニ關スル事項  
二 標本室ノ整理取締ニ關スル事項  
三 標本ノ貸付ニ關スル事項

## 第三章 文書取扱

第十二條 公文書ハ總テ庶務課文書係ニ於テ接受シ受付簿ニ接受ノ  
番號、年月日ヲ記入シ所長ノ檢印ヲ受ケ各主管ニ配付スヘシ但シ  
親展文書ハ封緘ノ儘宛名ノ者ニ交付スヘシ  
第十三條 前條ニ依リ配付ヲ受ケタル文書ハ各主管ニ於テ之ヲ成案  
ト爲シ庶務課長ヲ經テ所長ノ決裁ヲ受クヘシ但シ處分又ハ回答ノ  
要ナシト認ムルモノハ所長ノ閱覽ニ供スヘシ  
第十四條 成案ニシテ他ノ主管ニ關係アルモノハ之ト合議スヘシ  
合議後成案ヲ改廢シタルトキハ更ニ合議ノ手續ヲ爲スヘシ  
第十五條 文書ハ一事件毎ニ終始同一ノ番號ヲ付シ且ノ其起端ヨリ  
完結ニ至ル迄之ヲ一括シテ綴綴スヘシ  
第十六條 決裁ヲ經タル文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ文書係主任  
ニ於テ淨書校合シ發送ノ手續ヲ爲スヘシ  
前項ノ文書ニ添付スヘキ別紙及圖表等ハ各主管ニ於テ作成シ原案  
ニ添付シ置クヘシ  
發送ヲ終リ又ハ發送ヲ要セサル成案文書ハ保存ノ手續ヲ爲スヘシ  
第十七條 本所ノ主管ニ屬セサル文書ハ文書係ニ於テ轉送又ハ返戻  
ノ手續ヲ爲スヘシ  
第十八條 接受シタル公文書ニ有價證券、印紙又ハ物品等ヲ添付シ  
タルモノアルトキハ其旨ヲ帳簿ニ記入シ文書ト共ニ主管ニ配付シ  
テ受領者ノ檢印ヲ受ケヘシ  
第十九條 所員名ヲ以テ發送スル文書ハ必ス封筒ニ官氏名ヲ記シ主

任ノ檢印ヲ受クヘシ  
市外通話料ヲ要スル電話通信ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ會計係主任ノ承認ヲ受クヘシ

第二十條 所員ノ進退及賞罰ニ關スル事項ハ之ヲ機密事務トシテ取扱フヘシ

第二十一條 處分完結シタル文書ハ各主管ニ於テ左ノ類別ニ從ヒ保存スヘシ

- 一 永久保存
- 二 請達及報告書類等ニシテ例規徴證ニ供スヘキ重要文書
- 三 拾年保存
- 四 壹年以上拾年以内參照ノ必要アリト認ムル文書
- 五 壹年保存
- 六 一時ノ措辦ニ係ル文書

### 第四章 會計

第二十二條 物品ノ購入、修繕又ハ人夫ノ傭入ヲ要スルトキハ物品取扱主任ニ於テ請求書ニ必要ノ理由ヲ記シ當該課長又ハ主任ノ檢印ヲ受テ庶務課會計係ニ回付スヘシ

### 第五章 雜則

第二十三條 所員ハ出勤時限迄ニ出頭シ自カラ出勤簿ニ捺印スヘシ  
第二十四條 病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出勤スルコト能ハサルトキハ速ニ届出ツヘシ但シ病氣缺勤七日以上ニ及ブトキハ療養期間ヲ記

載シタル醫師ノ診斷書ヲ差出スヘシ

第二十五條 看護、歸省、墓參、轉地療養又ハ旅行ノ爲請暇セムトスルトキハ事由ヲ具シテ許可ヲ受クヘシ

第二十六條 出張ノ命ヲ受ケタル者ハ其ノ出發又ハ歸所ヲ届出テ遲滞ナク復命書ヲ差出スヘシ但シ簡單ナル事項ニ關シテハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第二十七條 忌ニ服スル者ハ其ノ事由及死亡者トノ親族關係ヲ記載シタル届書ヲ差出スヘシ

第二十八條 父母ノ祭日ニ請暇セムトスル者ハ豫メ届出ツヘシ  
第二十九條 改名、轉籍、轉居、改印其ノ他身分ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第三十條 官廳其ノ他ヨリ本所ヲ經由セスシテ辭令書ヲ受ケタルトキ其ノ事項ノ履歷上ニ關係アルモノハ其ノ寫ヲ添ヘ之ヲ届出ツヘシ

第三十一條 本所ニ本務ヲ奉スル者ハ所長ノ許可ヲ受ケルニ非サルハ他ノ職務ニ從事スルコトヲ得ス

第三十二條 轉任、退官若ハ休職ヲ命セラレタルトキハ其ノ擔任事務ニ關シ説明書ヲ作り後任者若ハ所長ノ指定シタル所員ニ引繼キ授受者連署ヲ以テ届出ツヘシ

第三十三條 非常事變アルトキハ速ニ出頭シ直ニ臨機ノ處置ヲ爲スヘシ

第三十四條 所員ニ傳達スヘキ事項ハ通知簿又ハ書面ヲ以テ課長及主任ニ通知ス、課長及主任ハ之ヲ所屬職員ニ傳達スヘシ

## 第六 水産講習所教育規程

昭和四年五月制定

第一條 本所ニ左ノ學科ヲ置キ各學科ニ主任ヲ置ク

- 一 漁撈學科
- 二 製造學科
- 三 養殖學科

第二條 學科主任ハ左ノ事項ヲ掌ルモノトス

- 一 關係各教室ノ連絡ニ關スルコト
- 二 當該學科ノ教育ノ統一ニ關スルコト

第三條 本所ニ左ノ教室ヲ置キ各教室ニ主任ヲ置ク

- 一 漁撈學教室 製造學教室 養殖學教室
- 二 物理學教室 化學教室 法制經濟學教室
- 三 語學教室 數學教室 機械學教室
- 四 海洋學教室 動物學教室 植物學教室
- 五 細菌學教室

航海學、運用品及漁船學ハ漁撈學教室ニ水産商學、製造學教室ニ魚病學、土木學、地質學、蕃殖保護論、水質學及餌料學ハ養殖學教室ニ氣象學ハ物理學教室ニ商業概論ハ法制經濟學教室ニ機關學ハ機械學教室ニ湖沼學及漁場學ハ海洋學教室ニ浮游生物學ハ動物學教室ニ屬セシム

第四條 教室主任ハ當該教室ニ關シ左ノ事項ヲ掌ルモノトス

- 一 教授分擔ニ關スルコト

二 教授要旨及細目ノ作製ニ關スルコト

三 教科書及參考書ノ選擇並編纂ニ關スルコト

第五條 教務課長ハ教育ノ綜合統一ヲ掌ルモノトス

第六條 本所ニ學生取締主任及學生取締ヲ置キ左ノ事項ヲ擔當セシム

- 一 學生ノ指導及訓育ニ關スルコト
- 二 學生ノ風紀取締ニ關スルコト
- 三 寄宿舎ノ整理保安ニ關スルコト

第七條 各學級ニ學級主任ヲ置キ當該學級ノ學生ニ關シ左ノ事項ヲ擔任セシム

- 一 所規命令ノ實行ニ關スルコト
- 二 學業ノ獎勵並其ノ向上ニ關スルコト
- 三 操行、保健並思想ノ指導監督ニ關スルコト
- 四 其ノ他當該學級ノ學生ニ關スルコト

第八條 學科主任、教室主任、學生取締主任、學生取締及學級主任ハ所長之ヲ任命ス

第九條 各教官ハ左ノ事項ヲ擔任スルモノトス

- 一 學生ノ教授、指導及訓育ニ關スルコト
- 二 擔任學科目ノ教授要旨及細目ノ作製ニ關スルコト
- 三 學生ノ成績調査ニ關スルコト
- 四 入學試驗其ノ他臨時教務ノ事務ニ關スルコト
- 五 教科書及參考書ノ選擇及編纂ニ關スルコト

### 第七 水産講習所教授會規程

昭和四年五月制定  
同年十二月改正

- 第一條 本所ニ教授會ヲ置キ教授ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第二條 教授會ハ左ノ事項ヲ審議ス
  - 一 學科課程並其ノ實施ニ關スル事項
  - 二 學生ノ入學試験、進級及卒業並懲戒ニ關スル事項
  - 三 所長ノ諮問シタル事項
- 第三條 所長ハ教授會ヲ召集シ其議長トナル但シ所長事故アルトキハ教務課長之ヲ代理ス
- 第四條 所長ハ必要アリト認ムルトキハ助教授其ノ他ノ教官ヲ教授會ニ出席セシムルコトヲ得
- 第五條 教授會ハ教授半數以上出席スルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス、但シ在外研究員並公務出張中ノ者ハ其ノ留學期間又ハ出張期間之ヲ定員外ニ置クモノトス
- 第六條 教授會ノ決議ハ出席教授ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
- 第七條 教授會ニ附議セントスル事項アルトキハ教授ハ其ノ事由ヲ具シ文書ヲ以テ之ヲ所長ニ申請スルコトヲ得
- 第八條 緊急ノ必要アル場合ニ於テハ會議中出席教授過半數ノ同意ヲ得テ議案ヲ提出スルコトヲ得
- 第九條 教授會ノ事務ハ教務課長之ヲ擔任ス

- 第十條 教授會ノ決議ハ所長ノ決議ヲ經ルニアラサレハ其ノ効力ヲ生セサルモノトス
  - 第十一條 教授會ニ於テ調査ノ必要ヲ認メタル事項アルトキハ之ニ關スル委員ヲ設クルコトヲ得
- ### 第八 本科成績考查細則
- 昭和四年七月
- 第一條 學業成績ハ本所規則及本細則ニ依リ之ヲ考查ス
  - 第二條 學業成績ノ考查ハ各學科目ト所外ニ於ケル實驗、實習及調査ト二分チテ之ヲ行フ
  - 第三條 各學科目ノ學業成績ハ每學期試験ノ成績ト平素ノ成績トニ依リテ定メ之ヲ學期成績トシ學期成績ヲ平均シテ學年成績トス、但シ試験ヲ省略シタル學科目ニ付テハ平素ノ成績ニ依リ之ヲ定ム
  - 第四條 各學科目ノ學業成績ハ評點ヲ以テ之ヲ示シ一百ヲ以テ最高點トス
  - 第五條 各學科目ノ學業成績六十點以上ヲ得タル者ハ當該學年ノ學科目ヲ修了シタルモノトス
  - 前項ノ成績ヲ得サルモ各學科目ノ學年成績ノ總平均六十點以上ヲ得タル者ニシテ學年成績五十點未滿ノ學科目ナキモノハ教授會ノ議ヲ經テ當該學年ノ學科目ヲ修了シタルモノト認ムルコトアルヘシ
  - 第六條 追試験ノ成績ハ次學期授業開始ノ日ヨリ三週間以内ニ於テ施行シタルモノニ付之ヲ定ム

四〇

- 病氣其ノ他已ムヲ付サル事故ニ因リ前項ノ期間内ニ追試験ヲ受クルコト能ハサルモノニ付テハ教授會ノ議ヲ經テ認定點ヲ附スルコトアルヘシ
- 第七條 所外ニ於ケル實驗、實習及調査ノ成績ハ之ヲ優、良、可及不可ノ四ニ分チ學科課程ニ依リ各項毎ニ一科目トシテ評定シ不可ノ科目ハ次學年ニ於テ之ヲ再修セシム
- 次學年ニ於テ再修ヘルコト能ハサル場合ハ更ニ次學年ニ於テ之ヲ爲サシメ場合ニ依リテハ卒業ヲ延期シテ之ヲ爲サシム
- 再修セシメタル科目ニ付尙成績不可ナル者ハ教授會ノ議ヲ經テ本所規則第二十二條第三項ニ該當スルモノト認ムルコトアルヘシ
- 第八條 疾病其ノ他已ムヲ付サル事故ニ因リ當該學年中ニ履修シ得サリシ所外ニ於ケル實驗、實習及調査ハ次學年ニ於テ之ヲ履修セシメ尙同學年ニ於テ履修シ得サルトキハ前條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

### 附 則

本細則ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 第九 實習規程

明治三十年四月

- (沿革) 明治三十二年三月、大正二年六月改正
- 第一條 實習ハ本所及實習船又ハ本所指定ノ場所若ハ船舶ニ於テ從事セシム
  - 第二條 實習ノ事項及期限ハ學科課程ニ準據シ之ヲ定ム

- 第三條 實習ノ爲メ出張ヲ命ジタルトキハ其往復ノ旅費ヲ補給ス但シ本所實習場及試験地址ニ本所及實習場試験地ヨリ鐵道十六哩海里十海里以内ニ出張スル者及遠洋漁業科學生ニハ旅費ヲ支給セス
  - 第四條 實習ニ付テハ擔當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受クヘシ
  - 第五條 各組ニ組長副組長各一人ヲ設ケ其ノ組員ニ對スル通達其他ノ實習ニ關スル諸般ノ整理ニ任セシム
  - 第六條 實習中ハ規定ノ實習服ヲ着用スヘシ
  - 第七條 實習シタル事項ニ付テハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作成シテ擔當教官ニ差出スヘシ
  - 第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セムトスルモノアルトキハ其事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ受領スルヲ得ス
- ### 第一〇 實習船規程
- 目下改正審議中
- #### 第一一 圖書及標本ニ關スル規程
- ##### 一 圖書標本委員會規程
- 明治四十五年四月二十三日
- 第一條 圖書標本委員會ハ左ノ事項ヲ審議ス
    - 一 圖書標本ニ關スル規則ノ制定及改廢ニ關スル件
    - 二 圖書標本ニ關シ所長ヨリ諮問ノ件

四一



- 第二條 委員會ハ圖書標本委員ヲ以テ組織ス
- 第三條 委員ハ各科、課及教務掛職員ノ内各一名ヲ以テ之ニ充ツ委員 所長之ヲ命シ委員長ハ委員中ノ首席者ヨリ所長之ヲ命ス
- 第四條 委員長ハ圖書標本委員會ノ議長トナリ其事務ヲ處理ス
- 第五條 圖書及標本主任ハ委員會ニ列席ス委員長ハ必要アリト認ムルトキハ其ノ他ノ本所職員ヲ列席セシムルコトヲ得
- 第六條 委員會ノ決議ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス
- 列席職員ハ決議ノ數ニ加ハラス

二 圖書保管規程

明治三十年六月

(沿革) 明治三十二年三月、同三十八年八月改正

- 第一條 本所ノ圖書ハ圖書掛圖書取扱主任ニ於テ之ヲ保管ス
- 第二條 圖書ハ各部門ヲ別チ番號ヲ附シ點檢ノ便ニ供スヘシ
- 第三條 圖書原簿ヲ製シ之ニ書名編著者名部門番號冊數ヲ記載スヘシ
- 第四條 圖書出納簿ヲ製シ出入ヲ記載スヘシ
- 第五條 圖書ハ毎年一回若ハ二回原簿ト對照シ之方點檢ヲ爲スヘシ
- 第六條 點檢ノ際ハ圖書ノ補綴又ハ曝涼ヲ爲スヘシ
- 第七條 寄贈ニ係ル圖書ハ目錄ヲ製シ所長ニ供覽シ保存スヘキモノト否ラサルモノトヲ定メ且謝狀ヲ送ルヘキモノハ其手續ヲ爲スヘシ

三 圖書借覽規程

明治三十六年六月

(沿革) 明治三十二年三月、同三十八年八月改正

- 第一條 圖書ハ本所職員及囑託員ニ限リ借覽ヲ許ス
- 但シ職員囑託員其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用圖書ヲ返納セシム
- 第二條 圖書ヲ借覽セントスルモノハ書名、部門、番號、冊數ヲ記シ官職氏名ヲ署シ捺印、上各部長又ハ各科掛主任ノ檢印ヲ受ケタル規定ノ借用證ヲ圖書取扱主任ニ差出スヘシ
- 第三條 圖書借用期限ハ通常三十日トス尙ホ繼續セントスルトキハ各部長又ハ各科、掛主任ノ承認ヲ得タル上圖書掛へ借用延期ノ請求ヲ爲シ圖書取扱主任ノ承認及檢閱ヲ受クヘシ

一 在外研究員規程

大正十一年一月二十一日 勅令 第六號

- 第一條 主管大臣ハ其ノ主管事故ニ關シ須要ノ學術技藝ヲ研究セシムル爲メ在外研究員ヲ外國ニ派遣スルコトヲ得
- 第二條 在外研究員ハ選拔ニ依リ主管大臣之ヲ命ス
- 第三條 在外研究員ノ研究事項、在留國、在留期間、其他必要ナル事項ハ主管大臣之ヲ指定ス
- 第四條 在外研究員ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ學資金巡歷手當及旅費ヲ支給ス
- 特別ノ事由アルトキハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ前項ニ定ムルモノノ外特別手當ヲ支給スルコトヲ得
- 第五條 學資金及巡歷手當ハ別表ニ依ル但シ官吏ニ非サル者ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別表ニ準シテ之ヲ定ム
- 第六條 學資金ハ最初ノ在留地到着ノ翌日ヨリ歸朝ノ途ニ就ク前日迄月割及日割ヲ以テ之ヲ支給ス
- 在留國間移轉ノ場合ニ於テハ前在留地ヲ出發シタル日ノ翌日ヨリ後在留地ニ付定メタル學資金ヲ支給ス
- 第七條 各地ヲ巡歷研究スル場合ニ於テハ旅費ヲ支給セス巡歷手當ヲ支給ス
- 第八條 旅費ハ本邦在留國間往返ノ場合又ハ在留國間移轉ノ場合ニ於テ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ本人相當ノ鐵道賃、船賃、車

第一二 在外研究員ニ關スル 規程及勅令

- 第四條 平常各部又ハ各科掛ニ備置クヘキ圖書ハ各部長又ハ主任ヨリ證書ヲ差出シ六箇月ナ一期トシ借用スルコトヲ得
- 第五條 前條圖書ハ所外ニ携出スルコトヲ許サス
- 但シ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス
- 第六條 補綴又ハ曝涼其他圖書整理ノ爲メ一時各部、科、掛備付ケノ圖書ヲ返納セシムルコトアルヘシ
- 第七條 貴重ノ圖書辭書類ハ閱覽室外ニ携出ヲ許サス
- 但シ閱覽ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 他廳ヨリ圖書借用ノ申込アルトキハ圖書取扱主任ハ所長ヘ稟議ノ上許可ヲ定ムヘシ
- 第九條 他廳ヨリ圖書借用ノ必要アルトキハ圖書取扱主任ニ於テ所長ヘ稟議ノ上借入及返還ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第十條 借用者圖書ヲ返納スルトキハ同時ニ本人ニ證書ヲ返戻スヘシ
- 第十一條 借用ノ圖書ヲ汚損又ハ紛失シタルトキハ修繕ヲ加ヘ又ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシメ若クハ相當代價ヲ辨償セシムルコトアルヘシ
- 第十二條 借用者ニシテ前條ノ義務ヲ果ササル間ハ圖書ノ借覽ヲ許サス

馬賃、日當、宿泊料、食卓料及支度料ヲ支給ス

第九條 外國在留中特別ノ任務ニ従事スル場合ニ於テハ外國旅費規則ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ旅費ヲ支給スル場合ニ於テハ學資金及巡歷手當ハ之ヲ支給セス

第十條 外國旅費規則中死亡手當ニ關スル規定ハ在外研究員ニ付之ヲ准用ス

第十一條 學資金及巡歷手當ハ前金拂ヲ爲スコトヲ得但シ學資金ニ付テハ六月分ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 在外研究員ヲ命セラレタル官吏ハ本邦出發ノ日ヨリ歸朝ノ日迄之ヲ定員外ト爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ定員外トナリタル者ニハ俸給ヲ支給セス但シ時宜ニ依リ其ノ俸給ノ三分ノ二以內ヲ支給スルコトヲ得

第十三條 特別ノ事情アルトキハ官吏ニ非スシテ在外研究員ヲ命セラレタル者ニ年額二千五百圓以內ノ家族手當ヲ支給スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第一項ノ規定ニ依リ定員外トナリタル在外研究員ニ之ヲ准用ス但シ同條第二項ノ規定ニ依リ受クル金額ト家族手當ノ額ト合シテ俸給ノ三分ノ二ヲ超ユルコトヲ得ス

第十四條 在外研究員ハ歸朝ノ日ヨリ外國在留期間ノ二倍ニ相當スル期間主管大臣ノ指定シタル職務ニ従事スル義務ヲ負フモノトス

但シ歸朝チナサシメスシテ直ニ外國ニ在勤ヲ命シタル場合ニ於テハ其ノ期間ハ在勤ヲ命シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第十五條 在外研究員主管大臣ノ命ニ違背シタルトキ又ハ成業ノ目

途ナキニ至リタルトキハ之ヲ免スルコトヲ得

第十六條 第十四條ノ義務ヲ履行セス又ハ前條ノ規定ニ依リ研究員ヲ免セラレタル者ノ受ケタル學資金巡歷手當特別手當及旅費ハ之ヲ償還セシム但シ特別ノ事情アルトキハ其全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第十七條 特別ノ事情ニ因リ本令ニ依リ難キ場合ニ於テハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ學資金及巡歷手當ニ關シ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十八條 本令中主管大臣ノ職務ハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東州ニ在リテハ關東長官、樺太ニ在リテハ樺太廳長官之ヲ行フ

附 則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(以下略ス)

二 戰時事變ノ際ニ於ケル文部省海外留學生等定員ニ關スル勅令

大正三年十月七日勅令第二百三十號

在官者ニシテ文部省外國留學生又ハ水産講習所在外研究生ヲ命セラレタルモノ戰時事變ノ爲留學國ニ在留スルコト能ハスシテ歸朝シタルトキ又ハ本邦ヲ出發スルコト能ハサル場合ニ於テ定員ヲ超過スルトキハ其ノ留學殘期間又ハ留學期間ニ相當スル期間之ヲ定員外ニ置

ハ保證人連署テ以テ後者ハ委員ノ連署ヲ以テ届出ツヘシ

第八條 入舍又ハ退舍ヲ爲サムトスルモノハ三日以前ニ保證人連署ノ上願出ツヘシ

第九條 物品ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ其情狀ニヨリ之ヲ修補又ハ辨償セシム

第十條 寄宿舎舍費及食費ハ時價ニヨリ之ヲ定ム

前項ノ舍費及食費ハ毎月五日迄ニ納付スヘシ

第十一條 寄宿舎生ニシテ本規程又ハ規約ニ違背シ其他寄宿舎生タル本分ヲ守ラサルモノハ其情狀ニヨリ退舍ヲ命ス

クコトヲ得

前項ノ規程ニ依リ定員外ニ置キタル者ハ本務ニ従事セシメ學術技藝ヲ研究セシムルコトヲ得

第一項ノ場合ニハ豫算ノ範圍内ニ於テ俸給ノ全部ヲ支給ス

### 第三三 寄宿舎規程

明治三十年四月

(沿革) 明治三十三年三月大正一三年四月改正

第一條 寄宿舎生ハ學生取締ノ監督ヲ受クヘシ

第二條 寄宿舎生ハ本規程ニ基キ規律衛生及食事等ニ關スル規約ヲ設ケ所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ

第三條 本規程及ヒ規約ノ實踐ヲ期スルタメ寄宿舎ニ委員及室長若干名ヲ置ク

前項ノ委員ハ寄宿舎生中各科各學年等數ヲ室長ハ各室ニ於テ之ヲ互選シ所長ニ届出ツヘシ

第四條 寄宿舎ハ毎年夏期休業中ハ之ヲ閉ツルモノトス但シ閉舎期間ハ時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第五條 寄宿舎生ハ定期或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受クヘシ

前項人員點檢時刻ハ規約ニ於テ之ヲ定メシム

第六條 寄宿舎生ニシテ時限外ニ外出セントスルモノハ許可ヲ受クヘシ

前項外出時限ハ規約ヲ以テ之ヲ定メシム

第七條 外泊又ハ時限内ニ歸舍シ得サルモノハ其事由ヲ詳記シ前者

### 第三節 職員

(昭和四年十一月末日現在)

所長

理學博士 岡村金太郎

教授

植物學、養殖論(藻類)

農林技術師 岡村金太郎  
理學博士 日暮忠

養殖論(淡水養殖、餌料水質) 養殖法實習

養殖學科主任、養殖學教室主任  
養殖科第四學年學級主任

生物化學、食品化學

化學教室主任、製造科第四學年學級主任

動物學、組織發生學、動物學及組織發生學實驗

動物學教室主任、養殖科第一學年學級主任  
教務課長、漁撈學科主任

數學、物理學實驗

物理學教室主任、數學教室主任

植物學、同實驗  
天然餌料實驗

植物學教室主任、標本係主任、養殖科第二學級主任

化學

機械學、貯藏論

機械學教室主任

法規

法制經濟學教室主任

農學博士 大山川 洵  
理學博士 寺尾 新  
兼農林技師 杉浦 保吉  
理學博士 田內 森三郎  
理學博士 東道 太郎  
農學博士 大谷 武夫  
水產學士 富 栴  
工學士 富栴 建造  
兼農林事務官 梶原 茂嘉  
法學士 梶原 茂嘉

漁撈論(漁具、同材料同實習)

漁撈學教室主任、學生係主任、學生取締主任  
漁撈科第一學年學級主任

食品論、製造化學、同實驗

製造學科主任、製造學教室主任、學生取締  
製造科第三學年學級主任

法規

庶務課長、文書係主任、圖書係主任、學生取締

法規

製造科第一學年學級主任

物理化學、化學、同實驗

製造科第一學年學級主任

數學、氣象學

製造科第一學年學級主任

土木學、測量術

製造科第一學年學級主任

土木測量製圖

製造科第一學年學級主任

漁船製圖(西洋型)

製造科第一學年學級主任

漁船製圖

製造科第一學年學級主任

水產通論

製造科第一學年學級主任

技師

漁撈學、同實習

白鷹丸漁撈主任、同一等運轉士

航海學、同實習、運用

白鷹丸船長

長棟暉友

深山義道

兼農林事務官 安心院助一

兼農林事務官 須田立

理學博士 松生義勝

理學博士 岡田光世

農林技師 橋英三郎

農林技師 堀江武夫

農林技師 三浦正

兼教授 山中川甚藏

農林技師 山下田奎一

農林技師 山本靜一

農林技師 柴戶雅一

農林技師 村山敏三

農林技師 清水隆道

農林技師 山口慶四郎

農林技師 野島休五

陸軍步兵少佐 掘井富太郎

兼農林屬 今村與作

兼農林屬 小石安一

兼農林屬 角英悅

兼農林屬 篠山武次郎

兼農林屬 海老名謙一

配屬將校

近衛步兵第四聯隊附

陸軍步兵少佐 掘井富太郎

助教授

法規

學生取締

化學、同實驗

學生取締

漁船論(日本型)、同製圖、漁撈論(漁具)

學生取締

動物學、同實驗

學生取締、養殖科第三學年學級主任

製造化學、製造大意  
製造法實習  
製造化學、食品論

技手

航海學

漁撈科第三學年學級主任

機械學、機關學  
機械製圖設計

航海學、運用學

白鷹丸二等運轉士

製造化學、食品論

製造科第二學年學級主任

屬

會計係主任

囑託

五〇

川口武男  
小谷和夫

兼農林技師 田中耕之助

堀重藏

大森節夫

新野二郎

岩本正一

農林技師 杉坂博

石塩甚二郎

岩崎甚左衛門

平田馬男

修身

地質學

海洋學、湖沼學、漁場論  
浮游生物學

海洋學教室主任

貯藏論

機械學

食品論、化學實驗

物理學

經濟學

鹹水養殖、蕃殖保護論

機關學、同實習

白鷹丸機關長

救急療法

白鷹丸船醫

英語

英語

白鷹丸二等機關士

植物學、同實驗

東京帝國大學教授 深作安文

東京帝國大學教授 加藤武夫

理學博士 丸川久俊

水產試驗場技師 木村金太郎

水產試驗場技師 源生一太郎

水產試驗場技師 山本祥吉

水產試驗場技師 木村喜之助

理學士 羽原又吉

理學士 妹尾秀實

理學士 猪股真清

文學士 土屋菊次郎

文學士 山內爲之輔

文學士 小川竹男

文學士 飛田仁助

理學士 恩田經介

英作文、簿記、商業概論

漁撈論、運用學

漁撈科第二學年學級主任

器具實習

白鷹丸一等機關士

機關學、同實習

語學教室主任

英語、獨逸語

無線電信電話事務兼白鷹丸事務長

運用學實習

救急療法

動物學、同實驗

細菌學教室主任

動物生理學

細菌學、同實驗

組織發生學、同實驗

水產商品學

植物學

動物學

魚病學

輸入水產食料品學

商學士	棚橋鐘一郎
文學士	庵原順一
文學士	加藤欽吾
文學士	相原一郎介
醫學得業士	尾島勘次郎
醫學士	北村銀平
醫學士	森潤三郎
水產學士	後藤幸男
農學士	田中友三
農學士	大槻清三
農學士	殖田三郎
農學士	川本信之
農學士	石塚源之進
農學士	中井信隆
農學士	大槻房吉
農學士	和田強
農學士	中川勉

## 第二章 敷地、建物及諸設備

### 第一節 敷地及建物

創設以來新築増築又ハ改築等幾多ノ變遷ヲ經テ大正十二年度ニハ建坪五千六百六十餘坪ナリシカ同年九月一日ノ大震大火ノ災害ニ罹リ完備セル諸建物ノ内四千六百十餘坪ハ烏有ニ歸シ教室(物理教室、同實驗室、準基室、製圖室)化學試驗部、海洋調査部、冷蔵庫、機械實驗室、等ノ諸棟五百五十餘坪ヲ殘セリ之レカ應急トシテ大正十三年三月殘存建物ノ内改築等ヲ要スルモノヲ除キ二百五十餘坪ヲ修葺シ教室及實驗實習室、事務室並ニ寄宿舎等一千八百餘坪ヲ新築セリ、尙復舊工事ニ就テハ大正十四昭和元年度ニ於テ敷地ノ盛土ヲ完了シ建築物ハ昭和二年度ニ於テ試驗部機械工場一棟(一〇〇坪)同四年度ニハ漁撈、製造實習場一棟並附屬建物(計五四四坪三七五)ノ建設ヲナシ尙引續キ教室、實驗實習室、講堂等ノ設計中

### 第二節 諸設備

#### 一 船 艇

##### 白鷹丸

本船ハ實習船雲鷹丸ノ代船トシテ建造セルモノニシテ鋼製二層重甲板ヲエルエンドロンクアブ型總噸數一、三二七噸七八神鋼型四衝程

無空氣噴油式ターセル機關七〇〇馬力ニ達付速力十三節半ノ雙螺旋槳船ニシテ神戸川崎造船所ニ於テ昭和三年十二月十五日起工シ同四年八月六日進水同十月試運轉ヲナシ十一月八日東京ニ廻航シ學生ノ實習ニ供セリ

其構造大要ハ船橋ハ操舵室、海圖室、航具室トシ船橋樓ハ船長室、無線電信電話室、準器室トシ船首樓ハ水夫室、厨夫室、水夫夫食堂、水夫浴室等トシ長船尾樓ハ士官室、應接室、士官食堂、醫務室、病室、研究室、標本室、網具貯藏室、暗室、浴室等トシ、第二甲板上ハ船首ヨリ水夫夫室、漁獲物製造室、漁具庫、魚網攤室、冷凍機室、學生室、學生食堂兼教室、學生讀書室等トシ第二層甲板下ハ船首ヨリ鐵鎖庫、冷蔵庫、漁獲物倉庫、燃料油槽、淡水槽、機關室、食料品庫、學生荷物庫等トシ船底ハ二重底トシテ之ヲ淡水槽、燃料油槽トシ學生ノ實習上遺漏ナキナリ期セリ、今其重要設備ノ種類、能力、容量等ヲ列學セハ大要左ノ如シ

漁機艇	長三十二呎、幅九呎半、五〇馬力發動機付	二隻
同	長二十三呎、幅六呎半、二〇馬力發動機付	二隻
旋網	浮子行三百二十五間	一統
流網		約二百反
鮪延繩		約二百鉢
蟹刺網		約三千反
發電機		五〇キロ 二臺 一〇キロ 一臺
電動揚船機		七噸 一臺
電動揚貨機		五噸 一臺

同	一噸五	二臺	
罐詰機械 真空式		一式	
冷凍機 炭酸瓦斯復効式	製氷	一臺	
魚糧機 大野式熱風型十時間製品	約二噸	一臺	
音響測深機 アドミラルタイプ型深海用(四五〇〇尋)		一臺	
電動測深機 ケルビン式(五〇〇尋)		一臺	
サル型測程儀		一臺	
電導測程儀		一臺	
無電方向探知機(テレフンケン型)		一臺	
同 (敷島電機型)		四臺	
ナイイロコンパス(ブラウン式A型)		一組	
自動交換電話 十三箇所用		一式	
無線電信電話装置(真空バルブ式)		一式	
操舵装置(ヒルシヨウ式テレモーター)		一式	
活動寫真機(高速度用撮影及映寫)		一式	
海洋調査及生物學實驗器具		一式	
淡水槽	容量約	一八〇噸	
燃料油槽	容量約	四〇〇噸	
活魚槽	容量約	七噸	
土官寢臺		一八個	
學生寢臺		五〇個	
水火夫寢臺		四二個	
支水隔壁		九ヶ所	

雲鷹丸

五四

本船ハ鋼製二層重甲板三橋「パーク」型帆船ニシテ總噸數四百四十四噸ニアリ船尾樓及船首樓ナ有シ三聯成表面冷汽機ノ補助機關ナ備ヘ汽力平均速力九哩ナリ

本船ハ明治四十一年五月大阪鐵工所ニ於テ建造ニ著手シ同四十二年二月進水シ三月試運轉ナナシ五月東京ニ廻航シ同月三十日ヨリ學生ノ實習、漁業試驗ノ外、漁場及海洋調査等ニ使用シ來リタルモ老齡航海ニ堪ヘサルニ依リ昭和三年度ニ於テ當所構内ニ繋船シ陸上橋ノ代用トシテ學生ノ實習用ニ供セリ

青鵬丸

本船ハ大正十四年六月九日陸軍省運輸部ヨリ保管轉換ヲ受ケタルモノニシテ大正十年六月三重縣度會郡大湊市川造船所ニ於テ進水シタシニ橋ケツチ型帆船ニシテ補助機關トシテ五十馬力ディーゼル發動機ナ有シ長六十四呎幅十五呎五深六呎二總噸數三十二噸九八、登簿噸數九噸〇九ナリ

本船ハ學生實習並ニ漁業攻究ノ用ニ供セリ

一 實習場及實驗場

館山實習場

館山實習場ハ實習船ノ繫泊及出入ニ便ナル千葉縣安房郡館山ニ設ケ

一般漁具、船具等ヲ備ヘ漁撈實習、氣象觀測及漁具ノ製作、設計修理等ノ實習ニ供ス本實習場ハ敷地、建物共從來借入レ使用セシモノナリシモ大正十一年度ニ於テ之ヲ買收シ尙別ニ實習室及寄宿舎等ノ新營ヲナシタリ

小田原實習場

小田原製造實習場ハ神奈川縣小田原町ニ設ケ明治三十三年四月起工シ同年八月竣工以來一定ノ期間學生ヲシテ製造ノ技術練習ノ傍ラ自ラ經濟ヲ擔當シ企業ノ實際ニ練熟セシムル所トス

大正六年ニ至リ自働罐詰機械ヲ設置シ猶ホ同十年度講習部擴張ニ伴ヒ製罐工場及事務室ヲ増設セリ、次テ大正十二年九月一日ノ大震災ニ依リ教官室七坪五合ヲ除ク外全部倒壊シタルニヨリ直チニ復舊工事ニ着手シ十三年三月ニ至リ之ヲ完成シ十五年六月十日物置一棟(九坪)ヲ新築セリ

高島實驗場

千葉縣館山高島實驗場ハ鹹水産生物ニ就キテ其生理、發生、蕃殖ノ方法、人工孵化等ノ實驗ヲナサシメ以テ其一般ニ通セシムルヲ主トシ又海洋ノ調査、浮游生物研究、氣象觀測等ニ從事セシム而シテ此等ノ目的ヲ達センカ爲メニ孵化室活洲並試驗室ヲ設ケ又氣象觀測室及寄宿舎ヲ附設セリ、孵化室ハ、桁行五間梁間三間ノ石造平家建ニシテ内部ヲ「タタキ」トシ小形ノ「アクリウム」ヲ設ケテ魚貝類ノ習性其他ヲ研究スルノ便ニ供フ活洲ハ孵化室ノ西側ニ突出セル岩角ノ一

金澤實習場

明治四十二年以來神奈川縣久良岐郡金澤灣内ニ牡蠣種付場ヲ設ケ牡蠣改良蕃殖試驗ヲ爲シ大正二年及三年ニ於テ更ニ夏島及金澤灣内ニ養蠔場、實入場ヲ増設シテ牡蠣蕃殖ノ實習ニ供フ尙昭和二年三月二十三日敷地一三一坪ヲ買收セリ

五五

水産講習所敷地及建物坪數比較表

總坪數	敷地		建物
	所有地	借入地	
二一,五三〇・八	二〇,〇〇〇・〇〇	延	四,一四四・七九
本所	一七,七一九・六		三,三三三・七五
館山實習場	二,六〇〇・〇〇		三,六〇〇・〇〇
小田原實習場	一,〇〇〇・〇〇		二,四〇〇・〇〇
同 寄宿舎	一〇〇・〇〇		八〇〇・〇〇
高島實驗場	一	二,六六一・〇〇	一〇〇・〇〇
金澤	一三・〇〇		三六・〇〇

### 第三章 研究成績

昭和四年三月本所組織改正ノ結果從來ノ試驗部及海洋調査部ニ屬スル事務ハ舉ケテ新設ノ水産試驗場ニ移セルヲ以テ爾後本所ハ各教室ニ於ケル研究ノ成績ニ就テ其概要ヲ發表スルコト、セリ

但シ昭和三年九月一日ヨリ同四年三月末ニ至ル本

所組織改正前ノ試驗及海洋調査ノ兩部事業ノ概要ヲ左ニ摘録ス

#### 一 海洋調査部

##### (一) 海洋ノ調査

(イ) 細密の調査、調査船ハ大正十一年度以降從來施行シ來レル普遍的横斷觀測ノ外本邦沿海ヲ五海區ニ分チ各海區ノ細密ナル調査ヲ行フコト、ナリタリ。

底質及底棲生物ノ調査ハ大正十五年度ヲ以テ其第一海區即チ青森縣尻矢崎ヨリ千葉縣洲ノ崎ニ亘ル沿海ノ調査ヲ終リ、昭和二年夏期第二海區及第三海區ノ一部ヲ調査シタルカ以後昭和二年十一月及昭和三年六、七、八月ニ亘リ第二海區ノ一部及第三海區ヲ調査シタリ、即チ、昭和三年夏期迄ニテ太平洋岸ノ青森縣尻矢崎ヨリ鹿兒島縣佐多岬ニ亘ル海區ノ全部ニ就キ本調査ヲ終了セリ。

(ロ) 普遍的沖合及内灣横斷觀測 引續キ地方連絡各官衙及團體ノ熱心ナル協力ニヨリ本邦沿海ノ沖合及内灣ノ横斷觀測資料ヲ綜合シテ海況ト漁況トノ關係ヲ調査セリ。

(ハ) 沿海定地觀測 沖合ノ海洋狀態ト沿岸海水ノ變化トノ關係ヲ究メンカ爲メ引續キ連絡地方官衙燈臺測候所並ニ特志家ニ委嘱シテ全國沿岸ニ亘ル定地觀測ノ資料ヲ綜合シテ調査ヲ行ヒツ、アリ。

##### (二) 生物ノ調査

(イ) 浮游生物ハ引續キ連絡府縣其他ノ採集ニヨル資料ニ就キ調査ヲ行ヒツ、アリ。

(ロ) 重要魚族ノ調査ハ引續キぶり、さば、かつをいわし其他ノ生態的調査ニ從事シ、ぶり、さばニ就キテハ、島根、石川、富山、秋田、高知、三重、福井、諸縣ト連絡シテ其標識放流ヲ行ヒ來レリ。

(ハ) 底棲生物ノ調査ハ蒼鷹丸採集ノ資料ハ逐次其

##### (二) 協議會及報告

(イ) 協議會 海洋調査主任職員事務打合會ハ其第十回ヲ昭和三年五月十四日ヨリ同十八日迄五日間本所ニ開催シ、海況ト漁況トノ關係ニ關スル議題ニ就キ相互ニ其研究ヲ交換シ猶今後モ引續キ其研究結果ヲ持寄り考究スルコト、ナリタリ。

(ロ) 報告 本所及連絡地方官衙ノ施行セシ調査材料ハ之ヲ集録シテ毎月海洋圖ヲ印刷シ昭和四年三月ヲ以テ第百十五號ニ達シタリ。

又三ヶ月毎ニ海洋調査要報ヲ編纂シ昭和二年十二



月迄ノ分ニテ其第四十五報ニ達セリ。

## 二 試驗部

### (一) 漁撈試驗

#### 鮪延繩試驗

(イ) 鮪延繩漁法ニ就テ擬餌使用ヲ試驗シ必スシモ不可能ナラサルヲ認メタルモ官制ノ變更ニ伴ヒ三月末日ヲ以テ中止セリ。

(ロ) 延繩、流網漁業等ニ對シテ最モ確實ナル目標燈ヲ考案スルノ目的ヲ以テ蓄電池ヲ利用セル浮標電燈ヲ考案試驗シ良好ノ成績ヲ得、當業者ニ其利用ヲ推奨シツ、アリ。

#### 漁撈基本試驗

(イ) 底曳網構造ノ改良試驗ハ前年ニ繼續試驗ノ管ナリシモ官制ノ變更ト共ニ中止セリ。

(ハ) 網絲防腐試驗ハ各種染料ニツキ引續キ試驗ヲナシツ、アリシカ官制ノ變更ト共ニ廢止セリ。

(ニ) 館山灣生物調査。館山灣ニ棲息スル各種水産動物ヲ採捕シ種類ノ査定並ニ其水平的及垂直的ノ分布ニ關シ調査中ナリ。

#### 淡水養殖

(イ) 溫水性魚類養殖試驗。本試驗ハ一昨年來愛知縣渥美郡牟呂吉田村牟呂ニ於ケル試驗池ニ於テ專ラ鰻兒ノ養成、鯉種苗改良ノ試驗ヲ爲シ且ツ餌料、水質等學術的ノ調査研究ヲ併セ行ヒ其一部分ハ既ニ報告セリ。

本年四月官制改正後ハ本試驗ヲ水産試驗場ニ移管シタリ。

(ロ) 冷水性魚類養成試驗。本試驗ハ長野縣北安曇郡平村海ノ口ニ於ケル本所養魚試驗場ニ於テ行ヒ專ラ左記事項ニ付試驗セリ。

一、鱒族池中養成試驗。池中養殖用鱒族親魚ノ適種選擇ノ爲メ虹鱒、河鱒、木崎湖鱒ノ三種ヲ養ヒ各種共種卵ヲ採取シ内虹鱒卵ノ一部ヲ拂下ケ

無電方向探知機

無電方向探知機ノ漁業上ノ實用價值ヲ試驗シ充分實用上ニ効果アルヲ認メ當業者ニ其ノ利用ヲ推奨シツ、アリ。

### (二) 養殖試驗

#### 生物調査

(イ) みちんこの蕃殖ニ關スル研究。みちんこの群衆増大ニツキ、溫度、蕃殖率、飼養水量、群居密度トノ關係ヲ研究セリ。又年齡ニヨル活力度ノ差ヲ明ニセリ。

(ロ) めだかノ産卵ニ關スル研究。群居密度ト産卵數トノ間ニハみちんこの蕃殖ニ於テ觀察タルト同様ノ關係アル事ヲ確メ水産講習所試驗報告二四卷一冊ニ發表セリ。

(ハ) 介類發生並ニ習性ノ研究。板甫牡蠣發生並ニ習性ノ研究ハ既ニ一部完了セルヲ以テ其成績ヲ水産講習所試驗報告二四卷五冊ヲ以テ發表セリ。

タリ、又飼育ニ要スル水量或ハ放養尾數ト成長歩留率等ノ關係ニ就テ試驗セリ。

二、冷水性魚族孵化試驗。卵及ヒ孵化後間ナキ稚魚ノ孵化飼育溫度或ハ水温變化ノ影響並ニ卵精ニ及ホス紫外線ノ影響及卵ニ及ホス振動ノ影響等ニ付研究セリ。

三、鱒ノ人工餌料ニ關スル試驗。鱒ノ餌料トシテ必要ナル各榮養素ニ關スル研究並ニ種卵用親魚ノ餌料中ニ含マル、脂肪ノ多寡カ卵ニ及ホス影響等ニ付試驗セリ。

四、湖沼ノ生産力調査。青木湖ニ於ケル生物調査ヲ爲シ同湖ニ放養セル「ヒメマス」ノ生態並ニ天然餌料ヲ研究セリ、又夏季ニ於ケル游泳水層ヲ調査シ張網ニ付漁業者ニ指導シタリ。

(ハ) 魚卵孵化適溫試驗。本試驗ハ本所内ニ於テ行ヒ「アユ」及ヒ「ワカサギ」ノ卵ノ發育上水温ノ影響ヲ研究セリ、其結果ノ一部ハ本所試驗報告第二十

三卷第五冊ニ掲載セリ。  
右試験ハ本年四月以後水産試験場ニ移管シタリ。  
鹹水養殖

(イ) まがき養殖改良試験。本邦在來ノ義蠣方法ヲ改良シ歐米産ノ如ク其形狀大小並ニ肉身ノ充實ヲ均一ニシ個數ヲ單位トシテ販賣シ得ル優良牡蠣ヲ作り養殖業發展ノ指導タラントシ、目下神奈川県金澤養蠣場ニ於テ新規ナル方法即チ垂下式養蠣法ヲ考案シ、立體的ニ海中ノ水層ヲ利用シ採苗、肥肉ヲ實驗シ頗ル良好ナル成績ヲ舉ケ既ニ神奈川県岩手、宮城、廣島、徳島、熊本、石川、静岡等ノ各地養蠣場ニ於テ此方法ヲ試験スルモノ續出スルニ至レリ、是レ全ク在來ノ地床ニ貝殻ヲ撒キテ養殖スルモノニ比シ、肥肉ノ優良ナルノミナラス貝ノ成長モ亦迅速ナルヲ以テナリ。尙引續キ養蠣場ノ水質、水溫、潮水ノ疎通、並ニ水中ニ存スル牡蠣餌料等何レモ牡蠣ノ附着、生長並ニ肉身肥滿ニ

ツキ重要ナル關係ヲ有スルヲ以テ此等養殖上基礎的研究ヲ繼續セリ、而シテ四月以降官制ノ改正後ハ學生ノ實習ヲ主トシ、併セテ教授上必要ナル研究ヲ副トシ作業スルニ至レリ。  
(ロ) 板浦牡蠣ノ養殖試験。兵庫縣加古郡二見町ニ試験場ヲ設ケ板浦牡蠣ノ生態的研究並ニ採苗試験ヲ開始シタルニ稚貝ノ附着及ヒ成長佳良ニシテ目下飼育試験中。

(ハ) 海魚養殖試験。廣島縣豊田郡大長村ニ地ヲトシ養魚池ヲ設置シ目下海魚ノ蕃養及稚魚養成並ニ鯛ノ人工孵化試験ヲ施行中ナリ。而シテ四月以降以上ノ二見、大長試験場ハ官制ノ改正ト共ニ水産試験場ニ移管シタリ。  
魚病ノ研究  
魚病ニ就テハ内地滿鮮地方ニ流行スル細菌寄生ニヨル鼈傳染病ニ付其病原菌ノ分布、性質及其病理ノ一斑ニ付研究シ目下繼續中ナリ。

藻類養殖

海苔孢子附着ニ關スル研究。あかめノ孢子ニ關スル研究ハ昭和四年春期ニ於テハ適當ノ材料ヲ得ルコト能ハサリシヲ以テ不得止施行スルコトヲ得サリキ

(三) 製造試験

- (イ) 魚肉腐敗檢出ノ方法ニ關スル研究。前年度ニ引續キ試験中。
- (ロ) 本邦市販罐詰内細菌ニ關スル研究。前年度ニ引續キ試験中。
- (ハ) 罐詰試験。腐敗油燥蒲鉾罐詰ヨリ分離セル *B. Vulgatus* (*Flugs*) *Trevisan* ニ近似セル細菌ノ罐詰製造工程トノ關係ニ就キ引續キ研究中ニアリ
- (ニ) 鹽藏試験。鹽藏用食鹽ノ成分ト製造工程中ニ於テ魚肉化學成分ノ變化及滲透度ノ關係且又經濟的用量ヲ明ニセン爲メ前年度ニ引續キ試験中ニアリ。

(ホ) 海産動物油ノ檢定。前年度ニ引續キ海産動物油ニ就キ其性状ノ檢定ヲ行ヒツ、アリ。  
(ヘ) 海産動物油酸化速度ノ檢定。海産動物油ニ蛋白質及類似脂肪ノ共存スル場合ノ酸化速度ヲ檢定シツ、アリ。

(四) 化學試験

- (イ) 「プロタミン」ノ研究。前年度ニ引續キ新シキ「プロタミン」ヲ本邦産魚類ヨリ分離シ其研究ノ結果夫々名稱ヲ附シ些カ其ノ性質ヲ明ニセリ尙目下此方面ノ研究ニ從事シツ、アリ。
- (ロ) 「ニユークレイック」酸ノ研究。先年來ノ研究ノ續ニシテ「バチ」ノ「ニユークレイック」酸ヲ研究中ナリ。
- (ハ) 水産食料品ノ化學的研究數回報告セルカ之レ亦研究續行中。

(ニ) 水産哺乳動物ノ化學的研究。専ラ鯨ニ關シテ  
數次報告セルモ現今ハ之ト同時ニ他ノ哺乳動物ノ  
夫等ト對照スルニ勉メ試驗中ナリ。

(ホ) 水産動物ノ卵子ノ化學的研究。水産動物ノ精  
子ト相對應シテ化學的性質ノ闡明ヲ期シ此ノ方面  
ノ研究ヲ始メ既ニ「河鱒ノ發育期間ノ化學的變化」  
ノ第一報ヲ終リ次テ鱈ノ夫レヲ終リ又卵子ノ水溶  
性物質ノ研究ヲ「フグ」ニ就テ試ミタリ。

(ヘ) 水産動物ノ色素ノ研究。「ドラペラ」「アブリ  
シア」「ウニ」等ノ色素ノ分離ニ着手シ既ニ前二者  
ニ於テハ粗製物數種ヲ得テ精密ナル研究ニ進ミツ  
ツアリ。

(ト) 水産動物ノ肉蛋白組成ノ比較。前年度ノ繼續  
試驗中。

(チ) 肉蛋白ノ營養價ニ關スル試驗。前年度ニ引續  
キ本年度ハかに、「ロブスター」、牛、かつを等ノ鱈  
詰肉ニツキ試驗セリ。

(リ) 罐詰原料トシテ蛤、蜆ニ關スル化學的試驗。

已ニ產地及ヒ内臓、肉柱等各部分ニヨル鐵、硫黃  
等ノ含有量ノ比較ヲナセルカ引續キ季節ニヨル各  
成分ノ變移ニツキ調査セリ。

(ヌ) 鮭、鱒稚魚ノ飼育ニ關スル試驗。前年度ニ引  
續キ左ノ項目ニツキ試驗セリ。

- 一 成長度ト魚體成分トノ關係
- 一 魚體成分ニ及ホス日光ノ關係

一 餌料ト魚體成分トノ關係

(ル) 卵及ヒ稚魚ニ關スル研究。各地ニ於ケル鮭、  
鱒卵ノ孵化ヨリ稚魚ニ至ル期間ニ起ル生物化學的  
變化ニツキ研究セリ。

(ヲ) 牡蠣ノ「グリコーゲン」ノ季節的變移試驗。金  
澤養蠔場ヨリ毎月資料ヲ得テ分析セリ。

(ワ) 水産動物ノ筋肉ノ自家消化ニ關スル研究。魚  
肉ノ自家消化ニ關シテハ既ニ其ノ一部ヲ報告セル  
モ尙ホ更ニ各種ノ魚肉並ニ種々ノ水産動物ノ筋肉

ニツキ研究中。

(カ) 水産動物ノ消化酵素ニ關スル研究。各種ノ水  
産動物ノ消化酵素ニツキ研究中。

### (五) 漁船機械試驗

(イ) 漁船船型試驗。漁船ノ各種船型ニ對スル抵抗  
ヲ比較試驗シ其ノ船體ト之ニ据付クヘキ原動機ト  
ノ關係ヲ研究スルモノニシテ既ニ鯉漁船及手繰網  
漁船ヲ完了シ引續キ各府縣水産試驗場指導船ノ船  
型及鮪延繩漁船ノ船型ニツキ試驗セリ。

(ロ) 罐詰殺菌釜試驗。蒸氣殺菌釜加熱ノ理論ヲ考  
察シ電氣殺菌釜ニツキ試驗準備ヲナセリ。

(ハ) 魚糧乾燥機試驗。魚糧乾燥機トシテ「カール  
ニーゼン」式及「ミーキン」式等アリト雖モ未タ完  
全ナリト云フヘカラス依テ此種ノ乾燥ニツキ研究  
中ナリ。

第四章 圖書刊行物

明治三十二年以降本所ニ於テ刊行シタル試驗報告其他主ナルモノ  
ハ左記ノ通ニシテ昭和三年九月ヨリ同四年八月迄ニ編纂出版シタ  
ルモノハ試驗報告第二十四卷第一冊乃至第五冊、海洋調査要報第  
四十一報乃至第四十三報及海洋調査彙報第三卷第一冊第二冊ナリ  
(イ) 水産講習所試驗報告

第一卷

第一冊(三十二年三月)

- 浮子材料試驗第一回報告 川合角也
- 各種鰾肝油採取試驗第一回報告 伊谷以知二
- 海豚皮革試驗第一回報告 谷中知信
- 普通製鹽下洗取製鹽トノ成 農學士 小塚本道
- 分比較 農學士 野辰次郎
- 鯉魚温室及普通孵化試驗 農學士 藤田經信
- 鯉卵孵化水質適否試驗 農學士 日藤暮忠信
- 神奈川縣下牡蠣飼育試驗 農學士 藤田經信
- いたばかき蕃殖方法調査報告 農學士 藤田經信
- 多摩川香魚人工孵化試驗 農學士 大野石部芳他
- 第一回報告 オプアエロール 大野石部芳他
- 龍蝦孵化試驗第一回報告 オプアエロール 大野石部芳他

第二卷 (三十四年八月)

- 纖維試驗成績第一回報告 理學博士 岡村金太郎
- 天蠶絲製造試驗第一回報告 理學士 吉岡哲太郎
- 牡蠣養殖試驗第一回報告 農學士 藤田經信
- 附東京灣海水觀測表 理學士 藤田經信
- 鯉魚温室孵化並養試驗 農學士 今野部實吉
- 第一回報告 オプアエロール 今野部實吉
- わかめ蕃殖豫備試驗報告 理學博士 岡村金太郎
- あさくさのりニ關スル研究 理學博士 岡村金太郎
- 多摩川香魚人工孵化試驗 農學士 大野石部芳他
- 第二回報告 オプアエロール 大野石部芳他
- 龍蝦孵化試驗第二回報告 オプアエロール 大野石部芳他
- 漁網絲試驗第二回報告 農學士 内村達次郎
- ひらめ人工孵化試驗報告 農學士 藤田經信

第三卷 (三十八年五月)

- 鱈節製造改良試驗 伊谷以知二
- 魚類寒天包藏試驗 鍋島健
- 煮干製法改良並養試驗 內村達次郎
- 生牡蠣輸出試驗 理學士 妹尾秀實
- 獨逸種革鯉及本邦種鱈鯉成長比較試驗 日暮忠
- 靜岡縣てんぐさ蕃殖試驗 理學博士 岡村金太郎

第四卷 (四十一年一月)

- あさくさのり移殖試驗報告 理學博士 岡村金太郎
- てんぐさノ構造ヲ論シテ 理學博士 岡村金太郎
- 寒天質ノ所在ニ及ブ 理學博士 岡村金太郎
- 本邦產浮游生物ノ一部(伊豆ニ於テ) 丸川久俊
- ル燒脚類(和英兩文) 谷口利三
- 日本產絲鱈ニ就テ 徳久三
- 多摩川あゆ一尾ノ消化器官ヨリ得タル硅藻ノ一部(和英兩文) 徳久三

第五卷

- 第一冊(四十一年六月) 菊池健
- 鰾肝油採取試驗報告 工學士 小野辰次郎
- 第二冊(四十二年三月) 理學士 吉岡哲太郎
- 漁業用鹽試驗報告第一 理學博士 岡村金太郎
- 第三冊(四十二年三月) 理學博士 岡村金太郎
- 貝殼利用試驗 丸川久俊
- 第四冊(四十二年三月) 理學博士 岡村金太郎
- 鹽漁場調査 農學士 鎌田武造
- 第五冊(四十二年三月) 農學士 西村寅三
- 鍊流網漁業試驗 農學士 西村寅三
- 網糸ノ單寧ノ染劑ニ依ル 農學士 西村寅三
- 防腐染色試驗 農學士 西村寅三
- 同 其二 農學士 西村寅三
- 冷蔵貨車鮮魚輸送試驗(自第一回至第三回) 農學士 伊谷以知二

第六卷

- 第一冊(四十三年三月) 菊池健
- 鰾肝油採取試驗報告(第二) 越田德次郎
- 第二冊(四十三年三月) 理學博士 越田德次郎
- 勸察加半島產鱈鯉魚類調査報告 理學士 川合角也
- 第三冊(四十三年四月) 理學博士 川合角也
- 綿網絲織方ノ優劣試驗報告第一 理學博士 伊谷以知二
- 輸出向鹽藏製法試驗報告 理學博士 伊谷以知二
- 魚皮魚鱗水膠製造試驗報告 理學博士 小野辰次郎
- 鰾飼育試驗報告 理學士 妹尾秀實
- 赤潮ノ調査 理學士 丸野青木

第七卷

- 第一冊(四十四年一月) 理學士 妹尾秀實
- 餌料蠶養網活洲試驗報告 理學士 柳小尾直



第二冊(大正三年八月)

鍊糖粕製造ニ際シテ得  
タル糖熱汁ノ成分並  
糖粕ノ價格及其利用法  
鍊糖粕殘渣利用試驗

水膠製造試驗報告

鳥賊墨汁利用試驗

海産皮製試驗報告

製革上石灰灰劑トシテ鱧内臓ノ利用

石灰灰劑トシテ柔魚内臓ノ利用

第三冊(大正三年十二月)

鱧節研究第四回以下第十回

「ヒスチン」ニ就テ

海産物ノ腐敗ニ就テ

鱧節製造法ニ就テ東北五  
縣出張報告

附介類素汁報告

第四冊(大正四年三月)

鱧節内容物ニ於ケル熱傳導  
ノ状態試驗

鱧節内熱傳導ノ理論

適度ニ充填セル鱧節ノ熱ノ傳導状態  
ト加熱セル鱧節ノ熱ノ減減スル状態  
ト比較ニ就テ

附飲食物被掩材料ノ性質ト  
微菌侵害トノ關係

第五冊(大正四年三月)

網ニ對スル水ノ抵抗ノ研究  
第一次報告

農學士 松井秀三 耶

農學士 松井秀三 耶

農學士 池田晏 健

理學士 池田晏 健

農學士 菊池健 健

農學士 菊池健 健

農學士 川川 洵

農學士 川川 洵

農學士 川川 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

農學士 山山 洵

第六冊(大正四年三月)

養殖魚類利用試驗第一回報告

第十一卷

第一冊(大正四年七月)

布良船延繩漁船設計

ソコロフ式乾燥機試驗

新式卷縮機械及液状護膜試驗

自記乾燥計

第二冊(大正四年十二月)

駿河灣産蠶繭調查報告

重要蠶類調查第二報告

瀬戸内海調査

海藻蕃殖用岩掃除器

第三冊(大正五年二月)

養魚餌料試驗報告

大正二年度冬水町養魚池鯉産卵孵化成績  
大正三年度冬水町養魚池鯉産卵孵化成績  
丸沼養魚試驗池水質調査報告

附 録

ツンツ氏魚類呼吸作用實驗器說明書

第四冊(大正五年三月)

寒天原料ノ成分ニ就キテ第  
一報

鱧ノ肉眼鑑定ノ標準  
ノ化學的解釋

鱧假漬ノ際得ラルル廢物ニ  
就キテ

鱧詰トセルたらばかに肉ノ黑  
變ニ於ケル含硫黃物ノ分解ニ  
就キテ

鱧詰トセル鰻肉ノ軟化ニ就  
キテ第一報

まがきトいたばがキノ比較

臘肉ノ研究第一報

小蝦鱧詰製造調査及ヒ軟化  
ノ原因及防止策

第四冊(大正五年九月)

鱧油質試驗報告

第五冊(大正五年十二月)

淡水飼養魚類ノ白點病調査  
報告

本邦産鯉ノ「ふいらりあ」病  
觀察

赤潮ニ就テ

海水中ニ溶解セル酸素瓦斯  
含量ニ就キテ

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

伊谷知二 耶

第十二卷

第一冊(大正五年六月)

新シキ「プロタミン」ニ就キ  
テ

第二冊(大正五年七月)

網ノ染法網糸ノ腐敗網糸ノ  
材料ニ就テノ研究試驗報告

第三冊(大正五年八月)

柔魚鹽辛ノ成熟並ニ貯藏中  
ニ於ケル窒素化合物ノ分解  
及ヒ之ニ對スル食鹽ノ影響  
ニ就キテ

乾海苔ノ價格及ヒ淺草乾苔  
ノ品質ト成分ニ就キテ

東京灣ニ於ケル海苔場ノ海  
水ノ窒素及ヒ其他ノ成分ニ  
就キテ

魚肉ノ研究

寒天ニ混入セル砂土鑑別ニ  
就キテ

鱧ニ就テ

「シラス」鱧運搬試驗

第五冊(大正五年三月)

館山灣ニ於ケル浮性魚卵並ニ其稚兒

第六冊(大正五年三月)

鱧詰傳熱試驗報告

丸川久 俊

川村久 治 耶

神谷 尙 志

伊谷以知二 耶

田和 駒 吉 耶

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

山本 川 洵

赤湖海水中ノ酸素ニ就キテ  
海苔肥料試験第二報

水産學士  
酒井順三  
東野治太郎

第十三卷

第一冊(大正六年十月)

鱈油漬試験報告

理學博士  
小野辰次  
鈴木直辰

第二冊(大正六年十二月)

海苔色素試験第一報告

理學博士  
中野道太郎

第三冊(大正六年十二月)

てんぐさ成長試験

理學博士  
岡村金太郎

第四冊(大正七年三月)

鱈肉ノ研究

農學士  
松井秀三

鱈節研究(第十一回)

農學士  
山中井秀三

同 (第十二回)

農學士  
松井秀三

第五冊(大正七年三月)

鱈詰トセル鱈肉ノ軟化ニ就  
キテ(第三報)

農學士  
角松井秀三

鱈詰肉ノ雌雄ニ於ケル成  
分ノ相違

農學士  
角松井秀三

魚膠及ヒ食用「セラチン」中  
ノ無機鹽ニ就キテ

農學士  
角松井秀三

第一冊(大正八年七月)

干蟻毒害豫防ニ關スル  
研究(其一)

木村金太郎

第二冊(大正九年三月)

海産動物油ノ性状  
附海産動物油ノ發熱力及引火力

谷村重忠

第三冊(大正九年三月)

水産物ヲ基トスル調味料ノ研究

小野辰次  
藥野次輔

第四冊(大正九年三月)

水産講習所 養殖保護試験成績第二次報告

理學博士  
岡村金太郎

第五冊(大正九年三月)

鱈ノ成育ニ就テ

理學博士  
岡村金太郎

第六冊(大正九年三月)

鱈ノ成育ニ就テ

理學博士  
岡村金太郎

第七冊(大正九年十月)

動物ノ肉蛋白ニ就テ

農學士  
關根秀三

第八冊(大正十年十一月)

魚肉成分ト其呈味關係(第一回)

山本祥吉

第九冊(大正十年十二月)

鱈肉ノ研究(第二回)

山本祥吉

腐敗セルあげまきヨリ、ア  
トレンシ」ノ分離  
九州製紙會社排水ノ亞硫酸  
含量並ヒニ其致腐川ニ及ボ  
ス影響

農學士  
松井秀三  
角松井秀三  
悅郎

第六冊(大正七年三月)

養鱈試驗報告(第二報)

日暮忠

第七冊(大正七年三月)

養鱈試驗報告(第二報)

子爵田中阿歌麿

第八冊(大正七年五月)

發動機甲板操縱裝置

工學士  
春日信市

第九冊(大正七年十月)

水産講習所高島實驗場養殖  
保護試験成績第一次報告

理學博士  
岡村金太郎

第十冊(大正八年三月)

ほんだわら類ノ成長年限ニ  
就テ

理學博士  
岡村金太郎

第十一冊(大正八年三月)

養鱈場ニ於ケル海水及牡蠣  
ノ細菌學的検査

木村金太郎

第十二冊(大正八年三月)

伊勢蝦ノ發生ニ就テ  
(和英兩文)

理學士  
寺尾新

第十五卷

魚類ノ脂肪ニ存スル一種ノ  
「ピタミン」(脂溶性A)ニ就  
テ

農學博士  
關根秀三

動物肉蛋白ニ就テ(第二報)

農學博士  
關根秀三

魚類雌雄肉蛋白ノ相違

農學博士  
關根秀三

鮭明ヨリ稚鮭ニ至ル發育期  
間中ニ起ル生物化學的變化  
ニ就テ(第一報)

農學博士  
關根秀三

第三冊(大正十一年三月)

「イーストニユークレイツ  
ク」酸ニ就テ

農學士  
山川洵

第一冊(大正十一年七月)

魚ノ成育ニ關スル調査

理學博士  
岡村金太郎

第二冊(大正十一年八月)

館山灣調査報告

理學博士  
岡村金太郎

第三冊(大正十一年十月)

館山灣ニ於ケル浮性魚卵並  
ニ稚仔(第二報)

農學士  
長尾輝友

第四冊(大正十一年十月)

館山灣ニ於ケル浮性魚卵並  
ニ稚仔(第一報)

農學士  
長尾輝友

第五冊(大正十一年十月)

瀬戸内海ニ於ケル浮性魚卵  
並ニ其稚仔

農學士  
長尾輝友

第六冊(大正十一年十月)

瀬戸内海ニ於ケル浮性魚卵  
並ニ其稚仔

農學士  
長尾輝友

第四册(大正十二年一月)  
鮮魚冷蔵試驗報告(第一報)

第十九卷

第一册(大正十二年六月)  
第二回「プロタミン」の研究  
新シキ「プロタミン」ニ就テ  
(第二報)  
第二回「ニュークレイック」酸ノ研究  
「イースト、ニュークレイック」酸ニ就テ(第二報)  
魚類ノ齒門垂ノ蛋白質  
素ニ就テ(第一報)  
「タウリン」ノ沃化「カルシウム」  
鹽及「タウリン」ノ銅鹽ニ就テ  
(第一報)  
第二册(大正十二年六月)  
冷蔵セル原料ニテ醃節  
製造試驗報告(第一)  
第三册(大正十二年八月)  
魚肉ノ自家消化ニ就  
キテ(第一報)  
第三回「プロタミン」ノ研究  
新シキ「プロタミン」ニ就キテ  
(第三報)  
第四册(大正十二年七月)

水産調味料並復の美味ノ研  
究(第二報)  
第五册(大正十二年十一月)  
醃節ノ研究(第十三回)  
鹿兒島及沖繩縣下ニ於  
ケル醃節類調査報告  
第六册(大正十三年四月)  
大長養魚試驗場施設  
第七册(大正十三年三月)  
冷蔵セル原料ニテ醃節  
製造試驗報告(第二)  
第二十卷  
第一册(大正十三年七月)  
木崎養魚試驗場報告(第一報)  
第二册(大正十三年十一月)  
主トシテ冷庫庫ニ使用スル  
經緯材料ノ熱傳導率ニ就テ  
(和英兩文)  
第三册(大正十三年十一月)  
ふのりノ發生ニ就テ  
(和英兩文)  
第四册(大正十四年三月)  
簡述蠶繭機試驗  
(和英兩文)

第二十一卷

第一册(大正十四年八月)  
防水劑ヲ配合セル「モルム  
ル」ノ吸水ニ就テ  
(和英兩文)  
公魚卵孵化適温試驗  
(和英兩文)  
魚卵ノ孵化日數ト温  
度トノ關係  
(和英兩文)  
おごりの養殖ニ就テ  
(和英兩文)  
第二册(大正十四年十一月)  
網地ノ水中ニ於ケル抵抗ニ就テ  
(和英兩文)  
醃節ノ卵及精子ノ活力試驗

醃節魚最初ノ人工飼  
料ニ就テ(豫報)  
醃節及稚魚ノ酸素消費量ニ  
關スル試驗  
みつし(くん)ぶとなが(くん)  
ぶとなが(くん)ぶとなが(くん)  
第三册(大正十四年十二月)  
館山灣ニ於ケル浮性魚卵並  
ニ其稚仔(第三報)(第二圖版)  
北陸沿海ニ於ケル浮性魚卵  
並ニ其稚仔(第三、四圖版)  
第四册(大正十五年一月)  
たらばかに醃節原料トシテ堅  
甲蟹肉及軟甲蟹肉ノ優劣ニ就  
テ(附肩肉及脚肉ノ比較)  
煮熟用水ノ蟹肉ニ及ホス影  
響  
燈火ニ集ル魚群ニ就テ  
こけ(ご)ろも(い)は(か)きノ受  
精素ニ就テ  
ふなむし(漢名、海蛆)ノ生  
殖腺原基ニ就テ  
「ふたひ」州孵化ト温度及比  
重トノ關係  
第五册(大正十五年三月)  
魚肉ノ自家消化ニ就テ  
(第二報)







眞鯛卵ノ孵化ニ及ホス海水ノ温度ノ影響ニ就テ	理學士	梶山英二
眞鯛卵ノ孵化ニ及ホス海水ノ比重ノ影響ニ就テ	理學士	梶山英二
眞鯛らしはノ發育ニ及ホス海水ノ温度及比重ノ影響ニ就テ	理學士	梶山英二
魚卵ニ及ホス振動時間ノ影響ニ就テ	畑久三	
電流ニ依ル魚群ノ指導	理學士	岡田光世
板甫牡蠣ノ發生	理學士	妹尾秀實
生物ノ群衆増大ニ於ケル一相トシテノ相對的蕃殖率	理學博士	寺尾新
ほそめこんぶノ發生ト温度トノ關係ニ就テ	農學士	植田三郎
あさくさのりノ生活史ニ就テ	農學士	植田三郎

Articles in Foreign Language.

Marukawa, H.: Plankton-Organisms (Copepoda collected off the Coasts of Provs. Bōshū, Izu and Suruga.) of Japan, (Vol. IV. Jan. 1908)

Tokuhisa, M.: Examination of some Diatoms found in the digestive Organ of a Smelt (*Plecoglossus altivelis*) from the Tama River. (Vol. IV. Jan. 1908)

Okamura, K.: Some Littoral Diatoms of Japan. (Vol. VII. No. 4. Oct. 1911)

Terao, A.: On the Development of *Panulirus japonicus* (V. Siebold) (Vol. XIV. No. 5. Mar. 1919)

Hoshino, S., Tauti, M., Miyake, Y.: Thermal Conductivity of Cold Storage Insulators. (Vol. XX. No. 2. Nov. 1921)

Miyazaki, H.: On the Development of *Gloiopellis*. (Vol. XX. No. 3. Nov. 1924)

Hoshino, S., Ose, J., Hagiita, M.: The Lime Handler. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)

Seno, H., Tauti, M.: Apparatus for maintaining a Series of Constant Temperatures. (Vol. XX. No. 4. Mar 1925)

Seno, H., Kitagawa, M., Iwamoto, S.: The Effect of Continued Cold on the Viability of the Pterocercoid of *Diopatra cephalus latus* L. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)

Higurashi, T.: Optimum Water Temperature for hatching of the Eggs of *Plecoglossus altivelis* T. & S. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)

Terao, A.: The effects of Uranium Irradiation on the early Cleavage Stages of Oysters. (Vol. XX. No. 4. Mar. 1925)

Hoshino, S., Tauti, M., Miyoshi, K.: On the Absorption of Water by Water-Proof Mortars. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)

Higurashi, T.: Optimum Temperature for hatching the Eggs of *Hypomesus olidus* Pallas. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)

Higurashi, T., and Tauti, M.: On the Relation between Temperature and the Rate of Development of Fish-eggs. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)

Okamura, K.: On the Culture of *Gracilaria confervoides*. (Vol. XXI. No. 1. Aug. 1925)

Tauri, M., Miura, T., and Sugi, K.: Resistance of Plane Nets in Water (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)

Higurashi, T. and Nakai, N.: Optimum Water Temperature for hatching the Eggs of Carp. (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)

Nakano, S. and Nozawa, A.: On the Viability of the Eggs and Sperm of *Oncorhynchus masou* (Land-locked). (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)

Nakano, S.: An Experiment on the artificial food of the young Fry of *Oncorhynchus Masou* (Land-locked) A preliminary report (Vol. XXI. No. 2. Nov. 1925)

- Kawajiri, M.: On the Oxygen Consumption during Development of the Eggs and Fry of the Oncorhynchus Masou (Land-locked) (Vol. XXI. No. 2, Nov. 1925)
- Olanura, K. and Uyeda, S.: On *Laminaria angustata* Kjellm and *L. longissima* Miyabe. (Pl. I) (Vol. XXI. No. 2, Nov. 1925)
- Kamiya, T.: The Pelagic Eggs and Larvae of Fishes in the Taiyama Bay. (Prof. Ohlma). 3rd Report (Pl. II) (Vol. XXI. No. 3, Dec. 1925)
- Kamiya, T.: The Pelagic Eggs and Larvae of Fishes on the Coast of "Hokuriku" (Northwestern Part of Japan Proper.) (Pls. III; IV.) (Vol. XXI. No. 3, Dec. 1925)
- S. Kiné, H. and Kakizaki, Y.: Comparison of the meats of harder and softer Shell Crabs—*Paralichthys Camtschatica* (Tlesius). (Vol. XXI. No. 4, Jan. 1926)
- Sekine, H. and Kakizaki, Y.: Influence of cooking Water on Crab Meat. (Vol. XXI. No. 4, Jan. 1925)
- Tauti, M. and Hayashi, H.: On the Shoal of Fishes crowding toward a Lamp. (Vol. XXI. No. 4, Jan. 1925)
- Terao, A.: On the Fertilizin of *Ostrea circumplexa* Pilshry. (Vol. XXI. No. 4, Jan. 1926)
- Terao, A. and Tsung-zen-cheng.: On the Rudiments of Gonad of *Ligyda eroliza* (Roux). (Vol. XXI. No. 4, Jan. 1925)
- Seno, II., Ebina, K. and Okada, T.: Effects of Temperature and Salinity on the Development of the Ova of a marine fish, *Caldonus japonicus*. (C. & V) (Vol. XXI. No. 4, Jan. 1926)
- Oya, T., Sumi, E. and Shimada, K.: On the Autolysis of Fish Muscle. II. (Vol. XXI. No. 5, Mar. 1926)
- Higurashi, T. and Nakai, N.: Influence of the lower temperature on the development of the Eggs of *Pleoglossus albidus* T. & S. (Vol. XXI. No. 6, Mar. 1926)
- Terao, A. and Hiruma, T.: Temperature and Pinchyltrae or white Worms, *Eudyltraeus* sp. (Vol. XXI. No. 6, Mar. 1926)
- Sakô, N.: A new method of recording the Rolling and Pitching of ships. (Vol. XXI. No. 6, Mar. 1926)
- Okamura, K., Ueda, S. and Miyake, Y.: On the harmful Action of Deep-fog on *Porphyra tenera* Kjellm. (Vol. XXI. No. 6, Mar. 1926)
- Hori, J.: Notes on the full grown Larva and Spat of the Japanese common Oyster, *Ostrea Gigas* Thunberg. Pl. I. (Vol. XXII. No. 1, Jul. 1926)
- Nakai, N.: Eine neue Myxosporidien art aus Kiemen der Karpfens, Pl. II. III. (Vol. XXII. No. 1, Jul. 1926)
- Oya, T. and Sumi, E.: On the Autolysis of fish muscle. III. Formation of Ammonia. (Vol. XXII. No. 1, Jul. 1926)
- Oya, T. and Shimada, K.: On Glycoenzyme in the fish muscle. I. (Vol. XXII. No. 2, Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Ito, T.: Chemical study on the Marine Food. II. The nitrogen distribution and percentage of some Amino acids in the Muscle of the Shako, *Squilla oratoria* de Haan. (Vol. XXII. No. 2, Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Nakamura, N.: Chemical study on the Marine Mammal. III. 1. On the Pancreas of the whale. Insulin. (Vol. XXII. No. 2, Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Yoshimoto, M.: Chemical study on Prolamine IV. 1. On the Prolamines and Histones. (Vol. XXII. No. 2, Oct. 1926)
- Yamagawa, M., Mikawa, H. and Tomiyama, T.: Chemical study on the sperm of the Marine Mammal. I. 1. On the Fish-Testis. (Vol. XXII. No. 2, Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Ito, T.: Chemical study on the sperm of the Marine Animals. II. On the nucleic acid in Purilio Testis. (Vol. XXII. No. 2, Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Iwaka, B.: Chemical study on the sperm of the Marine Mammal. III. 1. On the Sperm of the Sardine. *Amblygaster Innaculatus*. (Vol. XXII. No. 2, Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Yasaka, S.: Chemical study on the Marine Mammal. IV. 1. On the inner organs of the whale. a. Spleen and Pancreas of *Iwashikujira*, *Balaenoptera borealis* (Lesson)
- Oya, T. and Harada, K.: On Amylase in *Pyloric coeca* of *Seriola quinqueradiata*. (Vol. XXII. No. 1, Jul. 1926)
- Sekine, H. and Akiyama, S.: On the Muscle Protein. III. Differences between the Muscle Protein of Male and Female Fishes and deferent kinds of muscle of them. (Vol. XXII. No. 1, Jul. 1926)
- Sekine, H.: On the muscle. Protein. IV. The nutritive value of the muscle Protein. 1. Comparison of fishes and mollusks. (Vol. XXII. No. 1, Jul. 1926)
- Sekine, H.: On the muscle Protein, V. The nutritive value of the muscle Protein. II. The amount of lysine in the muscle Protein and its effect on the growth of young rats. (Vol. XXII. No. 1, Jul. 1926)
- Yamagawa, M.: Chemical study on the Marine Food. I. On the Metabolism of Calcium and Magnesium of the Dog fed on Fish. (Vol. XXII. No. 2, Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Nishimura, S.: Chemical study on the Marine Mammal. I. 1. On the Adrenal of the whale. Adrenaline. (Vol. XXII. No. 2, Oct. 1926)
- Yamagawa, M. and Shibuya, Y.: Chemical study on the Marine Mammal. II. Hydrolysis of the muscular Protein of the whale, *Nagasukujira*, *Balaenoptera Physalus* (Linnaeus).

- (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)  
 Yamagawa, M., Nishimura, S. and Horinuchi, S.: Chemical study on the Sperm on the Marine Animal IV. 1. On the Sperm of "Bachi," *Ceraphegale Osawai* Iizuka. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)  
 Yamagawa, M. and Nogata, F.: Chemical study on Protamine. V. 4. On the new Protamines. (Vol. XXII. No. 2. Oct. 1926)  
 Senō, H., Hori, J. and Kusakabe, D.: Effects of Temperature and salinity on the development of the Eggs of the Common Japanese Oyster, *Ostrea gigas*, Thunberg. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)  
 Hori, J. and Kusakabe, D.: Preliminary experiments on the Artificial Culture of Oyster larvae. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)  
 Yamamoto, S. and Masuda, S.: On the chemical Change in the heat-drying of fish-muscle. I. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)  
 Monoki, Y.: On the Decomposition of Salted Fish muscle. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)  
 Yamamoto, T. and Sato, N.: A Simple Rolling Recorder and an Example of its use. (2nd Reports on "Rolling Recorder.") (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)  
 Higurashi, T. and Nakai, N.: On the Influence of lower Temperature upon the development of the Eggs of *Hypomemus olidus* Pallas. (Vol. XXII. No. 3. Dec. 1926)  
 Seno, H. and Hori, J.: A new method for the fattening of oyster. (Vol. XXII. No. 4. Feb. 1927)  
 Nakai, N. On the Influence of water temperature upon the Development of the Eggs of *Leuciscus hakuenis* Günther. Plate. V. (Vol. XXII. No. 4. Feb. 1927)  
 Yamagawa, M. and Nishimura, S.: Chemical study on the sperm of the marine Animal. V. On the Hydrolysis of Testis of Herring (Vol. XXII. No. 4. 1926)  
 Yamagawa, M. and Shibuya, Y.: Chemical study on the marine Food. III. On the Hydrolysis of Muscle-protein of *Sunki*, *Lateolabrax Japonicus*. (Vol. XXII. No. 4. Feb. 1927)  
 Kimura, K. and Kotani, K.: Ueber die Ursachen der Gaehrung des Uri-no-Shiwokara und deren Verbenkung. (Vol. XXII. No. 4. 1927)  
 Tauti, M.: On the Vacuum Drying of Fishes. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)  
 Tauti, M.: On the weakening of the Strength of Netting Cords in water. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)  
 Ōya, T. and Sumi, E.: On Autolysis of Fish muscle IV. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)  
 Ōya, T., Kawakami, M. and Suzuki, S.: On the digestive Ferment in the Pancreas of *anguilla Japonica*. (Vol. XXII. No. 5. Mar. 1927)  
 Ōya, T. and Hatanaka, S.: On the proteolytic Enzyme in the

- bylotic Coeca of Scomber Japonicus (Vol. XXII. No. 5. 1927)  
 Ōya, T. and Shimada, K.: On Glycogen in the fish-muscle II. (Vol. XXII. No. 5. 1927)  
 Uyeda, S.: On the cold-storage of the living fronds of "Asakusanori." Pl. I. (Vol. XXIII. No. 1. Aug. 1927)  
 Tauti, M.: On the heated-wind-drying of fishes. (Vol. XXIII. No. 1. Aug. 1927)  
 Tauti, M.: A study on netting cords. I. The strength of the netting cords against the repeated blow. I. (Vol. XXIII. No. 1. Aug. 1927)  
 Kawajiri, M.: On the preservation of the egg and sperm of *Oncorhynchus masou* (Walbaum) (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)  
 Kawajiri, M.: The Optimum temperature of water for the hatching of the eggs of trout, *Oncorhynchus masou* (Walbaum) (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)  
 Kawajiri, M.: On the relation between the temperature and the vitality of *Spirigyrus* sp. (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)  
 Miyake, Y.: On the plane nets. I. Resistance of plane nets in water. (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)  
 Tauti, M.: On the influence of temperature and salinity upon the rate of development of fish-eggs. (Vol. XXIII. No. 2. Oct. 1927)  
 Nakai, N.: On the development of a parasitic Copepod, *Lernaea elegans* Leigh-sharpe, infesting on *Cyprinus carpio* L. (With 7 Text figures and Plate II-IV) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)  
 Kawajiri, M.: On the optimum temperature of water for hatching the eggs of Rainbow trout (*Salmo trideus* (Gibbons)) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)  
 Kawajiri, M.: The influence of variation of temperature of water on the development of fish-eggs. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)  
 Hatt, K.: On the influence of four kinds of vibration upon the eggs of *Oncorhynchus Masou* (Brewort) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)  
 Uyeda, S.: Neue grüne Algen als Nahrung für die Schalenlarven der Auster. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)  
 Hori, T. and Kusakabe, D.: On the Artificial culture of oyster larvae (II) (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)  
 Uda, M.: Relation between the daily catch of fish and the meteorological elements.—Part. I. Statistical Studies in the influence of the motion of cyclone upon the fishing. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)  
 Tauti, M.: Studies of netting cords. II. Relation between the Load and the Elongation of netting cords. (Vol. XXIII. No. 3. Dec. 1927)

- Matsui, Y. and Kunikida, A.: Studies on Fish-disease. I. *Ikari-nushi* (*Lernaeus elegans* Leigh-Sharpe), A new parasitic copepod of Japanese Eel. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Matsui, Y. and Yamada, T.: On Nature of Water and Bottom of Fish-rearing ponds I. On a case of damage done to the cultivated fish by Acid-Soil. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Yamada, T.: On Nature of Water and Bottom of Fish-rearing-ponds II. Analytical table compiled up to the fiscal year 1926. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: Chemical Studies on the Silkworm-pupa as Fish-food. I. The difference of chemical constitution of Pupa on the sort of Silkworm. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: Chemical Studies on the Silkworm-pupa as Fish-food. II. The Digestion of Silkworm-pupa with Protease of Eels. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshira, S.: Chemical Studies on the Silkworm-pupa as Fish-food. III. A Chemical change of Stored Pupae. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Oshima, S.: On the seasonal change of the chemical constitution of muscle of Carps. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1927)
- Oshima, S.: On the chemical change of the Fels in the course of Fasting. (Vol. XXIII. No. 4. Feb. 1928)
- Fuji, K.: A new method of measuring the degree of vacuum in Vacuum Drying. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Tauti, M.: On the Influence of the Variation of Temperature of water up on the Hatch rate and the Hatching-days of Fish eggs. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Tauti, M. and Yasuda, H.: On the Action of Toxic Substances. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Nakai, N.: On the Influence of the Temperature upon the Hatching of eggs of *Plecoglossus altivelis*. T. & S. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Terao, A. and Tanaka, T.: Population Growth of the Water-flea, *Moina Macrocepa* Strauss. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Terao, A. and Tanaka, T.: Influence of Temperature up on the Rate of Reproduction in the Water-Flea, *Moina Macrocepa* Strauss. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Terao, A. and Tanaka, T.: Influence of Population Density upon the Rate of Reproduction in the water-flea, *Moina Macrocepa* Strauss. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Terao, A. and Tanaka, T.: Influence of Population Density upon the Egg-laying on the Fish, *Orizias latipes*. T. & S. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Kimura, K.: On the Detection of Fish-groups by an Acoustic Method. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Okada, M.: A Study on Brine Freezing of Fishes. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Packed can. (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Nakai, N.: On the influence of the water temperature upon the hatching of eggs of *Hypomesus olidus* Falas.—III. (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Hori, J.: On the relation between the temperature and vitality of the oyster preserved in the air. (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Tauti, M.: Studies of netting cord, III. The strength of netting cords against the Repeated Blow. (2) (Vol. XXIII. No. 5. Mar. 1928)
- Kawajiri, M.: The Influence of Variation of Temperature of Water on the Development of Fish-eggs. II. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Kawajiri, M.: On the Relation of Growth and Death from Starvation of the Trout Fry to Temperature. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Kawajiri, M.: On the studies of the Population-density of Cultured Fishes. I. On the Influence of Population-density of Fishes upon the Survival-rate and the Rate of Growth. (I) (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Ueda, S.: On the Preparation of "Asakusawori" from the Cold Storage Material. (Vol. XXIV. No. 1. Oct. 1928)
- Ueda, S. and Miyoshi, K.: On the Preparation of "Asaku anori" by

- Okada, M.: On the Action of electric Current on Fishes. I. Excitation and Narcosis. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Tauti, M. and Miyoshi, K.: On the Movement of a Fish-group. I. On the Direction of a Fish-group on passing the End of a Wall along which it has moved. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Tauti, M. and Hudino, T.: On the Movement of a Fish-group II. The Case when Fishes were barred from their progress by a Wall. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Tauti, M. and Yasuda, H.: On the Movement of a Fish-group. III. The Case when Fishes were barred from their Progress by a Net. (Vol. XXIV. No. 2. Feb. 1929)
- Horie, T, Sato, N., Gensho, I. and Yamamoto, T.: On the Resistance of Bonito Fishing Boat. (Vol. XXIV. No. 3. Mar. 1929)
- Horie, T, Sato, N.: On the Resistance of Teguriami Fishing Vessels. (Vol. XXIV. No. 4. Mar. 1929)
- Kajiyama, E.: On the Influence of Temperature upon the Development of Eggs of *Pagrosomus Major* (Temminck & Schlegel). (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)
- Kajiyama, E.: On the Influence of specific Gravity of Sea Water upon the Development of Eggs of *Pagrosomus Major* (Temminck & Schlegel) (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)
- Kajiyama, E.: On the Influence of the Temperature and specific

Gravity of Sea-water upon the Development of Larvae of *Parosomus Major* (Tumminck & Schlegel) (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)  
 Hata, K.: On the Influence of the Duration of Time of Vibration upon the Development of Fish-eggs. (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)  
 Okada, M.: Note on leading the Movement of Fish-groups by electric Current. (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)  
 Serô, H.: A Contribution to the Knowledge of the Development of *Ostrea Denselmelesi* Lischke. (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)  
 Terao, A.: Relative rate of Reproduction as a Phase of Population Growth of Organism. (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)  
 Ueda, S.: On the Temperature in Relation to the Development of the Gametophyte of *Laminaria Religiosa Miyabe*. (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)  
 Ueda, S.: On the Life-history of *Parhyra tenera* Kjellm. (Vol. XXIV. No. 5. Mar. 1929)

(口) 漁業基本調査報告

(第一、二、三冊ハ水産局刊行)

- 第四冊(大正四年三月)
- 第五冊(大正七年三月)
- 第六冊(大正七年九月)
- 第七冊ノ一(大正八年一月)
- 第七冊ノ二(大正八年二月)
- 第八冊ノ一(大正八年三月)
- 第八冊ノ二(大正八年三月)

(ハ) 海洋調査彙報

- 第一卷第一冊(大正十五年三月)
- 英文 同 (大正十五年九月)
- 第二卷第一冊(昭和三年三月)
- 英文 同 (昭和三年三月)
- 第三卷第一冊(昭和四年一月)
- 英文 同 (昭和四年一月)
- 第三卷第二冊(昭和四年三月)
- 英文 同 (昭和四年三月)

(ニ) 海洋調査要報

- 第一報(大正七年十月)

- 第二報(大正七年十二月)
- 第三報(大正八年三月)
- 第四報(大正八年六月)
- 第五報(大正八年十月)
- 第六報(大正八年十一月)
- 第七報(大正九年三月)
- 第八報(大正九年六月)
- 第九報(大正九年十月)
- 第十報(大正九年十二月)
- 第十一報(大正十年三月)
- 第十二報(大正十年七月)
- 第十三報(大正十年十月)
- 第十四報(大正十年十二月)
- 第十五報(大正十一年三月)
- 第十六報(大正十一年六月)
- 第十七報(大正十一年十月)
- 第十八報(大正十一年十二月)
- 第十九報(大正十二年三月)
- 第二十報(大正十二年六月)
- 第二十一報(大正十三年三月)
- 第二十二報(大正十三年三月)
- 第二十三報(大正十三年三月)
- 第二十四報(大正十三年六月)

- 第二十五報(大正十三年十月)
- 第二十六報(大正十三年十二月)
- 第二十七報(大正十四年三月)
- 第二十八報(大正十四年六月)
- 第二十九報(大正十四年十月)
- 第三十報(大正十四年十二月)
- 第三十一報(大正十五年三月)
- 第三十二報(大正十五年七月)
- 第三十三報(大正十五年九月)
- 第三十四報(大正十五年十二月)
- 第三十五報(昭和二年三月)
- 第三十六報(昭和二年六月)
- 第三十七報(昭和二年十月)
- 第三十八報(昭和二年十二月)
- 第三十九報(昭和三年三月)
- 第四十報(昭和三年六月)
- 第四十一報(昭和三年十月)
- 第四十二報(昭和四年一月)
- 第四十三報(昭和四年三月)

(ホ) 其ノ他ノ刊行物

獨伊地淡水養魚視察報告  
日本鮭鱒養殖誌

日 暮  
松 原 新 之 助

水産講習所圖書目錄(明治四十五年二月)

- 海産物ノ化學的研究(代勝寫) 農學博士 鈴木梅太郎
- 原種改良論(代勝寫) 理學博士 石川千代松
- 魚類冷蔵法 矢野實
- 海獸魚皮製法 谷村重忠
- 浮游生物檢索圖解
- 歐米鹹水養殖視察報告 理學士 妹尾秀實
- 海洋調査ト魚族ノ回游(大正七年五月)
- 加奈陀太平洋岸線大鮮漁業調査報告(大正八年三月)
- 水産製造ニ關スル 調査試驗研究項目及内容目錄並ニ抄録集(大正八年三月)
- 朝鮮天日製鹽調査報告書(大正八年三月)
- 浮游生物檢索圖說第二冊(大正十年三月)
- 魚團製造法(大正十年四月)
- 激震地方ニ於ケル海洋ト漁業其一(大正十二年十二月)
- 震災後ニ於ケル東京海灣ノ海洋並ニ漁業狀態調査概況
- 激震地方ニ於ケル海洋ト漁業其二(大正十三年三月)
- 震災後ニ於ケル相模灣及房總沿岸海洋調査概況
- 國際水産統計資料(大正十三年三月)
- 英文水産講習所一覽(大正十五年八月)
- 和文水産講習所圖書目錄(昭和三年七月)

(イ)

- American Museum Novitates.
- Annales des Naturalhistorischen Museum in Wien.
- Annals of the Manchuria Research Society.
- Annals of the South African Museum.
- Anzeiger der Akademie der Wissenschaften in Wien.
- Arbeiten der biologischen Station zu Kossino.
- Arbeiten der biologischen Station, Saratow.
- Arbeiten aus dem Fischerei-Institut der Universität Königsberg.
- Arbeiten aus dem Zoologischen Institut zu Graz.
- Archivos do Museu nacional do Rio de Janeiro.
- Arkiv for Zoologi.
- Aus dem Archiv der deutschen Seewarte.
- Bergens Museum Aarbok.
- Bergens Museum Aarsberetning.
- Bericht über des Zoologische Museum in Berlin.
- Boletim do Museu nacional do Rio de Janeiro.
- Bollettino dei Musei di Zoologicae Anatomia Comparata della R. Università di Genova.
- Bollettino di Pesca, di Piscicoltura e di Ittologia.
- Boston Society of Natural History—Memoirs.
- Bulletin.
- Proceedings.

Boston Society of Natural History—Occasional Papers.

- Bulletin of the Bureau of Applied Ichthyology.
- Bulletin of the Connecticut State Geological & Natural History Survey
- Bulletin of the American Museum of Natural History.
- Bulletin of the Pacific Ocean Scientific Fishery Research Station.
- Bulletin of the New York Zoological Society.
- Bulletin of the University of Nebraska.
- Bulletin of the Scripps Institution of Oceanography.
- Bulletin de la Société Centrale d'Aquiculture et de Pêche.
- Bulletin de l'Institut des recherches biologiques de Perm.
- Bulletin Suisse de Pêche et Pisciculture.
- Biological Bulletin of the Marina Biological Laboratory.
- Fish Bulletin of the California State Fisheries Laboratory.
- California Fish and Game.
- Contributions to Canadian Biology & Fishes.
- Contributions from the Biological Department of Clark University.
- Contributions from the Zoological Laboratory of Johns Hopkins University.
- Fischerhote.
- Fishery Board for Scotland—Annual Report.
- Fishery Investigations.
- Salmon Fisheries.
- Scientific Investigations.



- Hydrographic Review.  
 Illinois Health Messenger.  
 Illinois Health News.  
 International Review of the Science & Practice of Agriculture.  
 Jahresbericht der Deutsche Seewarte.  
 Jahresbericht über die Deutsche Fischerei 1927.  
 Journal of the Elisha Mitchell Scientific Society.  
 Journal of the Marine Biological Association of the United Kingdom.  
 Memoirs of the Indian Museum.  
 Memoria del R. Comitato Topografico Italiano.  
 Memorias del Instituto Español de Oceanografía.  
 Memoires de l'Université d'Etat à l'Extrême Orient.  
 Memoirs of the Museum of Comparative Zoology at Harvard College, Cambridge.  
 Mitteilungen aus dem Zoologischen Museum in Berlin.  
 Ministry of Agriculture & Fisheries—Fishery Investigations.  
 " —Scientific Investigations.  
 Norsk Fiskeritidende.  
 Nyt Magazine for Naturvidenskaberne.  
 Ny Svensk Fiskeritidskrift.  
 Papers from the Tongass Laboratory of Carnegie Institution of Washington.  
 Philippine Journal of Science.
- Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia.  
 Proceedings of the Birmingham Natural History & Philosophical Society.  
 Proceedings of the Royal Society of Edinburgh.  
 Proceedings of the Royal Society of Victoria, Melbourne.  
 Proceedings of the Sungai River Biological Station.  
 Economic Proceedings of the Royal Dublin Society.  
 Publications of the National Academy of Sciences, Washington.  
 Publicationer fra Universitetets Zoologiske Museum, København.  
 Records of the Indian Museum.  
 Report of the Department of Fisheries, Punjab, Lahore.  
 Report on Norwegian Fishery & Marine Investigations.  
 Report on the Zoological Survey of India.  
 Reports of the Scientific Institute of Fisheries, Moscow.  
 Report of the Fisheries & Marine Biological Survey, Union of South Africa.  
 Senckenbergiana.  
 Selected Contributions from the Peking Union Medical College.  
 Sitzungsberichte der Bayerischen Akademie der Wissenschaften zu München.  
 Sitzungsberichte der Preussischen Akademie der Wissenschaften, Berlin.  
 Technological Education Series of Technological Museum, Sydney.  
 A "Tanger",

- Transactions of the Linnean Society of London.  
 Travaux de la Station de Recherches relatives à la Pêche maritime, Ostende.  
 Travaux du Laboratoire Ichtyologique d'Astrakhan.  
 Travaux de la Station de Biologie Maritime de Lisbonne.  
 University of California Publications in Zoology.  
 University of Washington Publications in Fisheries, College of Fisheries.  
 U. S. Bureau of Fisheries—Annual Report.  
 " —Bulletin.  
 " —Economic Circular.  
 " —Document.  
 Verhandlungen der Naturforschende Gesellschaft in Basel.  
 Verhandlungen der Zoologisch-botanischen Gesellschaft in Wien.  
 Veröffentlichungen des Instituts für Meereskunde.  
 Wissenschaftliche Meeresuntersuchungen der Biologischen Anstalt auf Helgoland.  
 Year Book of the Academy Natural Sciences of Philadelphia.  
 Zoologia.

第五章 學生 (三百三十三名)

第一節 在學生氏名

一 本科 (三百二十七名)

漁撈科(百三十三名)

第四學年(三十四名)

伊藤喜代作	長崎	井山	勳	熊本
原田勝美	靜岡	時田	正	埼玉
富岡三郎	群馬	富澤	武雄	福島
折原丈男	神奈川	川上	三千雄	茨城
吉川淳	長野	高橋	廣太	長崎
高山重嶺	東京	種市	良正	青森
竹田繁夫	奈良	鶴田	三郎	神奈川
堤源一	福岡	上田	正喜	東京
松尾博	埼玉	小出	勳男	東京
小林格	新潟	小久保	政雄	東京
近藤仁三郎	新潟	江崎	實	熊本

第三學年(三十三名)

勅使河原	實	群馬	在原	千秋	千葉
安藤秀賢	香川	三井	所四郎	佐賀	
本部真之	京都	森田	未歲	東京	
瀨戶武	熊本	角南	貞雄	岡山	
黃文達	朝鮮	陳維	風	支那	
巫忠遠	支那	黃文	澧	支那	
伊池知勇	鹿兒島	伊澤	義一郎	栃木	
石黒庚戌	茨城	豐田	正謙	秋田	
富田正	愛知	李秉	綱	朝鮮	
大衛信三	岩手	渡邊	享	山口	
加藤忠臣	宮城	金子	睦雄	神奈川	
横尾保	佐賀	吉村	勇	宮崎	
武田文坪	東京	丹下	稔	愛媛	
辻野勇太郎	東京	辻	尚	佐賀	
永井敏	茨城	永野	和雄	長崎	
上田哲夫	富山	黒須	時夫	東京	

第二學年(三十六名)

山田純三郎	熊本	山口	九州男	佐賀
福田政信	香川	寺島	熊男	福岡
栗野幸吉	山形	有井	重信	山口
酒向昇	岐阜	北島	岬	福岡
木村喜次郎	愛知	森巳	太郎	福岡
關谷治郎	神奈川	仙波	林三	栃木
菅谷久	東京			
市島信郷	東京	半谷	武八	福島
新美廣秋	愛知	西山	惣平	埼玉
蓬萊喬	兵庫	德島	喜知之	和歌山
富永弘	茨城	長	豐次	新潟
小川良藏	東京	加藤	坦	神奈川
加藤重遠	三重	加藤	祐三	埼玉
金子尙	群馬	龜本	太郎	廣島
吉富和吉	東京	高田	啓次	京都
田中敏夫	埼玉	土屋	小一	靜岡

第一學年(三十名)

成富信男	佐賀	長瀬	三郎	愛知
村田傳	鹿兒島	裏辻	公博	東京
牧重昂	愛知	小林	正	熊本
幸田洋三	靜岡	新井	準	千葉
安西敏雄	東京	佐藤	極	兵庫
菊池五郎	栃木	三木	俊介	兵庫
柴崎實	熊本	白	山凡	和歌山
本村嘉雄	宮崎	菅野	進	京都
鈴木薫	德島	陳炳	耀	支那
家久博	愛媛	原田	正種	福岡
堀内直一	福岡	戸田	勉	石川
川田四郎	富山	金近	英男	廣島
筒井三郎	香川	根緒	正武	東京
宇野道夫	福岡	柳橋	進	千葉
山城利數	兵庫	藪内	茂	靜岡
松本楠義	山口	増田	正一	靜岡

藤本毅山口	肥塚康一兵庫	山本三郎兵庫	舟木好右衛門福島
兒玉實鹿兒島	今野信忠福島	齋藤米次郎東京	在田盛一東京
小寺確郎兵庫	齋藤治郎左衛門靜岡	齋藤兼一郎島根	
安藤清岐阜	佐々木蔚廣島	木村千代男廣島	
崎山守久愛媛	木俣正夫長野	水谷邦夫岐阜	
宮本秀明德島	三浦新東京	杉浦義雄東京	
床司信男石川	犬塚信夫東京	犬丸芳廣島	
守屋武神奈川	今西俊雄奈良	春元文雄大阪	
	濱田壽郎大阪	濱田重行廣島	
	二ノ宮金治郎埼玉	金子量作新潟	
	加藤武夫東京	高橋福治山形	
	谷口宗儀宮崎	團野新一東京	
	高野正三郎埼玉	中村新七山形	
	中村敏郎岩手	內田一郎東京	
	上村秀雄香川		

第三學年 (三十一名)

第四學年 (二十八名)

製造科 (百二十名)

池田幸作東京	石井義臣廣島	犬塚信夫東京	犬丸芳廣島
馬場良助東京	得田助雄石川	今西俊雄奈良	春元文雄大阪
土信田章三郎東京	大塚四郎茨城	濱田壽郎大阪	濱田重行廣島
和田英夫岡山	米田繁三廣島	加藤武夫東京	金子量作新潟
高木達雄東京	田治米隆兵庫	谷口宗儀宮崎	高橋福治山形
長田菅男長野	名嘉元岩太郎沖繩	高野正三郎埼玉	團野新一東京
鶴澤利彦神奈川	黒田栢雄兵庫	中村敏郎岩手	中村新七山形
		上村秀雄香川	內田一郎東京

第二學年 (三十一名)

第一學年 (三十名)

郡司重彦山口	山村彌六郎福島	向達光次郎埼玉	秋元英男東京
松枝萬吉佐賀	小林利章群馬	蘆川榮一東京	里見武雄京都
小島哲郎石川	秋艸慶次東京	水島幸一郎東京	峯村信一東京
坂部義夫愛知	白石友義山口	見山泉廣島	進藤正雄廣島
遠藤敏夫東京	關口得郎埼玉	廣野幸雄東京	關根宗三埼玉
未永保藏宮城	崔瑞日朝鮮	鈴木榮一埼玉	鈴木千藏東京
吉恒鎮朝鮮		林圭元朝鮮	
井岡勇千葉	新村大三郎長野	稻葉鋼太東京	永山洋平茨城
西嘉市佐賀	外村達三滋賀	井上啓次郎三重	野口洲六茨城
大橋一郎東京	大須賀四郎福島	石田俊夫福岡	國村雅二兵庫
小河弘大阪	渡邊昇大分	華島親敬東京	山本芳雄山口
加藤勇吉愛媛	川本照雄東京	丹羽修二岐阜	山本新八山口
田所豐太郎高知	角田道郎福島	西山榮一東京	松本武新瀉
永井隆三廣島	長尾浩一京都	大蝶武夫岡山	藤原一徳山梨
永田憲一郎岡山	野口榮三郎埼玉	大久保薫東京	遠藤大瀧賀
野澤元長野	矢野孝東京	岡野忠重岡山	寺瀬經夫奈良

小坂部 勇山形 青木亮之助 群馬 第三學年 (二十名)

川上太左英 新潟 宮越惣治 新潟 石丸 惇次 岐阜

竹林 靖茨城 宮崎 右太 千葉 細田 正美 長野

田淵 進 佐賀 望田 慶次郎 福岡 小野 茂夫 福岡

袖岡 五郎 岡山 菅原 貞一 東京 橫田 繁雄 愛媛

根岸 吉郎 兵庫 鈴木 睦治 東京 中村 秀也 京都

養殖科 (七十四名)

第四學年 (十八名)

五十嵐 徹夫 群馬 井澤 勝彌 山形 山村 牧夫 長崎

石井 源太郎 群馬 東條 鐵男 德島 般坂 義郎 岐阜

若山 貞三 岩手 渡邊 一 愛媛 鈴木 里司 長野

和田 喜藏 高知 川上 四郎 東京 井上 義雄 埼玉

竹原 正二 静岡 村山 武佐 賀 春木 克巳 三重

倉田 功 茨城 久納 勝太郎 岐阜 大島 忠次 佐賀

安成 一二 山口 松本 豐 東京 加藤 薰 愛知

朝隈 達也 鹿兒島 齋藤 宗一 長崎 永田 格郎 佐賀

水野 六郎 東京 鹽谷 政四郎 新潟 永田 格郎 佐賀

野口 博 佐賀

馬場 駿 山梨

保科 利一 茨城

加藤 精一 東京

坪井 光治 山口

宇野 亨一 岐阜

草野 慎一 三重

古幡 一夫 長野

三輪 林二郎 静岡

茂木 喜一郎 群馬

全 炳 哲 朝鮮

石川 伍平 秋田

大木 松次 埼玉

岡 伯 明 山梨

高山 活夫 兵庫

山田 榮次 東京 山本 精二 兵庫 安藤 喜平 埼玉 山下 行雄 兵庫

松井 實 岐阜 三浦 五郎 宮城 澤田 都次 群馬 井上 彌太郎 兵庫

鹽井 幸郎 三重 平野 義見 三重

第一學年 (二十名)

井川 正二郎 長崎 松村 彰 高知

稻村 政明 東京 兒玉 太郎 愛媛

馬場 吉信 東京 木村 五郎 神奈川

西村 茂喜 福岡 菊池 莊彌 福島

友野 信次 長野 溝口 利憲 栃木

大西 正義 香川 三井 光義 大分

加藤 五郎 東京 三宅 昇 長野

田中 一雄 長野 千手 諒一 福岡

瀧川 悟 山口 杉田 隆治 東京

野中 貞 大阪 鈴木 順 埼玉

一 遠洋漁業科 (六名)

熊凝 武晴 奈良 山崎 竹治 岡山

合入 學支 計	特別 支那 計	朝 鮮	沖 繩	鹿 兒 島	宮 崎	熊 本	佐 賀	大 分	福 岡	高 知	愛 媛	香 川	德 島	和 歌 山	山 口	廣 島	岡 山	島 根	鳥 取	富 山	石 川	福 井	秋 田	山 形	青 森	岩 手	
																											縣
三〇								四																			
三六																											
三三																											
三四																											
三〇																											
三三																											
三三																											
二八																											
二〇																											
一六																											
二〇																											
一八																											
三二																											
二七																											
四																											
三三																											
三三																											

道 府 縣 別	年 別	種 別			
		流 水	撈 科	製 造	養 殖
福島					
宮城					
長野					
岐阜					
山梨					
靜岡					
愛知					
三重					
奈良					
和歌山					
兵庫					
神戶					
大阪					
京都					
東海					
北陸					
道					
學					
年					
第一					
學					
年					
第二					
學					
年					
第三					
學					
年					
第四					
學					
年					
第一					
學					
年					
第二					
學					
年					
第三					
學					
年					
第四					
學					
年					
合計					
科					
流					
水					
撈					
科					
製					
造					
養					
殖					
科					
總					
計					

第二節 在學生府縣別

第六章 卒業業者

第一節 卒業業者氏名 (〇ハ優等卒業者 ×ハ死亡者)

一本科

(一) 漁撈科

明治三十一年第一回卒業

四月(十三名)

家入 四直 福岡  
橋本 猪太郎 熊本  
加藤 勢三三 三重

(舊名小市)  
龜井 順一 山口  
南摩 紀廣 東京  
長次 茂三郎 宮崎  
武藤 禮二 宮城

内田 治三郎 山口  
村田 乙三郎 東京  
×福田 久橋 長崎  
木村 廣三郎 石川

庄司 興一 石川  
菅谷 毅 茨城

明治三十二年第二回卒業

四月(十五名)

石野 敬之 千葉  
大庭 弘雅 福岡  
大谷 正猛 高知

高橋 潤二 岡山  
×山下 節治 長崎  
矢野 新吉郎 熊本  
松崎 彌市 鹿児島

古田 正知 岐阜  
小林 音八 新潟  
○坂本 庄太郎 佐賀  
(舊名一郎)  
佐々木 孝太郎 廣島

×宮下 知一 東京  
×下國 沖助 北海道  
樋口 律太郎 長崎  
(舊名茂文)  
森田 忠三 秋田

明治三十三年第三回卒業

四月(十二名)

×吉永 貴八郎 長崎

田中 仁吉 島根  
田谷 英 石川

津田 美津彦 福岡  
○中村 嘉壽 鹿児島

久保澤 董 青森  
×松田 林 宮崎

小金丸 増次郎 福岡  
小島 才一 神奈川

×小木原 元吉 鹿児島  
森 藏助 鹿児島

×須田 正治 山形

明治三十四年第四回卒業

四月(八名)

石川 伸治 石川  
○本間 平八 山形

長内 泰助 岩手  
大川 辰藏 兵庫  
松尾 秀夫 長崎

前田 春水 宮城  
荒 卯忠 福島  
喜多山 昇來 愛媛

明治三十五年第五回卒業

四月(五名)

額田 喜一 香川

小島 省吾 石川  
佐藤 正孝 山形

日高 靖 宮崎  
元木 淑人 徳島

明治三十六年第六回卒業

七月(七名)

稻見 彌一郎 北海道

×岩田 雄 京都  
内田 四郎七 福井

黒木 圓太 福岡  
×山田 廣次 福岡

明治三十七年第七回卒業

七月(十二名)

堀 宏 新潟  
渡邊 定助 愛知  
(舊姓朝長)  
×渡邊 理一 東京

寛 多記 茨城  
田中 榮定 長崎  
中島 昌二 廣島  
中島 秀男 島根

(舊姓鈴木)  
×長井 貫吾 新潟  
×山岸 留之助 北海道  
小松 重利 高知  
美代 清信 鹿児島

×杉江 謙治 石川

宮田 光 京都  
關根 磯吉 東京

明治三十八年第八回卒業

七月(十三名)  
伊藤 朋愛知  
(舊姓福井)  
岩本千代馬 高知  
×林田 甚八 長崎

堀江 英一 廣島  
×川口 錄一 岐阜  
×川添 友志 鹿兒島  
南部 寛 福井

×村上 素宮城  
上枝 平五郎 香川  
久保 雷之助 愛媛  
山根 左中 島根

木暮 彌七 群馬  
水間 春吉 德島

七月(十二名)

登坂 高三 山形  
×和田 美穂 宮崎  
鎌田 武造 青森

笠松 彌一 東京  
河野 光三 山口  
田中 登三 三重  
×中村 源一 鹿兒島

奥津 興美 群馬  
山田 純太郎 東京  
橋川 章 宮城  
榎本 彈正 香川

杉浦 保吉 東京

明治三十九年第九回卒業

七月(十五名)

○芳賀 奈七郎 岩手  
秦 半兵衛 東京  
東郷 保一 宮城  
小川 幸之進 岡山

長田 景貞 鹿兒島  
×川島 信一 廣島  
中北 靜 岐阜  
村山 吉助 山形  
村岡 實一 山口

×野間口 兼美 鹿兒島  
國司 浩助 山口  
熊田 頭四郎 栃木  
×小崎 彰 宮城  
安達 誠三 石川

木津和 秀男 廣島  
九月(三名)  
長友 寛宮崎  
×柳 悦多 東京  
秋山 實千 葉

十月(十七名)

(舊姓石井)  
松金 悌治 茨城  
馬場 駒雄 岡山  
新宅 定一 廣島

×飛山 信治 新潟  
×渡邊 康介 愛知  
×河村 常一 廣島  
金子 常太郎 岩手

吉田 義勇 長崎  
高山 伊太郎 大分  
竹内 仲治 長野  
村上 寅一 愛媛

植木 憲吉 兵庫  
福野 久松 石川  
天野 壯助 愛知  
木下 信實 鳥取

明治四十一年第十一回卒業

宮脇 伊太郎 鹿兒島

×瀧上 二州 兵庫

明治四十二年第十二回卒業

七月(九名)

奥村 伊三郎 滋賀  
金刺 琢磨 香川  
横田 壯福 島  
×吉田 定次郎 鹿兒島  
武富 榮一 佐賀

辻 志郎 栃木  
明山 保次郎 兵庫  
木下 辰雄 熊本  
三浦 定之助 山形  
九月(十二名)  
岩本 清太郎 鳥取

×市川 峰吉 三重  
飯尾 公壽 福岡  
○與儀 喜宣 沖繩  
谷本 坂惠 岡山  
後藤 節藏 大分  
古閑 義康 熊本

新井 藤二郎 茨城  
×齋藤 齊 福島  
○養田 靜夫 鹿兒島  
白井 勝三郎 茨城  
日比 義三 岐阜

明治四十三年第十三回卒業

七月(十四名)

伊吹 群作 福井  
濱田 五六 廣島  
新國 逸夫 新潟  
細川 可也 栃木  
富永 盛治 鹿島

岡本 曉 山口  
横山 將來 石川  
竹本 正文 東京  
竹田 重雄 静岡  
長棟 暉友 鳥取  
能美 猪勇武 福岡

(舊姓秋山)  
黒田 藤五郎 愛媛  
白石 立見 香川  
柴戸 雅一 長崎  
八月(六名)  
伊藤 猪六 佐賀

加藤 平吉 山形  
後藤 榮助 香川  
秋田 榮治 東京  
木村 星 鳥取  
木村 成松 福井

明治四十四年第十四回卒業

七月(十五名)

石原 重郎 熊本  
布目 孜 石川  
大塚 三平 茨城

高橋 照文 千葉  
×高木 繁春 東京  
×牛山 美廣 長野  
山田 楯一 愛媛

山根 揆一 埼玉  
矢吹 正夫 岡山  
藤川 若松 廣島  
×吉川 隆治 秋田

水月川 暹一 廣島  
×宮崎 盛長 崎  
三浦 正秋 田  
清水 隆道 山口

九月(十二名) 吉 大阪

明治四十五年、大正元年第十五回卒業

越智 章 靜岡  
田中耕之助 東京  
辻 知一 長崎  
上野省三 山梨

×黒野 元憲 東京  
山本 静一 愛媛  
松本 修二 兵庫  
小林 章之 埼玉

青木 貞治 北海道  
佐藤 敬吉 山形  
御厨 保太郎 長崎

七月(十二名)

石井 文吉 東京  
飯塚 哲夫 宮城  
○月井田 二郎 熊本  
×神山 捨吉 岐阜  
八木 三千彦 鹿兒島

大正二年第十六回卒業

松尾 政次郎 佐賀  
淵邊 知之 千葉  
佐々木 三治 富山  
霜村 兵七 佐賀  
×平瀬 博 兵庫  
清 藤太郎 静岡

(舊姓山本) 須藤 三策 新潟  
九月(九名)  
飯田 興兵衛 東京  
丹羽 六一 岐阜  
葛城 忠男 石川  
國分 友海 鹿兒島

小塚 銀八 愛知  
×照井 賢三 岩手  
水野 均治 愛知  
×島田 喜一 静岡  
×莊司 勇 山形

七月(十名)

○飯山 太平 茨城  
濱崎 末長 高知  
吉安 新次 兵庫  
田面 欽次 兵庫  
松田 鶴次郎 福岡  
小安 正三 東京

大正三年第十七回卒業

小林 敏行 東京  
宮本 義永 茨城  
島田 儀三郎 熊本  
○村山 敏三 福島  
九月(十一名)  
本田 光吉 愛媛  
岡本 重治 愛知

高柳 繁次郎 群馬  
塚崎 謙吉 秋田  
中川 甚藏 東京  
山口 慶四郎 群馬  
馬上 福壽 福島  
松尾 我何人 長崎  
永福 虎 鹿兒島

三輪 源造 岡山  
久富 元長 崎  
十月(一名)  
小河 範太郎 福岡

七月(九名)

○服部 愛之助 大阪  
原田 健兒 熊本  
本間 久四郎 新潟  
德光 外治 石川  
梅本 儀助 福岡  
野崎 民平 三重

大正四年第十八回卒業

山田 勝衛 長野  
前田 英二 新潟  
莊 得一 岡山  
九月(九名)  
飯沼 壽 東京  
林 準 二 東京  
大村 道一 兵庫

谷口 武三 岐阜  
郵井 捨吉 東京  
×佐藤 成美 和歌山  
佐々木 孝造 京城  
○桐本 富次 和歌山  
岸田 十雄 岡山  
十月(二名)

沼野 仰吉 新潟  
十一月(二名)  
中村 吉治 長野  
重田 瑞穂 兵庫

七月(十六名)

石崎 實三郎 愛媛  
岡本 正一 静岡  
渡邊 六造 山形  
龜田 精一 島根  
吉田 秀一 東京  
田代 正治 新潟  
津田 守規 福岡  
中山 琢三 福島

大正五年第十九回卒業

栗田 要吉 京都  
○山田 盛雄 福岡  
山本 德 愛媛  
合原 一 福岡  
小松 和勝 熊本  
旭 章 石川  
齋藤 陽三 東京  
白石 賢三郎 埼玉

九月(十名)  
家坂 孝平 新潟  
高橋 千里 長崎  
×浦山 精一 静岡  
日下部 彦次郎 兵庫  
山井 隆亮 栃木  
峰 辰三 長崎  
森村 共正 石川  
桃田 利惣 新潟

仙波 平馬 栃本  
×進 肇 福岡  
十月(一名)  
三宅 好美 岩手  
十二月(二名)  
村上 正男 愛媛  
瀧山 貞長 崎

七月(九名)

岡島 清 廣島  
尾藤 信正 熊本

金村 正巳 山形  
雁部 松三郎 宮城  
×谷村 豊吉 高知

根岸 勝彌 福島  
秋山 俊一 高知  
北野 退藏 宮城

九月(三名)  
須貝 實山 山形  
×荻部 明七 栃本



吉田春吉 東京  
田原精夫 東京

(十一月二名)  
岩崎 狷二 島根

行川 清千葉  
(十二月二名)

佐々木政之助 宮城  
關口壽之助 東京

三月(十六名)

×市川友賀 神奈川  
今村龍雄 三重  
岡田正人 兵庫  
和田秀政 兵庫  
川添爲一 香川  
中島正一 東京  
柳川和民 島根

正木一作 千葉  
郷 朔雄 東京  
甘利集基 長野  
天野郡治 千葉  
澤池一雄 京都  
佐々木武雄 宮城  
人見秀四郎 東京  
平山 繁 鹿兒島

菅 三郎 岩手  
四月(三名)  
堀井恒次郎 廣島  
鎌田 穰 福岡  
日置徳太郎 岡山  
五月(四名)  
今岡源一 廣島

飯野真佐 埼玉  
大津 清 福岡  
青木京一 鹿手  
九月(一名)  
近藤止三 愛媛  
十一月(二名)  
岩尾正人 三重  
山下彌三 左衛門 鹿兒島

三月(十七名)

井上常吉 佐賀  
神田貞治 山形  
谷島馬太郎 大阪  
高橋幸三郎 宮城  
副田徳平 佐賀

○十川 正夫 徳島  
中谷 熊楠 和歌山  
山口嘉四郎 兵庫  
伏本 政樹 廣島  
小笠原 秀雄 群馬  
醍沼 英吉 栃木

海老塚 健一 神奈川  
佐藤 清治 宮城  
酒卷 義司 千葉  
菊池 忠造 宮城  
鹽澤 虎馬 山梨  
×久野 好福 岡

四月(二名)  
(舊姓友廣)  
片山 年 岡山  
大熊 保道 山口  
五月(一名)  
伊賀 敏耶 兵庫

三月(二十三名)

池田文爾 富山  
池田信也 廣島  
石田壽之 群馬  
戸川千藏 鳥取  
大西清忠 奈良

河野通直 高知  
×横手 武熊 鹿兒島  
高久 彰 福岡  
竹井 増一 岡山  
中島 爲一 佐賀

×中島 健輔 佐賀  
桑原 時藏 東京  
小石 安一 福岡  
小濱 氏清 鹿兒島  
近藤 重虎 高知

小俣 信親 東京  
坂倉 今次郎 静岡  
篠山 武次郎 岡山  
秀島 魁 佐賀  
森下 伊三郎 和歌山

三月(二十名)

石田稜威雄 群馬  
飯塚喜一 東京  
馬場政二 福岡  
太田久隆 群馬  
梶島年安 福岡

×高橋 亮吉 東京  
永井 福三郎 岡山  
中田 賢吉 長野  
×中目 協 宮城  
碓井 秋雄 静岡  
×野口 乾 福岡

國井 林 栃木  
久保 慶男 長野  
後藤 登 岡山  
小島 信司 新潟  
赤星 家雄 大分  
佐藤 正夫 大分

北島 正長 崎  
×白石 平七 福岡  
瀧田 稔 佐賀

三月(二十七名)

井垣喜作 兵庫  
原田直人 東京  
伴 善居 福井  
濱邊 清藏 鹿兒島  
本間 豊 茨城  
大村三樹之助 兵庫

岡屋 慶光 山口  
岡本 大助 熊本  
川原 七郎 鹿兒島  
横井 太郎 愛知  
谷 巖 高知  
寶田 顯作 福岡  
中江 富三 大阪

野本市次郎 愛知  
黒田 徳次郎 北海道  
工藤 辰雄 静岡  
×矢部 武三 新潟  
山口 虎雄 佐賀  
山口 保三郎 茨城  
×古谷 代吉 福岡

岸川 由太郎 佐賀  
溝口 浩司 群馬  
×三浦 政美 山形  
新野 二郎 宮城  
廣瀬 恒美 高知  
日高 久彌 宮崎  
鈴木 操 福岡

大正十年第二十四回卒業

大正九年第二十三回卒業

大正十一年第二十五回卒業

三月(二十二名)

花木哲之助 愛知  
長谷川金衛 新潟  
奥田憲太郎 鳥取  
奥津三郎 神奈川  
渡邊東雄 宮城  
加藤利夫 大分

大正十二年第二十六回卒業

(舊姓) 甲藤 健夫 高知  
關根 武吉 埼玉  
吉澤 晴一 埼玉  
武井 政雄 北海道  
堤 正夫 静岡  
永田 德太郎 兵庫  
清瀧 千代夫 和歌山

三月(十七名)

長谷川正一 愛知  
星野 豐 千葉  
外岡 元雄 岩手  
神元 一 滋賀

大正十三年第二十七回卒業

高本 等 廣島  
辻村 秀一 京都  
中村 國一 東京  
村瀬 二郎 東京  
松岡 嘉三郎 熊本

三月(二十五名)

石原 政男 福岡  
春木 初夫 三重  
西川 定一 栃木  
仁平 宣威 茨城  
本田 三郎 茨城  
利行 正雄 東京  
大石 幸平 静岡

(舊姓) 大庭 重行 福岡

櫻井 泰藏 神奈川  
岡田 仁弘 徳島  
吉澤 正三 富山  
田中 道知 静岡  
立石 巖 熊本  
村井 政雄 東京  
村岡 壽期 福島

大正十五年第二十八回卒業

三月(十九名)

稻葉 和夫 栃木  
今西 協一 宮崎  
四 越 福島  
土井 久治 兵庫  
岡村 正久 熊本  
兼口 清 神奈川

昭和二年第二十九回卒業

吉澤 源造 埼玉  
園部 久 秋田  
長岡 正幸 東京  
永島 義弘 栃木  
長島 武治 神奈川  
栗野 有常 愛知  
熊瀨 武晴 奈良

三月(二十四名)

稻津 榮治 福岡  
服部 元忠 東京  
小淵 元吉 群馬  
尾崎 順三 山形  
及川 英雄 東京  
和田 長三 岐阜  
川崎 洛三 廣島

昭和三年第三十回卒業

金井 元 栃木  
○吉川 長之進 大阪  
武久 伊作 佐賀  
永井 寛次 東京  
長東 三四士 和歌山  
南部 辰真 東京  
保田 義夫 宮城  
小林 繁 神奈川

三月(二十六名)

伊原 治 千葉  
岩田 勳 愛知

伊藤 順男 埼玉  
池田 勝榮 鹿児島  
池田 二郎 千葉

欄井 輝 千葉  
木村 宗太郎 福井  
四月(二名)  
池邊 謙三 熊本

×菅原 三朗 秋田  
杉 孝 兵庫  
鈴木 徳三 宮城  
十三年二月(一名)  
後藤 林英 新潟

水野 金市 秋田  
鈴木 喜三郎 茨城  
六月(四名)  
服部 繁次 福井  
眞田 健三 山形  
木原 佳郎 鹿児島  
道澤 史郎 奈良

七月(一名)  
武田 實造 鳥取

三浦 滋雄 東京  
白鳥 健壽 宮城  
志道 吉次 山口  
平岡 實 神奈川  
×菅原 興吉 新潟  
杉山 延里 石川  
七月(一名)

×横川 國彦 埼玉  
九月(一名)  
伊藤 威雄 兵庫  
十月(一名)  
柳田 四郎 鹿児島

小屋 勝之 兵庫  
寺井 正雄 奈良  
安部 丈夫 福岡  
安藤 喜平 埼玉  
坂田 忠二 山口  
北原 隆貫 東京  
北岡 康雄 高知  
三浦 永治 岩手  
長谷川 勝藏 山口  
大塚 辰雄 東京  
吉田 八郎 群馬

島本 正美 高知  
五月(一名)  
小林 宗一 山口  
九月(一名)  
多々良 孝一 静岡  
十月(一名)  
菊米 義 千葉  
十二月(一名)  
上村 忠彦 鳥取  
吉本 巳之助 鳥取  
竹中 善次 富山  
竹内 進 福井

津崎勝巳 福岡  
内村忠夫 熊本  
草間秀俊 東京  
山口三郎 静岡  
保田武夫 岡山

古川三男 佐賀  
藤井真澄 山口  
藤枝貞夫 愛媛  
駒井青南 福岡  
○品田藤次郎 新潟

清水信次 滋賀  
×廣崎喬雄 東京  
日向義次 山梨  
平塚均 宮城  
關野正藏 千葉

六月(三名)  
長谷川喜一 京都  
米澤六藏 東京  
高橋廣榮 愛媛

三月(十八名)

市村要 山口  
井上彌太郎 兵庫  
新原宗路 鹿兒島  
小川義一 山梨  
神崎隆 佐賀

高桑勝次 東京  
中島瀧藏 佐賀  
上野卓三 廣島  
○山崎竹治 岡山  
山下行雄 兵庫

八代喜代 岐阜  
谷島吉三郎 茨城  
松澤幸 長野  
松本住友 岡山  
赤塚紳 新潟  
澤田都次 群馬

四月(一名)  
宮本武德 愛知  
成澤不二男 山形

昭和四年第三十一回卒業

(二) 製造科

明治三十一年第一回卒業

四月(三十四名)  
×今井次郎 神奈川  
(舊姓沖) 長谷川作次 石川  
×濱元四郎 宮山  
(舊姓廣瀬) ×二宮常八 香川  
西 保 熊本  
×堀江銀之介 東京  
×本郷益雄 東京  
小野辰次郎 東京

×大津吉之介 茨城  
岡本賢一 大分  
×吉川尙方 東京  
×吉田三俊 大阪  
高松 勝重 三重  
(舊姓關根) ×田所清雄 茨城  
×田所 英男 三重  
中 庸三 長野  
中島 庸三 長野  
(舊名和太郎) 大和 七 東京

大和地田太郎 千葉  
山本廣三 大分  
(舊姓佐藤) 牧野左馬三 大分  
前田庄五郎 兵庫  
×藤村守一 高知  
×松生猪三男 福岡  
×古賀駿輔 佐賀  
駒澤幸一 石川  
北川克郎 高知

水原方吉 佐賀  
宮木周市 山口  
×三島拙郎 島根  
白石靜 鹿兒島  
篠崎順三 千葉  
平野友安 千葉  
(舊姓廣瀬) 守田貞三 大分  
關原東太 千葉

明治三十二年第二回卒業

四月(二十二名)  
井關正行 和歌山  
市橋丁丸 東京  
四畑真造 北海道  
富樫恒千 千葉  
(舊名誠一) ○小川清一 佐賀

大木盛三郎 東京  
×辻好司郎 石川  
×○中村平八 徳島  
(舊姓小倉) ×久甫恒介 山口  
×黒岡安定 東京  
府波健藏 石川

府中喜八郎 石川  
小石季一 秋田  
×小岩井治世 青森  
藍野一男 千葉  
佐々木繁太郎 香川  
×北野宇佐吉 徳島

×肝付繁昌 鹿兒島  
×光増健三郎 佐賀  
×宮島伊望 千葉  
×遊谷源七 宮城  
(舊名勝藏) ×廣月松右衛門 島根

明治三十三年第三回卒業

四月(十五名)  
(舊名長作)  
一宮 弘人 長崎  
伊藤 哲太郎 茨城  
(舊姓渡邊)  
濱田 直作 富山

金高喜一 千葉  
(舊姓大市)  
吉田 虎藏 德島  
×室伏 俊五郎 三重  
浦山 五作 石川

久保茂助 山口  
×久木田 勝馬 鹿兒島  
(舊名觀一郎)  
久谷 卓男 島根  
×阿部 健 宮城

×齋藤 七郎 千葉  
×水野 幸次郎 愛知  
×鹽田 愛隣 千葉  
(舊姓大西)  
鈴木 珍平 岩手

四月(九名)  
×池田 熊之助 鹿兒島  
千葉 幸三郎 東京

小野寺 利吉 宮城  
中井 國太郎 愛媛  
野元 俊一 鹿兒島

松原 榮兵衛  
船橋 晋吉 神奈川  
×小見山 富市 熊本

×朝比奈 雪 靜岡

四月(三名)

×岩城 宣郎 靜岡

(舊姓中野)  
田淵 速吉 德島

×久保田 信治 兵庫

七月(十三名)

石原 重良 山形  
×岩本 正孝 長野  
渡邊 安忠 大分

(舊姓野田)  
×吉川 秀之 石川  
田島 百人 熊本  
宗 熊大分  
内村 可一 德島

×松尾 靈彦 愛知  
淺井 謙吉 東京  
×酒井 徳次郎 三重  
(舊名與吉)  
菊池 健 岩手

×宮内 友吉 鹿兒島  
志村 彦藏 山形

明治三十七年第七回卒業

七月(八名)  
(舊名嘉吉)  
畑田 熊次郎 岩手  
河村 尊雄 京都

(舊姓松山)  
×倉田 秀雄 熊本  
(安藤) 俊吉 兵庫

×白石 庸次郎 新潟  
森 萬次郎 東京  
勢島 莊太郎 福岡

明治三十八年第八回卒業

七月(十七名)

伊藤 二耶 茨城  
林 碌耶 大阪  
×馬場 清止 宮城  
×河西 延次郎 香川

(舊名熊植)  
武季 作 東京  
長屋 啓之助 廣島  
×宇加治 文雄 茨城  
×國島 徹 北海道  
安永 宗治 福岡

牧野 健次郎 靜岡  
松坂 省輔 山口  
×益滿 行綱 東京  
江島 悦次郎 福岡  
栗屋 協二 愛知

木村 金太郎 東京  
鈴木 幸太郎 靜岡  
杉山 恒吉 德島

明治三十九年第九回卒業

七月(十八名)

×池内 清 愛知  
岩井 龜治 高知  
○高崎 達之助 大阪  
立川 卓逸 新潟

仲野 九郎 兵庫  
中山 克巳 高知  
×中村 平 福岡  
名村 竹雄 福岡  
宗像 浩次郎 廣島

内田 耕 東京  
上田 壯一 山口  
大槻 清三 東京  
×山内 豐彦 茨城  
福島 政吉 東京

(舊名仁三郎)  
赤坂 和一 北海道  
×喜代美 榮一 長崎  
篠原 睦造 島根  
×柴田 匡一 岐阜

明治四十年第十回卒業

七月(十五名)

×林 隆義 東京  
×吉野 孝長 長野  
永峰 治光 北海道  
中島 董一 東京

梅宮 鶴藏 福島  
野口 莊次 埼玉  
×岡本 剛三 東京  
山中 巖 廣島  
間世田 名臣 鹿兒島

鶴谷 六三 埼玉  
佐々田 榮重 島根  
里深 清一 兵庫  
(舊姓阪元)  
×市川 清 東京  
×三森 宮雄 東京

島崎 眞哉 高知  
×杉村 泰治 宮城

明治四十一年第十一回卒業

七月(二十四名)

濱部 常三郎 和歌山

西方 梯次郎 神奈川  
富山 正巳 千葉

富田 達道 高知  
大島 慎二 東京

岡田 勝夫 東京  
角田 鶴雄 埼玉

○田口寧一 茨城  
(舊名安太郎)  
中島健吉 愛知  
(舊姓大竹)  
○梅浦健吉 東京  
×久志木欣之助 三重  
×柳淵覺太郎 群馬

×山極七郎 長野  
松下高福 岡  
×前田隆一 兵庫  
真田吉之助 石川  
藤田要太郎 愛媛

小島米吉 茨城  
赤嶺慎一 沖繩  
新井虎之助 東京  
相澤毅 長野  
×神隴三 東京

森谷茂 鹿兒島  
鈴木厚三 兵庫

七月(二十一名)

一ノ瀬福巳 福岡  
○小倉善平 栃木  
若林忠雄 茨城  
×田中良平 埼玉  
谷口直太郎 兵庫

高瀬重之 栃木  
田代寛範 福岡  
武晴宜 群馬  
×永井良 神奈川  
×中岡盛隆 岡山  
山路政一 廣島

増田久家 愛媛  
○福井守一 東京  
×小林丈太郎 岡山  
(舊姓坪田)  
小山甲三 茨城  
有賀篠夫 長野  
×北島格一 佐賀

北川政次郎 神奈川  
木村松太郎 群馬  
三木源吉 兵庫  
菅原元一 岩手

七月(十五名)

×岩佐定一 長崎  
西村和雄 東京  
×高宮正 山形  
内藤俊一 山口  
×中野常德 北海道

(舊姓武藤)  
○中山留八 福島  
(舊姓水谷川)  
太田貞太郎 東京  
九條良叙 東京  
(矢野實) 富山  
山本祥吉 廣島  
前澤織衛 長野

(舊姓竹ノ)  
淵崎顯三 神奈川  
有坂利一 群馬  
青田春藏 福岡  
鈴木儀八 岩手

十月(五名)  
(舊姓中光)  
加隈良介 熊本  
村上次郎 山口  
布施達治 千葉  
海老澤光治 東京  
菅宮清吉 茨城

七月(十九名)

吉田敬雄 熊本  
谷村重忠 岡山  
武本源四郎 岡山  
×津田弘一 東京  
×根岸林造 兵庫  
内田孝雄 東京

内田林治 東京  
×牛島實 鹿兒島  
安井章一 兵庫  
山添兵造 兵庫  
(舊姓名塚誠二)  
古田榮作 群馬  
小柳石男 山形

江副元三 佐賀  
齋藤登樓 香川  
×佐藤善右衛門 岩手  
深山義道 千葉

十一月(五名)  
伊藤孝夫 新潟  
外山源吾 新潟  
×横尾藤作 群馬  
荻野演一 兵庫  
佐田作郎 宮崎

七月(十二名)

池田真作 山形  
○伴誠一 東京  
大橋哲郎 静岡  
大内義男 福島  
×川端豊松 兵庫

川口久四郎 三重  
河村兵三 三重  
中村佛二郎 京都  
×深澤三郎 山梨  
島添真一 京都  
(舊姓島村)  
×樋下田誠儀 熊本

×關根豊 埼玉  
×大川實 静岡  
長光悟 福岡  
三井澄 東京  
(舊姓岩澤)  
實川計 千葉

×清水一司 東京  
平林愛民 長野  
森田巽 佐賀  
鈴木武 栃木

七月(二十四名)

市島徹太郎 新潟  
飯岡忠重 栃木  
本田鹿人 熊本  
×鳥居强次 東京  
荻原茂 長野  
大槻房吉 京都

小野彌一 静岡  
小野太亮 山口  
神住潔光 埼玉  
内藤謙三郎 東京  
中村信治 福井  
中村良 石川  
黒田元治 北海道

山本泉 東京  
松生義勝 大阪  
×藤本尙一 石川  
近藤辰雄 新潟  
(舊姓久保田)  
後藤覺 茨城  
寺門弘隆 茨城  
×源義一 廣島

(舊姓山石)  
森茂之 徳島  
鈴木直辰 東京  
×諏訪賢治 和歌山

大正二年第十六回卒業

明治四十五年、大正元年第十五回卒業

明治四十四年第十四回卒業

明治四十三年第十三回卒業

明治四十二年第十二回卒業

大正三年第十七回卒業

七月(十四名)  
伊藤 眞三 新潟  
池尻 文郎 福岡  
○(舊姓西島) 星野 直太郎 大阪  
渡邊 富藏 茨城  
吉田 實千 千葉  
吉村 善一 兵庫  
中村 鐵太 東京

大正四年第十八回卒業

七月(十二名)  
岩松 三郎 東京  
×入田 秋治 鹿兒島  
富田 四郎 東京  
吉永 一隆 熊本  
田山 來介 埼玉  
津幡 文八郎 青森  
(舊姓村田) 宇田 繁山 口  
熊澤 楠吉 高知  
佐藤 秀雄 福島  
菊山 武雄 愛媛  
○弓削 讓 茨城

大正五年第十九回卒業

七月(九名)  
岩淵 修平 宮城  
秦 義輔 福井  
太田 正一 石川  
内田 一耶 埼玉  
松島 敏之 神奈川  
×福田 作次郎 香川  
宜保 友厚 沖繩  
志村 良英 東京  
×澁谷 亮 東京

大正六年第二十回卒業

三月(十四名)  
金谷 二郎 群馬  
梶原 孝治 兵庫  
野村 康雄 東京  
増田 秀治郎 静岡  
福住 吉慶 東京  
○小林 小一 新潟  
甲賀 正一 静岡  
×阿部 松太郎 大分  
生田 康山 口

一一六

内海 直國 愛媛  
×小野 信之 神奈川  
前田 石之助 京都  
小和田 金吉 新潟  
鈴木 鉦三 愛知  
十月(六名)  
中島 吉十郎 佐賀  
中須 辰二 石川  
柳谷 善吉 北海道  
荒川 驥 東京  
×北野 漸長 崎  
三ッ澤 福定 群馬

美川 秀信 熊本  
水口 元 石川  
清水 淳三 神奈川

田邊 五郎 山梨  
山田 永雄 大分  
平塚 顯橋 宮城

○加藤 清一 富山

大正七年第二十一回卒業

三月(二十名)  
井出 孝吉 東京  
濱本 清志 鳥取  
×新妻 善七 宮城  
富岡 謙吉 兵庫  
梶原 頼久 兵庫  
河内 吾郎 山口  
兼本 盛光 沖繩  
田村 光三 大阪  
成田 穠 千葉  
中島 計次 群馬  
村井 英雄 福岡

大正八年第二十二回卒業

三月(十六名)  
石川 成人 宮城  
原 武雄 廣島  
四 磐山 形  
富崎 善吾 佐賀  
大久保 嘉壽彦 香川  
吉川 市次 佐賀  
×田邊 武雄 山梨  
○中谷 正雄 大阪  
村井 午之助 千葉

大正九年第二十三回卒業

三月(二十三名)  
×稻葉 茂祐 熊本  
西堀 朝祐 兵庫  
堀越 一三 茨城

六月(二名)

赤松 勳 愛媛  
×佐野 貞三 福島  
杉山 泰 岡山  
上原 元助 香川  
○山田 壽信 愛媛  
×山崎 秋生 京都  
松葉 篤弼 東京  
松田 權六 群馬  
松本 清之丞 福島

(舊姓桑原) 進藤 義輔 山口

(舊姓三木) 本村 惟 鹿兒島  
三輪 儀三 大阪  
圓尾 觀藏 兵庫

四月(一名)

森川 庄次郎 大阪  
李 重 漢 朝鮮  
古川 武毅 千葉  
高橋 重治 廣島  
×高橋 越州 福井

田坂武文 山口  
内田康次 埼玉  
中川勤 廣島  
栗原傳四郎 埼玉

大正十年第二十四回卒業

山下武雄 群馬  
山本益太郎 北海道  
○間庭秀文 東京

小泉喜代治 靜岡  
有賀松夫 長野  
安藤信衛 東京  
坂田信太郎 東京

相良谷次郎 大阪  
佐野昇次郎 東京  
水野忠一 神奈川  
平松角治 長崎

三月(十七名)  
(舊姓石川)

沙原作治 富山  
馬場孟夫 長野  
○原口安雄 東京  
林政雄 鹿兒島

大正十一年第二十五回卒業

小畑千柄 鹿兒島  
小野功一 宮城  
門屋守二 東京  
×河野麿 栃木  
金井準 群馬

金子安治 埼玉  
村上芳雄 靜岡  
橋詰友四郎 三重  
山本元次郎 廣島  
松崎秀雄 神奈川

福岡國男 福井  
藤重弘 福井  
青木林藏 愛知

三月(二十三名)

○岩本正一 宮城  
井波義雄 東京  
原孝吉 德島  
堀田文雄 熊本  
堀田美穂男 東京  
尾野敏行 廣島

大正十二年第二十六回卒業

加藤喜太郎 新潟  
河野文一 德島  
○檀野房治 福井  
工藤眞二 宮城  
倉垣正一 兵庫  
倉恒正賢 鳥取  
矢住清亮 熊本

前波季子 福井  
松澤定五郎 千葉  
益田泰一 福岡  
增田峻 埼玉  
古賀保一 佐賀  
齋藤孝治 千葉  
山下利得 東京

(舊姓木村)  
原金藏 埼玉  
宮良當安 沖繩  
日高照 宮崎

三月(二十六名)

土井武夫 愛知  
大久保金三 群馬  
和田貫 千葉  
米井俊雄 大阪  
吉澤昇 神奈川

大正十三年第二十七回卒業

玉木松之進 山口  
厚田寛一 佐賀  
○德倉香二 愛知  
小野豐樹 茨城  
松尾雅明 福岡

松田悦郎 長野  
增用興 靜岡  
秋野光次 山形  
酒井達雄 茨城  
宮崎文四郎 廣島

白川明則 長崎  
篠原正規 石川  
毛利重之 東京  
杉田豐藏 靜岡

三月(三十二名)

伊藤敏三 山口  
橋爪英士 福岡  
鳥居正明 東京  
大圓要 茨城  
小川悦也 東京  
岡田郁之助 神奈川  
小谷和夫 兵庫  
×小澤俊雄 神奈川

大正十五年第二十八回卒業

數野傳次郎 香川  
○神園政也 鹿兒島  
○田中泉太郎 長野  
○田村辨一 山口  
宗田將雄 福島  
中村正記 宮城  
栗林丈夫 兵庫  
山田貞一郎 新潟  
丸地廣男 愛知

正木太四郎 千葉  
福本茂 京都  
藤田周吉 京都  
小林茂雄 靜岡  
木島至德 熊本  
遠藤正英 東京  
安藤豐香 川  
淺野昇一 德島  
朝倉要三 神奈川

秋月壽 岡山  
三原寅雄 京都  
宮坂丑弘 長崎  
清水俊雄 愛媛  
清水亘 愛知  
杉原裕二 滋賀

三月(二十四名)

飯塚正雄 栃木  
羽部修 茨城  
原田清 千葉  
大島秀長 東京

岡屋忠治 山口  
寛本梁 東京  
吉本滿藏 山口  
高橋義一 埼玉  
竹内一郎 東京

瀧澤巖 新潟  
中村德松 東京  
内山超一 福井  
山内超一 東京  
山本米作 富山

曲淵市太郎 東京  
眞瀬恒 栃木  
雨宮榮藏 山梨  
齋藤三三 靜岡  
○徳谷九万 長野

澤田正順 廣島  
佐々達一 新潟  
目黒徳太郎 新潟  
志賀岩雄 和歌山

昭和二年第二十九回卒業

三月(二十五名)  
伊藤育三 静岡  
五十嵐源治 福島  
豊田忠雄 廣島  
富永静彦 長崎  
大塚徳太郎 佐賀  
奥田直言 埼玉  
渡邊正雄 熊本  
田村辰馬 熊本  
龍野二郎 福井  
根本五郎 千葉  
根本哲夫 福島  
永井政司 静岡  
中村吉明 神奈川  
村上鶴次郎 富山  
梅澤正吾 愛知

昭和三年第三十回卒業

三月(二十名)  
飯野増太郎 福岡  
岩澤平治 新潟  
濱野寛 茨城  
大岩東助 愛知  
大石義秋 香川  
大沼豊吉 宮城  
大関昇 茨城  
葛西巖 香川  
多賀宗將 東京  
○高草木雅雄 群馬  
田中房之助 京都

昭和四年第三十一回卒業

三月(十七名)  
伊古田憲造 東京  
大木壯山 山口  
加藤康治 新潟

鈴木博 千葉

上野武夫 群馬  
○能條京司 神奈川  
荒井虎之助 東京  
甘利久吉 徳島  
朝倉清見 長野  
澤登謹次 東京  
北川令三 福井  
三宅二郎 北海道

那須潔 滋賀  
松本夏香 長崎  
寺門彬 東京  
浅田象二郎 兵庫  
佐藤七郎 福島  
木村敬三 愛媛  
○加藤舜耶 廣島  
田島喜市 新潟

五月(一名)  
×中川金兵衛 宮城

篠崎仁包 東京  
下井誠 山口  
四月(二名)  
東原正雄 香川  
茂貫祥次 宮城

木下貞一 大阪  
久松義男 兵庫  
清野文二 宮城  
四月(二名)  
橋詰友太郎 埼玉  
平置三郎 愛媛

中村復 福井  
宇賀明 香川

野口恭夫 岐阜  
國枝滋 岐阜  
日下部誠一 埼玉

楠原廣吉 千葉  
松根約耶 東京  
松本勳 新潟

古賀新福 岡  
廣瀬郁耶 愛知  
砂原春紀 廣島

隅野勇 京都



(三) 養殖科

明治三十一年第一回卒業

四月(九名)  
(舊姓冬木) 大石 芳三 佐賀  
×磯崎 徳次郎 千葉  
(舊姓柳部) ×吉川 諱 埼玉  
西島 新藏 山口 高橋 重太郎 岩手

明治三十二年第二回卒業

四月(五名)  
×壁谷 可也 東京  
×川端 重五郎 三重 内山 龜五郎 福井

明治三十三年第三回卒業

四月(八名)  
×石田 五一郎 山口  
×伊藤 俊治 千葉 (舊名茂十郎)  
×今野 虎吉 福島 緒方 惟孝 大分  
×小野 佐久雄 東京

明治三十四年第四回卒業

四月(三名)  
(舊姓伊達) 須田 義二 山形  
片倉 健吉 東京

明治三十五年第五回卒業

四月(三名)  
○戸井田 盛藏 新潟  
明治三十六年第六回卒業

長島 幸吉 千葉

藤田 政勝 兵庫

×淺井 長三郎 福島

山本 開作 神奈川

須田 勳 東京

秋山 永次 東京

×櫻田 廣吉 秋田

肥後 了一 鹿兒島

×長島 八郎 神奈川

内田 佐太夫 千葉

坂井 安三郎 佐賀

須田 義二 山形

×前川 鯉龜次郎 東京

七月(四名)

河合 慶愛 知

山下 平造 兵庫  
山本 由一 東京

明治三十七年第七回卒業

七月(二名)

○丸川 久俊 島根

明治三十八年第八回卒業

七月(三名)

西山 伊六 佐賀

明治三十九年第九回卒業

七月(二名)

萩原 實治 兵庫

明治四十年第十回卒業

七月(二名)

谷口 利三郎 廣島

明治四十一年第十一回卒業

七月(七名)

金子 政之助 東京

河合 盾丸 愛知  
八幡 光造 山形

明治四十二年第十二回卒業

七月(七名)

×加藤 保愛 媛

武田 直宮 城  
倉上 政幹 埼玉

○越田 徳次郎 石川

椎原 廣男 鹿兒島

東 道太郎 東京

鐘ヶ江 東作 佐賀

九月(一名)

西村 茂生 山口

×柳本 斗夫 徳島  
×藤城 存知 廣島

藤森 三郎 長野  
青木 越雄 滋賀

平木 治 福岡

阿部 圭 福島  
須賀原 善太郎 群馬

×目崎 守義 埼玉  
菅俣 吉之助 東京

七月(五名)

×早坂 真次 山形  
山田 政滿 福井  
小林 雄次 廣島

明治四十三年第十三回卒業

七月(十一名)

井田 助作 新潟  
神谷 尙志 東京  
田中 林三 大阪  
河村 加四郎 廣島  
塚越 靜吉 群馬

明治四十四年第十四回卒業

七月(十七名)

×○川村 久治郎 福井  
×高橋 宗作 山形  
笠村 磁 栃木  
中山 勝 熊本  
吉田 潔 福岡  
×中澤 貞雄 長野  
×○村松 鼎 愛知  
田中 修次郎 東京  
鬼塚 正治 鹿児島

明治四十五年第十五回卒業

七月(十名)

片岡 虎之助 山形  
田中 正男 東京  
川尻 稔三 三重  
中村 正明 埼玉  
×○米田 保 福岡  
(舊姓前田) 中島 顯一 大阪  
中井 信隆 和歌山

大正二年第十六回卒業

大正三年第十七回卒業

三宅 仙吉 東京  
三木 保次郎 兵庫

(舊姓川上)  
○中野 宗治 長崎  
×松野 助吉 東京  
小松 尙次 靜岡

牧野 謙二 靜岡  
前田 九平 兵庫  
小林 彦四郎 栃木  
小金丸 汎愛 福岡  
阿曾 文雄 千葉

松崎 冬次 東京  
荒野 謙三 東京  
×住道 深永 福井

十月(一名)

阿田 彌一 東京

七月(十三名)

石井 宗吉 東京  
吉田 直造 長野  
宮永 次男 長崎  
山口 長次郎 長崎  
渡部 龜一 愛媛  
能勢 忠雄 愛知  
大月 菊男 茨城

大正四年第十八回卒業

七月(十三名)

岩井 準平 東京  
太田 知度 岡山  
磯野 泰二 福井  
(舊姓長田) 手塚 正男 長野  
高島 胤雄 三重  
幸田 伴次郎 福井  
中村 巖 廣島  
佐藤 玄三 岡山

大正五年第十九回卒業

七月(七名)

石森 武男 宮城  
本間 幸次郎 北海道  
笠井 繁治 山梨

大正六年第二十回卒業

三月(十一名)

蛭川 虎三 東京  
沼田 礎助 大分  
堀 重藏 和歌山  
鷹司 信敬 東京  
丹治 經治 福島

大正七年第二十一回卒業

三月(五名)

原 信 福岡  
吉武 實山 山口  
小園 龍次 佐賀

大正七年第二十一回卒業

關 晴雄 岩手  
鈴木 賢 千葉

十二月(一名)

澤田 進 東京

江熊 哲翁 大分  
遠谷 光時 山形

×越石 俊雄 新潟  
×今野 壽三 山形  
×青山 鉦吉 東京

大正八年第二十二回卒業

三月十名  
濱名 龜助 福島  
四岡 丑三 佐賀  
大島 信夫 東京  
落合 清 群馬  
加藤 喜八郎 石川

大正九年第二十三回卒業

三月八名  
巖谷 那珂彦 福岡  
永井 正 東京  
永坂 勝次 東京  
浦津 繁太郎 熊本  
上野 惇五 東京

大正十年第二十四回卒業

三月九名  
五十嵐 俊藏 山形  
石川 龜好 栃木  
高島 啓次 富山  
川村 正雄 東京  
梶田 與之亮 東京

大正十一年第二十五回卒業

三月十一名  
井上 良治 徳島  
○川名 武千葉  
高槻 俊一 廣島  
山田 豐 福岡  
向山 豐之進 山梨

大正十二年第二十六回卒業

三月十五名  
井澤 潤次 新潟  
石井 省二 靜岡  
原 邦明 鳥取  
土井 久之 靜岡  
鳥飼 敬義 千葉  
小野寺 元雄 宮城  
○川木 信之 東京

建部 豪 兵庫  
青木 三雄 神奈川  
明石 博次 京都

小林 忠太 栃木  
江島 静次 靜岡  
海老名 謙一 千葉

田中 友三 東京  
山田 一男 群馬  
八尋 武良次 福岡

野田 文綱 熊本  
熊田 朝男 栃木  
福田 亮三 和歌山

吉田 裕 東京  
田邊 貞夫 神奈川  
×田中華太郎 神奈川  
内藤 新吾 千葉

秋谷 庸 千葉  
齋藤 光雄 千葉

四月一名  
牧 健三 福岡

森本 敬義 東京

小見山 樹 京都  
酒井 勲 東京  
比留岡 崔 東京

山中 孝太郎 京都  
荒木 勝二 山形  
菊池 鶴松 埼玉  
齋藤 敏夫 岡山

大正十三年第二十七回卒業

三月二十二名  
稻葉 俊 茨城  
花田 信次郎 大阪  
○岡田 卓雄 茨城  
×渡邊 清枝 阜  
渡邊 茂男 山梨  
河原 途雄 兵庫  
川越 庸樹 福岡  
田中 仁平 靜岡  
○田村 松太郎 山口  
×玉利 亮一 東京  
瀧澤 武雄 長野

大正十五年第二十八回卒業

三月十五名  
伊藤 一 長崎  
岩橋 量 熊本  
稻葉 傳三 大阪  
○富山 哲夫 長崎  
川上 雅之 廣島  
田中 小治郎 徳島  
上野 鐵五郎 山形

昭和二年第二十九回卒業

三月十七名  
諫早 隆夫 東京  
○畑中 主計 福井  
新野 弘 東京  
奥野 忠雄 大阪  
川崎 吾八 佐賀  
×高須 賀頼 愛媛  
永川 保雄 福岡  
山本 宣夫 愛知  
×藤原 興助 岩手

永見 兼重 島根  
村上 義威 岐阜  
野口 利夫 兵庫  
野澤 鑑 栃木  
野澤 秀夫 栃木  
安川 隆 東京

日下部 肇次郎 神奈川  
矢板 開一 栃木  
山内 謙 大分  
古川 順一 愛媛

藤田 正 廣島  
小林 武 千葉  
遠藤 雄吉 鳥取  
相墨 春夫 新潟  
天野 政之 愛知

澤野 英四郎 京都  
木下 虎一郎 和歌山  
○水野 復一 東京  
宮崎 廣三 長野  
杉浦 秋一 愛知

福田 隆道 岡山  
福迫 徹 東京  
國分 善一 東京  
後明 喜好 新潟

酒井 銀次郎 東京  
瀧田 廣吉 埼玉  
鈴木 清賢 埼玉  
十二月一名  
小川 千秋 大分

昭和三年第三十回卒業

三月(十五名)

石島 涉 茨城  
大坪 眞幸 東京  
谷崎 正生 福岡

高橋 直利 岡山  
高橋 清三郎 山形  
立野 新光 岩手  
○中井 甚二郎 島根

中村 捷 群馬  
内橋 潔 兵庫  
倉本 三郎 東京  
楠本 俊夫 和歌山

藤田 四郎 山口  
小森 武雄 東京  
重松 正俊 佐賀  
廣瀬 篤耶 福島

昭和四年第三十一回卒業

三月(十五名)

稻並 芳幸 東京  
林 茂樹 廣島  
多田 稔 京都

竹之内 彦四郎 東京  
村上 二郎 兵庫  
黒田 克彦 兵庫  
久木田 寛信 鹿児島

矢野 瀧雄 福岡  
○山本 孝治 東京  
福岡 美省 東京  
兒玉 利一 兵庫

阪本 喜代松 兵庫  
白石 義晃 愛知  
清水 定雄 兵庫  
鈴木 權次郎 山形

(四) 本科特別入學

明治四十一年

製造科修業(七月二名)

陳 非支那  
曹 文 瀾支那

製造科修業(七月二名)

伍 正 名支那  
胡 濬 泰支那

製造科(三月一名)

李 重 漢 朝鮮

昭和三年

製造科聽講、研(十一月)

究證明(二名)  
ホーセ、ガルシア、マル  
チネス、メキシコ  
サムエル、ソリス、イ、  
サンチエス、メキシコ

明治四十三年

製造科修業(七月一名)

王文 泰支那

製造科(七月一名)

李 炫 國 朝鮮

大正十年

養殖科(三月二名)

特別卒業  
陳 謀 瑛支那  
陳 椿 壽支那

昭和四年

製造科在學

滿了(三月二名)

鄧 騰 裕支那  
張 榮 昌支那

製造科修了(六月一名)

李 明 哲 朝鮮

明治四十四年

製造科修業(七月二名)

林 元 良支那  
李 士 讓支那

大正六年

製造科(三月一名)

金 泳 煥 朝鮮

大正十一年

製造科(八月一名)

吳 設 支那

二 遠洋漁業科

明治三十三年卒業  
五月(一名) 黒田九萬男 東京

明治三十四年卒業  
七月(二名) 南摩 組廣 東京  
八月(一名) 藤田 勘太郎 島根

明治三十五年卒業  
二月(二名) 木村 廣三郎 石川  
二月(二名) 高原 剛太郎 福岡  
志村 次郎 東京  
七月(三名) 石野 敬之 千葉  
松崎 彌市 鹿兒島  
森 茂樹 鹿兒島

明治三十六年卒業  
一月(一名) 高橋 潤二 岡山  
十月(一名)

下田 奎一 廣島

明治三十七年卒業  
五月(二名) 小金丸 増太郎 福島  
十一月(一名) 戸田 半平 静岡

明治三十八年卒業  
一月(一名) 前田 春水 東京  
三月(一名) 松尾 秀夫 長崎  
十月(一名) 佐藤 正孝 山形

明治三十九年卒業  
四月(一名) 田中 仁吉 島根  
十一月(一名) 黒木 圓太 福岡

明治四十年卒業  
十一月(二名) 笈 多肥 茨城

美代 清信 鹿兒島

明治四十一年卒業  
八月(一名) 川添 友志 鹿兒島  
九月(一名) 上枝 平五郎 香川  
十二月(一名) 小松 重利 高知

明治四十三年卒業  
五月(二名) ×林田 甚八 長崎  
國司 浩助 山口  
十月(四名) 長友 寛 宮城  
柳 悦多 東京  
安達 誠三 愛媛  
秋山 實 千葉

明治四十四年卒業  
九月(四名) 吉田 義男 長崎  
福野 久松 石川

木下 信實 鳥取  
溝上 二州 兵庫  
十二月(一名) 宮脇 伊太郎 鹿兒島

大正元年卒業  
八月(四名) 市川 峯吉 三重  
谷本 坂憲 岡山  
新井 藤一 茨城  
巖田 靜夫 鹿兒島  
十月(四名) 飯田 公壽 福岡  
興儀 喜宜 沖繩  
後藤 節藏 大分  
日比 義三 岐阜  
十二月(一名) 岩本 清太郎 鳥取

大正二年卒業  
八月(六名) 渡邊 康介 愛知  
加藤 平吉 山形

武富 榮一 佐賀  
竹田 重雄 静岡  
後藤 榮助 香川  
柴戸 雅一 長崎  
十月(三名) 伊東 猪六 佐賀  
辻 知一 長崎  
木村 成松 福井  
十二月(一名) 木村 呈鳥 取

大正三年卒業  
三月(四名) 林 卯吉 大阪  
越智 章 埼玉  
小林 章之 埼玉  
佐藤 敬吉 山形  
五月(二名) 田中 耕之助 東京  
上野 省三 山形  
八月(一名) 山本 靜一 愛媛  
十月(二名) 大塚 三平 茨城

御厨 保太郎 長崎

大正四年卒業  
六月(一名) 古閑 義康 熊本  
十二月(五名) 飯田 興兵衛 東京  
葛城 忠男 石川  
國分 友海 鹿兒島  
莊 司 勇 山形  
島田 喜一 静岡

大正五年卒業  
四月(二名) 中川 甚藏 東京  
三輪 源造 岡山  
七月(六名) 高柳 繁太郎 群馬  
塚崎 謙吉 秋田  
山口 慶四郎 群馬  
馬上 福壽 福島  
松尾 我何人 長野  
久富 元長 埼玉  
十一月(一名) 柳井 捨吉 東京

十二月(一名) 岡本 重治 東京

大正六年卒業  
一月(二名) 桐本 富次 和歌山  
林 準二 東京  
四月(一名) 本田 光吉 愛媛  
六月(一名) 永福 虎 鹿兒島  
八月(三名) 大村 道一 兵庫  
大石 秀雄 静岡  
山本 清内 山形

大正七年卒業  
五月(一名) 中村 吉次 長野  
十月(一名) 仙波 平馬 栃木  
十二月(二名) 森村 共正 石川  
日下部 彦次郎 兵庫

大正八年卒業

五月(一名) 佐々木 政之助 宮城

大正九年卒業  
三月(二名) 關口 壽之助 東京  
和田 秀政 東京  
十二月(一名) 人見 秀四郎 東京

大正十年卒業  
一月(一名) 家坂 孝平 新潟  
八月(一名) 庵原 順一 兵庫  
十一月(二名) 池田 信也 廣島  
小濱 氏清 鹿兒島

大正十一年卒業  
十二月(一名) 大垣 光平 栃木

大正十二年卒業  
二月(二名) 谷口 武三 岐阜  
田原 精夫 東京  
三月(一名)

吉田春吉 東京  
大正十四年卒業  
四月(二名)  
新野二郎 宮城  
十月(一名)  
里内 晉 東京  
十二月(一名)

堤 正夫 静岡  
大正十五年卒業  
五月(一名)  
眞後 外見 新潟  
昭和二年卒業  
九月(一名)  
×間中 武男 茨城

十二月(一名)  
眞田 健三 山形  
昭和三年卒業  
六月(一名)  
安原 眞男 山形  
昭和四年卒業  
一月(一名)

仁平 宣威 茨城  
三月(一名)  
白鳥 健壽 宮城

三 研 究 科

明治三十七年卒業  
漁撈科(二月一名)  
日 高 靖 宮崎  
養殖科(十一月一名)  
今野 虎吉 福島  
明治三十九年卒業  
養殖科(十月一名)  
丸川 久俊 島根  
明治四十年卒業  
漁撈科(三月一名)  
吉永 費八郎 長崎  
明治四十一年卒業  
製造科(十二月一名)  
杉村 泰治 三重  
明治四十三年卒業  
漁撈科(六月一名)  
渡邊 理一 東京  
(七月一名)  
武富 榮一 佐賀  
製造科(十二月一名)

梅浦 健吉 東京  
明治四十四年卒業  
製造科(七月一名)  
小山 甲三 茨城  
明治四十五年卒業  
製造科(三月一名)  
矢野 實 富山  
大正二年卒業  
製造科(五月一名)  
深山 義道 千葉  
(六月一名)  
内田 孝雄 東京  
(七月三名)  
谷村 重忠 岡山  
山添 兵造 兵庫  
關根 豊崎 玉  
大正三年卒業  
漁撈科(七月一名)  
熊田 頭四郎 栃木  
大正四年卒業

漁撈科(七月一名)  
鈴木 敏三 福岡  
製造科(七月二名)  
萩原 茂長 野  
深澤 三郎 山梨  
養殖科(六月一名)  
中井 信隆 和歌山  
大正五年卒業  
漁撈科(五月二名)  
齋藤 陽三 東京  
李 炫 國朝 鮮  
製造科(三月一名)  
李 商 國朝 鮮  
(七月一名)  
弓削 讓 茨城  
(十月一名)  
近藤 辰雄 新潟  
養殖科(十月一名)  
三木 信幸 德島  
(十一月二名)

岡田 彌一 東京  
片岡 虎之助 山形  
大正六年卒業  
漁撈科(三月一名)  
德永 外治 石川  
製造科(四月一名)  
清水 淳三 神奈川  
(九月一名)  
秦 義 輔 福井  
養殖科(四月一名)  
中島 顯 耶 大阪  
(五月一名)  
佐藤 玄三郎 東京  
(七月一名)  
松井 佳一 山口  
(九月一名)  
藤本 政男 兵庫  
大正七年卒業  
漁撈科(一月一名)  
石崎 實三郎 愛媛

製造科(二月一名)  
小林 敏行 東京  
養殖科(十一月一名)  
鷹司 信敬 東京  
大正九年卒業

漁撈科(七月一名)  
服部 愛之助 大阪  
大正十一年卒業  
漁撈科(十二月一名)  
郷 朔雄 東京

養殖科(十二月一名)  
吉田 直道 長野  
大正十二年卒業  
漁撈科(二月一名)  
福野 久松 石川

大正十四年卒業  
製造科(二月一名)  
増田 與 東京  
昭和二年卒業  
漁撈科(十二月一名)  
久保 要 香川

四別

(一)漁撈科  
明治三十三年修業  
巾着網漁(三月五名)  
業專修  
月田 圓次 高知  
土井 常吉 新潟  
×大橋 直吉 静岡  
紙子 次作 石川  
多屋 勝四郎 和歌山  
明治三十九年修業  
遠洋漁業專修(十月五名)  
池田 兼吉 千葉  
×石井 次郎 千葉  
濱田 進 鹿兒島  
渡邊 梅吉 千葉  
津島 徳松 千葉  
明治四十年修業  
及延繩漁業(九月五名)  
岩崎 吉兵衛 静岡  
田崎 次郎 茨城

科 (現業科ヲ含ム)

増田 鬼一郎 静岡  
有原 初三郎 静岡  
見原 萬吉 静岡  
網漁業(十月四名)  
津田 萬治 千葉  
上原 丈助 千葉  
平田 辰五郎 千葉  
鈴木 萬之助 千葉  
網漁業(十二月二名)  
伊藤 猪之助 福岡  
小田 積美 東京  
明治四十一年修業  
遠洋漁業專修(四月六名)  
畑中 彦助 愛知  
西川 村三郎 徳島  
田中 由三郎 東京  
竹内 治郎吉 三重  
柳生 政藏 愛知  
笹田 歌吉 東京

捕鯨專修(六月八名)  
岩村 孫作 長崎  
向井 三吉 和歌山  
上原 由之助 静岡  
倉光 三郎 青森  
山岸 留之助 北海道  
小坂 定治 長崎  
島 可 淳 神奈川  
柴 恒太郎 岡山  
網漁業(十月六名)  
×一色 勇 京都  
川崎 徳左衛門 石川  
横山 林四郎 三重  
齋藤 與太郎 山形  
榊 梅太郎 新潟  
鈴木 三郎 千葉  
明治四十二年修業  
延繩及流  
網漁業(二月一名)  
筑城 徳沖 繩

鱒及鮭漁業(三月七名)  
染田 五助 長崎  
中世古 白吉 三重  
山本 重松 愛知  
湯淺 辰太郎 三重  
平松 幸枝 三重  
平賀 源之助 三重  
洲加本 三五右衛門 長崎  
網漁業(四月一名)  
鈴木 梅吉 千葉  
延繩及流(八月一名)  
×岩 並勝次郎 千葉  
明治四十三年修業  
延繩及流(一月一名)  
石塚 甚四郎 山形  
延繩及流(四月八名)  
石塚 直彦 山形  
中川 菊藏 三重  
山下 三之助 三重

山口 數平 三重  
佐藤 德松 秋田  
湯淺 高吉 三重  
宮崎 長太郎 秋田  
鹿内 力松 青森  
(二)製 造 科  
明治三十一年修業  
總詰專修(一月五名)  
河野 巖 宮崎  
加藤 明二 秋田  
鹽井 與八 石川  
廣瀬 宗義 鹿兒島  
森 義直 京都  
明治三十二年修業  
魚油魚蠟(八月五名)  
沃度專修(八月五名)  
×田中 清之助 三重  
山口 三之助 千葉  
長 良八 岩手  
越瀬 市松 和歌山  
佐藤 義厚 茨城  
總詰專修(十二月五名)  
中村 里次郎 愛知  
内田 藏次郎 島根

松浦 善市 熊本  
松坂 豐次郎 富山  
菅沼 仙之助 福島  
明治三十三年修業  
魚油魚蠟(二月五名)  
沃度專修(二月五名)  
畑谷 丑太郎 北海道  
赤平 卯十郎 青森  
佐藤 漁太郎 宮城  
宮津 晋次 山口  
杉本 傳太郎 靜岡  
總詰專修(十二月五名)  
及川 鼎壽 宮城  
村田 新五郎 愛知  
山田 德松 宮崎  
×梁 瀨 弘長 崎  
吉川 德吉 滋賀  
明治三十四年修業  
魚油魚蠟(三月三名)  
沃度專修(三月三名)  
田中 富佐 福井  
松本 鶴次郎 高知  
木高 金之助 千葉  
總詰專修(十月二名)  
大黒 誠 高知

齋藤 初治 長崎  
魚油魚蠟(十二月四名)  
沃度專修(十二月四名)  
池内 林太郎 高知  
熊谷 伊三郎 福岡  
山口 太助 佐賀  
森崎 茂樹 靜岡  
總詰專修(十二月五名)  
村江 保翼 長崎  
小松 由平 千葉  
宮内 喜一 鹿兒島  
鈴木 兼助 愛知  
菅原 養藏 宮城  
明治三十五年修業  
總詰專修(十月五名)  
節類其他  
秦 信之助 島根  
(舊名榮)  
米田 隆保 青森  
山本 荒太郎 福岡  
山下 藤三郎 鹿兒島  
總詰專修(十二月六名)  
糸井 藤吉 京都  
(舊名榮)  
米田 隆保 青森  
中尾 千代之助 鹿兒島

山田 忠五郎 東京  
新井 元吉 和歌山  
里見 時之助 山口  
明治三十六年修業  
魚油魚蠟(四月四名)  
沃度專修(四月四名)  
(舊名榮)  
米田 隆保 青森  
前田 隆次郎 愛知  
小松 由平 千葉  
齋藤 玉治 愛知  
節類其他  
總詰專修(十一月三名)  
市川 忠吉 山形  
山岡 則重 高知  
安里 積助 沖繩  
總詰專修(十二月六名)  
井上 三太郎 三重  
花見 七治 北海道  
金子 房治 千葉  
河合 音治 愛知  
田村 忠大夫 岩手  
黃 桂 芬 支那  
魚油魚蠟(十二月五名)  
沃度專修(十二月五名)  
島山 吉雄 宮城

磯板 源三郎 福岡  
大久保 直次郎 高知  
古川 九瀨次 熊本  
坂口 榮太郎 靜岡  
明治三十七年修業  
總詰專修(十月八名)  
×濱 壽楠 和歌山  
加藤 磯次 富山  
八木 佐吉 滋賀  
山田 達 愛知  
松浦 金平 兵庫  
紺谷 平治 石川  
相木 嘉一 福井  
森 眞 靜岡  
明治三十八年修業  
節類其他  
總詰專修(十月二名)  
箱石 米定 岩手  
名嘉 幸徳 沖繩  
總詰專修(十二月十名)  
堀内 謙藏 岩手  
堀部 貫一 大分  
小野 末男 福島  
大上 伊勢吉 兵庫

高橋 敬三郎 三重  
山口 恒藏 熊本  
×高杉 賢藏 秋田  
田中 實之助 愛知  
仲田 文五郎 沖繩  
森本 喜之助 和歌山  
魚油魚蠟(十二月五名)  
沃度專修(十二月五名)  
土岐 音吉 千葉  
高鍋 志郎 兵庫  
田井 安太郎 京都  
曾根 武兵衛 和歌山  
松浦 萬鶴 太田  
明治三十九年修業  
節類其他  
總詰專修(十月六名)  
德平 秀那 沖繩  
竹田 信平 島根  
國吉 榮洪 沖繩  
淺沼 文八 東京  
坂下 圓次郎 岩手  
柴 正式 富山  
總詰專修(十二月十名)  
濱口 義正 三重  
西川 正次 東京

放生 要松 富山  
相馬 柳吉 秋田  
梅野 忠政 愛知  
岡田 太郎 鹿兒島  
矢野 喜藏 新潟  
松浦 久雄 三重  
小松 義篤 新潟  
趙 楣 支那  
魚油魚蠟(一月三名)  
總詰專修(一月三名)  
芳賀 岩治郎 宮城  
小坂 傳吉 岩手  
小澤 謙三 千葉  
冷瀨 法(九月一名)  
村上 徳市 廣島  
節類其他專修(十月三名)  
岩崎 宇平 宮崎  
村上 倉次郎 北海道  
齋藤 八郎 靜岡  
總詰專修(十二月七名)  
一色 彌太郎 京都  
石川 喜助 北海道  
秩父 重宏 青森

大畑 伊八 三重  
野村 利兵衛 京都  
山道 隆長 崎  
三浦 大造 愛知  
明治四十一年修業  
節類其他  
總詰專修(九月四名)  
井合 榮俊 新潟  
佐野 實 香川  
三浦 操 島根  
日比谷 要造 神奈川  
總詰專修(十二月七名)  
伊藤 末千代 山口  
今藤 一馬 宮城  
岩崎 正己 島根  
石原 彦三 三重  
河野 徳治 神奈川  
野川 重五郎 岩手  
小堀 誠一 滋賀  
節類其他  
總詰專修(九月三名)  
橋本 喜之助 青森  
桂 信吉 京都  
田所 壽彦 高知



龍詩專修(十二月九名)  
 今立 昌雄 福井  
 馬場 一夫 滋賀  
 島中 敬三 山形  
 高橋 善三 宮城  
 栗本 冬助 北海道  
 山本 金吉 三重  
 佐藤 哲郎 三重  
 吉川 廣助 熊本  
 三橋 淳 鳥取  
 明治四十三年修業  
 貝殼彫刻專修(七月四名)  
 ×伊笠 小六 東京  
 津田 德 高知  
 逆佐 孫藏 宮城  
 森本 繁尾 高知  
 禮詰專修(十二月十二名)  
 池山 盛一 三重  
 芳賀 岩次郎 宮城  
 岡崎 常松 愛媛  
 渡邊 照吉 北海道  
 加藤 福松 愛媛  
 上林 唯治 京都

加瀬 松吉 茨城  
 田中 東太郎 北海道  
 福士 貞三 青森  
 酒井 茂吉 高知  
 紀谷 金之助 北海道  
 東 鐵造 大分  
 明治四十四年修業  
 貝殼彫刻專修(七月六名)  
 池田 興志雄 熊本  
 德井 利左衛門 三重  
 渡邊 正勝 福島  
 隈部 文男 熊本  
 三好 德三郎 愛媛  
 弘末 英男 高知  
 大正三年修業  
 珊瑚彫刻專修(四月四名)  
 泉 助次郎 宮城  
 知場 伊太郎 福島  
 竹中 尙三 鹿兒島  
 江夏 武義 鹿兒島  
 大正四年修業  
 珊瑚及介殼  
 彫刻專修(九月一名)  
 高橋 清一郎 長崎

大正六年修業  
 珊瑚及介殼  
 彫刻專修(三月三名)  
 有島 好光 鹿兒島  
 宮司 登 靜岡  
 清水 義八 新潟  
 彫刻專修(十一月一名)  
 栗田 達道 熊本  
 貝殼彫刻專修(十二月一名)  
 南風原 英當 沖繩  
 龍詩專修(十二月十四名)  
 泉 拙 秋田  
 星野 誠一 東京  
 田中 泰夫 京都  
 田中 長一 北海道  
 中村 義男 福岡  
 宗像 敬二 東京  
 宗像 健吉 福岡  
 上野 務 大分  
 山口 保平 神奈川  
 藤井 金吾 廣島  
 後藤 滿 愛知  
 赤沼 由郷 青森  
 菅原 誠 宮城

鈴木 富太郎 三重  
 貝殼彫刻專修(十二月一名)  
 赤井 卯八 福井  
 大正七年修業  
 貝殼彫刻專修(十月二名)  
 市川 友治 茨城  
 山本 政七 高知  
 大正八年修業  
 貝殼彫刻專修(四月二名)  
 多田 館 山形  
 野口 貞美 東京  
 貝殼彫刻專修(六月二名)  
 東 角藏 岐阜  
 菅 繁 弘 鹿兒島  
 大正九年修業  
 貝殼彫刻專修(四月一名)  
 鷹本 利太郎 愛媛  
 貝殼彫刻專修(七月一名)  
 二見 林太郎 神奈川  
 貝殼彫刻專修(十月一名)  
 市川 正次 栃木  
 大正十年五月修業  
 貝殼彫刻專修(五月一名)

安並 善次郎 高知  
 貝殼彫刻專修(十二月一名)  
 五十嵐 善晴 山形  
 大正十一年修業  
 貝殼彫刻專修(七月一名)  
 仁科 逸郎 千葉  
 水産工藝  
 坂入 一三男 茨城  
 大正十二年修業  
 水産工藝  
 浦田 武夫 岡山  
 及川 善一 岩手  
 水産工藝  
 寶來 利一 兵庫  
 高田 卯一 群馬  
 齋藤 學 福井  
 大正十三年修業  
 水産工藝  
 專修(十二月三名)

岩田 利機 東京  
 竹内 弘次 神奈川  
 野村 廣一 宮城  
 (三)養殖科  
 明治四十一年修業  
 鮭鱒養殖(三月三名)  
 石川 廣之助 茨城  
 拂川 悌之助 秋田  
 野村 菊次郎 宮城  
 大正十三年修業  
 淡水養魚  
 專修(三月五名)  
 内藤 啓一 愛知  
 内田 靜雄 靜岡  
 山本 四郎 愛知  
 幸田 勇喜雄 長野  
 清水 久馬次 兵庫  
 大正十四年修業  
 淡水養魚專修(三月八名)

岩崎 松三郎 宮城  
 河合 一次 愛知  
 吉岡 正三 三重  
 吉川 義人 熊本  
 村松 讓 靜岡  
 小庭 太郎 岡山  
 寺田 孫兵衛 靜岡  
 相澤 彌生 群馬  
 大正十五年修業  
 淡水養魚專修(三月五名)  
 岩村 久喜 熊本  
 大川 富秀 三重  
 與那原 孫莊 沖繩  
 植松 正徳 島根  
 寺岡 正義 福岡  
 昭和二年修業  
 淡水養魚專修(七月五名)  
 石黒 二郎 愛知

谷口 秀男 宮崎  
 國府田 公 栃木  
 關根 豐重 茨城  
 關澤 祐次 茨城  
 昭和三年修業  
 淡水養魚專修(六月三名)  
 永井 清作 宮崎  
 内山 夏夫 福井  
 森 初穂 北海道  
 昭和四年修業  
 淡水養魚專修(六月五名)  
 矢田 操 鳥取  
 安藤 伊太郎 香川  
 下村 義徳 茨城  
 下村 七太郎 滋賀  
 森谷 榮造 茨城

五 水産教員養成科

明治三十年卒業  
十二月(十五名)  
市原佐太郎 高知  
羽生辨之進 愛媛  
大竹 敬造 北海道  
加藤伊砂吉 静岡  
片岡久次郎 新潟  
加藤登太郎 山形

六 製鹽技術員養成科

明治三十九年卒業  
三月(十名)  
市川 信次 鹿兒島  
濱 清一 栃木  
富田 登吉 埼玉  
東條 高治 新潟  
岡本 靜一 福岡  
中原 經治 福岡  
中村 丈福 福岡

明治四十年卒業  
三月(八名)  
室川 重義 和歌山  
北川 九一 滋賀  
平林 保義 東京  
尾關 素一 東京  
吉武 幾甫 山口  
永井 重藏 兵庫  
黒田 藤五郎 愛媛

明治四十一年卒業  
三月(六名)  
黒住 安臣 岡山  
松田 一平 徳島  
三浦 一 岩手  
三輪 清彦 愛知  
橋本 昇次郎 栃木  
片山 甲太郎 三重  
× 永山 千春 東京

明治四十二年卒業  
三月(十名)  
安岡 貞雄 高知  
清水 新太郎 香川  
清家 幹一 愛媛  
糸雅 仁一 埼玉  
伊藤 純造 埼玉  
大塚 松次 栃木  
早稻田 俊彦 愛知

明治三十六年卒業  
四月(十名)  
西原 佐一 愛媛  
長内 清吾 青森  
山本 次郎 熊本  
松波 虎之助 和歌山  
佐藤 運 岡山

笹子 治 千葉  
喜多川 良吉 東京  
志水 清兵衛 兵庫  
篠原 直衛 廣島  
森川 萬藏 福井

七 特殊技術員養成科

明治四十四年卒業  
製鹽科(三月八名)  
金子 團三 新潟  
米倉 八郎 宮城  
吉野 久 北海道  
山田 章治 大分  
丸山 廣作 新潟  
遠藤 金治 宮城  
佐藤 典市 大分  
柴田 政行 北海道

明治四十四年卒業  
三月(九名)  
地井 辰藏 千葉  
吉戸 昌俊 愛知  
田村 音吉 千葉  
村尾 福太 神奈川  
安田 豊吉 千葉  
山下 太郎 東京  
駒澤 惣平 北海道  
小形 徳治 東京  
越中谷 定吉 秋田

明治四十四年卒業  
三月(九名)  
田中 半七 香川  
高瀬 鶴次郎 富山  
安田 友吉 東京  
小杉 徳治 東京  
越中谷 定吉 秋田  
冷水魚養殖(八月七名)  
石川 久治 東京  
石川 廣之助 茨城  
池田 藤太郎 兵庫  
星野 守治 群馬  
和井内 貞時 秋田  
金子 傳次郎 岐阜  
高木 初太郎 福井  
谷川 吉之助 福井  
村井 謙三郎 福島

明治四十四年卒業  
養殖及漁業(九月五名)  
木調査方法  
田谷 英石川  
村上 秀治郎 福井  
山崎 眞輔 秋田  
菊地 興易 茨城  
北原 定治 福井  
標 賢一 山梨  
平野 長藏 福島  
平塚 金兵衛 長野  
門馬 當次郎 福島  
船用發動機(十月三名)  
土肥 長作 新潟  
小出 健太郎 新潟  
山本 通 愛媛





計	メ	支	朝	沖	鹿	宮	熊	佐	大	福	高	愛	香	德
	キ	那	鮮	繩	兒	崎	本	賀	分	岡	知	媛	川	島
	シ		縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣
	コ													
五九四					二	七	一	七	五	三	一	一	八	四
五九八				四	四	二	七	四	九	一	六	八	〇	三
二八九				四	七	八	五	一	三	一	四	一	四	
一四八				五	四	三	九	一	九	六	〇	三	七	二
二四		一	六											
×〇三七				一	九	一	二	一	三	一	三	二		
四四三				二										
四三〇				二	八	〇	五	九	一	三	七	一	三	二
二五														
四三														
七四														
二二四														
四七二				二	八	二	五	〇	二	五	九	一	六	九
二二八														
×三八				二	八	四	六	四	五	二	四	四	二	五

和	山	廣	岡	島	島	富	石	福	秋	山	青	岩	福	宮	長	岐	滋	山	靜	愛	三	奈	枋	茨	千	群	埼	新	長			
歌	山	島	山	根	取	山	川	井	田	形	森	手	島	城	野	阜	賀	梨	岡	知	重	良	木	城	葉	馬	玉	湯	崎			
縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣		
六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一			
八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
五	〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
五	八	九	六	三	二	一	三	七	一	二	五	六	四	八	二	一	三	七	二	四	七	二	四	七	五	三	四	七	六	三		
一	四	四	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
六	四	五	八	四	二	二	三	七	九	三	七	四	〇	三	四	一	四	六	一	三	八	四	三	二	五	二	八	四	五	三		
二																																
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
八	三	二	三	六	二	四	四	六	七	七	〇	八	四	四	一	五	一	五	一	八	二	四	二	〇	九	二	六	〇				
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二																																
一																																
一	〇	六	五	六	六	二	八	六	九	四	九	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
二	五	二	三	七	二	一	四	三	四	一	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	

附 錄

一 在外研究員

在外研究生規程及在外研究員規程ニ依リ海外ニ派遣シタル者左ノ如シ

研 究 事 項	派 遣 期 間	官 名	氏 名
獨逸國ニ於ケル水産養殖法ノ研究 奧國及伊國ニ於ケル淡水魚養殖研究	至自明治四〇、一一、二二 至同明治四二、一一、二七	技手	日暮 忠
英國及諾威國ニ於テ漁撈法ノ研究	至自明治四二、一一、三一 至同明治四四、一一、三一	技手	小瀬 次郎
佛國ニ於テ水産食用品製造法研究 英國ニ於テ水産食用品製造法研究	至自明治四四、一一、三一 至同明治四四、一一、三一	技手	小野辰次郎
獨逸國及諾威國ニ於テ水理生物學研究	至自明治四四、一一、三一 至同明治四五、一一、三一	技手	丸川 久俊
米英佛國ニ於テ貝類其他鹹水魚養殖研究 伊太利國 珊瑚ノ研究	至自明治四五、一一、三一 至同明治四五、一一、三一	技師	妹尾 秀實
獨逸國ニ於ケル罐詰其他食品及油蠟 等ニ關スル事項並生理化學ノ研究	至自明治四五、一一、三一 至同明治四五、一一、三一	技師	山 川 洵
追加 北米合衆國ニ於テ前記研究事項ノ外國 食物條例實施方法ノ研究	至自明治四五、一一、三一 至同明治四五、一一、三一	技師	山 川 洵

英國汽船流網及北米合衆國ニ於ケル旋網及英國ニ於テ水産物製造法、貯藏法及魚病ニ關スル細菌學的研究	至自大正一一、一一、二一 至同大正一一、一一、二一	技手	關 根 磯 吉
米國、英國、佛國、獨逸國及伊國ニ於テ水産ニ關スル機械ノ研究	至自大正一一、一一、二一 至同大正一一、一一、二一	技師	星 野 三 郎
米國ニ於テ水産ニ關スル發生學及生存統計學研究	至自大正一一、一一、二一 至同大正一一、一一、二一	技師	寺 尾 新
米國ニ於テ食品化學並ニ有機化學ノ研究	至自大正一一、一一、二一 至同大正一一、一一、二一	技師	山 本 祥 吉
獨逸國ニ於テ水産製造化學ノ研究	至自大正一一、一一、二一 至同大正一一、一一、二一	技師	大 谷 武 夫

二 職員移動 (自昭和三年十一月至同四年十一月)

昭和三年十一月三十日 雲鷹丸船長ヲ免シ講習部流撈勤務ヲ命ス	技師 山本 静一	昭和四年一月二十四日 兼任水産講習所技師	農林技師 春日 信市
同日 雲鷹丸事務長ヲ免シ庶務課勤務ヲ命ス	屬 岩崎 甚左衛門	同日 兼任水産講習所技師	農林技師 野島 休五
同日 雲鷹丸機關長ヲ免シ講習部流撈勤務ヲ命ス	囑託員 吉元 榮之助	同日 兼任水産講習所技師	助教授 西 墻 朝祐
同日 雲鷹丸一等機關士ヲ免シ青島丸機關取扱ヲ命ス	囑託員 飛田 仁助	昭和四年三月二十五日 任農林技師	技師 小瀬 次郎
同日 雲鷹丸乘組ヲ免シ方向探知機試驗ノタメ青島丸乘組ヲ命ス	囑託員 尾島 勤次郎	昭和四年三月二十九日 兼任農林技師	技師 野元 俊一
同日 復職ヲ命ス	休職水無講習所技師 手字 田道隆	同日 兼任農林技師	技師 鎌田 武造
昭和三年十二月二十二日 願ニ依リ船用機關取扱囑託ヲ解ク	囑託員 吉元 榮之助	同日 兼任農林技師	技師 兼農林技師 妹尾 秀實
昭和四年一月十七日 任水産講習所技師	技師 手字 田道隆	昭和四年三月三十日 依願免本官	技師 兼農林技師 小瀬 次郎
昭和三十四年一月二十二日 研究期間延長願ノ件許可ス	在外研究員教授 大谷 武夫	同日 依願免本官	農林技師 杉坂 博同

同日 依願免本官 技師 兼農林技師 野元 俊一	細菌學教授 囑託ヲ解ク	囑託員 中井 信隆
同日 依願免本官 技師 兼農林技師 鎌田 武造	同日 適温試驗 囑託ヲ解ク	囑託員 植田 三郎
同日 依願免本官 技師 兼農林技師 星野 三郎	同日 適温試驗 囑託ヲ解ク	囑託員 清水 亘
同日 依願免本官 技師 兼農林技師 梶山 英二	同日 蟹類諸内容物ノ化學的變化ニ關スル試驗 囑託ヲ解ク	囑託員 浦田 淳造
同日 免兼官 技師 兼農林技師 堀江 武夫	同日 動物植物寫生事項 囑託ヲ解ク	囑託員 長岡 牛太郎
同日 任農林技師 兼水産講習所教授 囑託員 山田 德二郎	同日 冷凍試驗及物理ニ關スル事項 囑託ヲ解ク	囑託員 加茂 正雄
昭和四年三月三十一日 願ニ依リ養魚餌料研究 囑託ヲ解ク	同日 水産應用機械ニ關スル試驗及調査 囑託ヲ解ク	囑託員 山本 武藏
同日 用濟ニ付たらば蟹ノ生態ニ關スル調査研究 囑託ヲ解ク	同日 漁船船型試驗 囑託ヲ解ク	囑託員 今村 喜市
同日 用濟ニ依リ無線電信事務取扱 囑託ヲ解ク	同日 水産講習所々屬船舶運轉士事務取扱 囑託ヲ解ク	囑託員 鎌田 太平
同日 海洋調査ニ關スル事項 囑託ヲ解ク	昭和四年三月三十一日 水産講習所海苔養殖試驗地管理 囑託ヲ解ク	囑託員 原十 太
昭和四年三月三十一日 水産講習所講師 囑託ヲ解ク	同日 海洋調査ニ關スル事項 囑託ヲ解ク	囑託員 寺田 寅彦
同日 水産講習所ニ於ケル赤潮魚病其他細菌ニ關スル調査 囑託ヲ解ク	同日 水産講習所ニ於ケル海洋學ニ關スル研究事項 囑託ヲ解ク	

漁業基本調査ニ關スル事項囑託ヲ解ク

囑託員 相川 廣 秋

同日海洋ニ關スル調査囑託ヲ解ク

中井 信 隆

同日魚病學教授及同實驗ヲ囑託ス

殖田 三 耶

同日水産植物學教授及同實驗ヲ囑託ス

村金 太 耶

昭和四年四月一日任水産講習所教授兼農林技師如故

水産講習所所長ヲ命ス

技師 日暮 忠

同 星野 三 耶

同 梶山 英 二 耶

同 淺野 彦 太 耶

同 丸山 久 俊

同 佐藤 藤 兒

同 田内 森 三 耶

同 松井 佳 一

同 長棟 暉 友

同 岡田 光 世

同 木村 喜 之 助

同 宇田 道 隆

昭和四年四月一日文官分限令第三條第一項第三號ニ依リ本官ヲ免ス

同日免兼官

日暮 忠

田内 森 三 耶

長棟 暉 友

岡田 光 世

農林技師 杉 浦 保 吉

同日任水産講習所教授 農林技師兼水産講習所技師 春日 信 市

同日任水産講習所教授 農林技師兼水産講習所技師 春 日 信 市

同日任水産講習所教授 農林技師兼水産講習所技師 春日 信 市

同日任水産講習所教授 農林技師兼水産講習所技師 春日 信 市

同日任水産講習所教授 農林技師兼水産講習所技師 春日 信 市

同日任水産講習所教授 農林技師兼水産講習所技師 春日 信 市

同日任水産講習所教授 農林技師兼水産講習所技師 春日 信 市

各 通

水産講習所技師 關 晴 雄

同 三浦 定 之 助

同 神谷 尙 志

同 川尻 尙 三 稔

同 西岡 丑 三 夫

同 大島 信 一 夫

同 佐藤 重 一 夫

同 小西 芳 太 耶

同 石井 一 美 耶

同 林 壽 美

水産講習所屬 中 司 正 朔

同 中野 清 朔

同 熊田 朝 男

昭 和 四 年 四 月 一 日 文 官 分 限 令 第 三 條 第 一 項 第 三 號 二 依 本 官 ヲ 免 ス

水産講習所技師 岡 本 五 耶 三

同日任水産試験場技師

水産講習所屬 瀧 上 保 喜

同日任水産試験場屬

教 授 井 出 正 孝

昭 和 四 年 四 月 五 日 教 務 課 長 ヲ 免 ス

教 授 杉 浦 保 吉

同日教務課長ヲ命ス

水産試験場技師 源 生 一 太 耶

昭 和 四 年 四 月 八 日 機 械 學 ノ 教 授 ヲ 囑 託 ス

水産試験場技師 木 村 喜 之 助

同日物理學ノ教授ヲ囑託ス

水産試験場技師 山 本 祥 吉

同日食品論ノ教授及化學實驗ヲ囑託ス

水産講習所技師 宇 田 道 隆

同日數學ノ教授ヲ囑託ス

水産講習所技師 宇 田 道 隆

同日海洋學、湖沼學、漁場論、浮游生物學ノ教授及實驗、實習ヲ囑託ス

水産講習所技師 丸 川 久 俊

同日食料論ノ教授及化學實驗ヲ囑託ス

水産講習所技師 宇 田 道 隆

昭 和 四 年 四 月 八 日 貯 藏 論 ノ 教 授 ヲ 囑 託 ス

水産講習所技師 木 村 金 太 耶

昭 和 四 年 四 月 十 日 動 物 學 及 養 殖 論 ノ 教 授 ヲ 囑 託 ス

正五位勳四等 妹 尾 秀 實

昭 和 四 年 四 月 二 十 二 日 顧 二 依 普 通 動 物 學 授 業 及 實 驗 並 魚 病 學 授 業

囑託ヲ解ク

囑託員 岡 田 彌 一 耶

昭 和 四 年 四 月 三 十 日 任 水 産 講 習 所 助 教 授

小 谷 和 夫

昭 和 四 年 五 月 十 七 日 動 物 學 ノ 教 授 及 實 驗 ヲ 囑 託 ス

川 本 信 之

昭 和 四 年 六 月 二 十 九 日 小 田 原 實 習 場 衛 生 事 項 囑 託 ヲ 解 ク

囑託員 栗 原 祐 吉



昭和四年八月十七日實習船機關取扱此機關學ノ教授及實習ヲ囑託ス  
 昭和四年九月六日任水産講習所技師兼水産講習所教授  
 昭和四年九月十八日無線電信電話ニ關スル事務ヲ囑託ス  
 昭和四年十月五日白鷹丸船長ヲ命ス  
 昭和四年十月五日白鷹丸一等運轉士ヲ命ス  
 昭和四年十月五日白鷹丸一等機關士ヲ命ス  
 昭和四年十月五日青鷗丸乗組ヲ免シ白鷹丸二等機關士ヲ命ス  
 昭和四年十月五日白鷹丸事務長兼任ヲ命ス  
 昭和四年十月十四日白鷹丸機關取扱ヲ囑託ス

昭和四年十月十四日白鷹丸機關長ヲ命ス  
 昭和四年十月十四日歸朝  
 昭和四年十一月六日數學教授囑託ヲ解ク  
 昭和四年十一月十八日實習船白鷹丸船醫ヲ囑託ス  
 昭和四年十一月二十八日任水産講習所技師  
 昭和四年十一月二十九日死亡  
 昭和四年十一月三十日解囑  
 昭和四年十一月三十日解囑

### 三 學 友 會

德操ヲ研磋シ體育ノ發達ヲ期センカ爲メ職員學生相謀リテ學友會ヲ組織シ所長ヲ會長トシ本所監督ノ下

ニ開會スルモノニシテ之ニ要スル費用ハ職員並學生ノ醜金ヲ以テ支辨ス

本會ハ學藝部及運動部ノ二部ニ分チ學藝部ヲ更ニ講演、辯論ノ二部、運動部ヲ更ニ端艇柔道劍道庭球角力水泳及野球部ノ七部トシ學藝部ニ於テハ每學期一回以上講演會ヲ開キ或ハ知名ノ士ヲ聘シ或ハ本所教官ノ講演ヲ請ヒ以テ學生ノ德風ヲ發揚センコトヲ期セリ

運動部ニ於テハ各部毎年一回大會ヲ開キテ技術ノ鍊磨身體鍛鍊ノ目的ヲ達セシメンコトヲ期セリ

本會役員左ノ如シ

會長 岡村金太郎  
 幹事 日暮忠  
 幹事 深山義道  
 學藝部長 杉浦保吉  
 學藝部長 松生義勝  
 理事 三浦正  
 小石安一

辯論部委員 加藤忠臣  
 中村敏郎  
 濱田重行  
 高野正三郎  
 高橋福治

運動部長 山川 洵  
 柔道部委員長 小石 安一 委員 寺島熊男  
 劍道部委員長 草間 秀俊 委員 金子陸治  
 相撲部委員長 篠山武次郎 委員 關谷治郎  
 端艇部 委員長 庵原順一 委員 福田政信  
 副委員長 保田武夫 委員 森巳太郎  
 庭球部委員長 小谷 和夫 委員 北島岬  
 野球部委員長 猿谷 九万 委員 豐田正謙  
 水泳部委員長 海老名謙一 委員 辻邊 尚  
 會計掛 石鹽甚二郎  
 荻山熊吉

# 水産講習所學友會規則

## 第一章 總 則

第一條 本會ハ水産講習所學友會ト稱ス  
第二條 本會ハ會員ノ親睦ヲ厚クシ精神ノ修養身體ノ鍛鍊ヲ爲スヲ目的トス

第三條 本會ハ本所現職職員出身者及學生ヲ以テ組織ス  
第四條 本會ハ其目的ヲ達センカ爲左ノ二部ヲ置ク

一 學藝部  
二 運動部

學藝部ナ分チテ講演部及辯論部ノ二部トシ運動部ナ分チテ端艇部柔道部、劍道部、庭球部、角力部、水泳部及野球部ノ七部トス  
第五條 各部ニ於テ其細則ヲ設クルトキハ會長ノ認可ヲ受ケヘシ

## 第二章 會 員

第六條 會員ヲ分チテ左ノ三種トス  
一 通常會員(本所學生)  
二 特別會員(本所職員)  
三 贊助會員(本所出身者及舊職員)

## 第三章 役 員

第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク  
一 會長 一名本所所長之ニ任ス

二 幹事 三名本所職員中ヨリ會長之ヲ囑託ス  
三 部長 學藝部運動部各一名 同上  
四 理事 三名 同上  
五 運動部委員長 七名 同上  
六 會計掛 二名 同上  
七 委員 學藝各部三名、運動各部二名 學生互選  
但シ端艇部委員ハ六名トス

第八條 會長ハ會務ヲ總理ス  
幹事ハ會長ヲ補佐シテ本會ノ會務ヲ掌ル  
部長ハ其部ノ事務ヲ掌ル  
理事ハ學藝部長ヲ補佐シ其部ノ事務ヲ掌ル  
運動部委員長ハ部長ヲ補佐シ各部ノ事務ヲ掌ル  
會計掛ハ本會ノ會計事務ヲ掌ル  
委員ハ其部長及委員長ノ指揮ヲ承ケ及會計委員ハ會計掛ヲ補佐シ各事務ヲ處理ス

第九條 委員ノ任期ハ一年トシ毎年四月ニ始マリ翌年三月ニ終ル  
委員ノ改選ハ毎年四月之ヲ行フ

## 第四章 會 議

第十條 會議ヲ分ツテ總會役員會及部會トス  
第十一條 總會ハ毎年四月一回之ヲ開ク  
第十二條 役員會ハ役員ヲ以テ組織シ重要ナル會議ヲ決議ス

第十三條 部會ハ其部ニ關スル事務ヲ決議ス  
部會ノ決議ハ會長ノ承認ヲ承ケヘシ

第十四條 必要ノ場合ニ於テハ會長ハ臨時總會ヲ開クコトアルヘシ

## 第五章 會 計

第十五條 通常會員ノ會費ハ一箇年九圓トシ各學年ノ始ニ之ヲ前納スルモノトス

## 四 財團法人水産研究獎勵會

本所創立ヨリ十年水産講習所創立ヨリ二十年ニ相當スル明治四十年三月二十二日ヲトシ有志者相謀リ水産研究獎勵會獎學資金ヲ募集シ翌四十一年六月創立資金一萬二千四百三十四圓六十七錢四厘ヲ以テ財團法人ヲ設立シ水産講習所學生及其他ノ者ニ對シ水産ニ關スル研究ヲ獎勵スル爲メ學資又ハ資金ヲ補給或ハ貸與若ハ賞與スルコトトナセリ同財產ハ現時登錄資產八萬貳千圓ニシテ創立以來本所生徒ノ學資補給ヲ受ケタルモノ二十六人此金額九千八百九十四圓五十錢貸與ヲ受ケタルモノ五十四人此金額壹萬八圓ニシテ内本年度ニ於テ學資補給ヲ受ケタルモノ二人此

金額四百八十圓貸與ヲ受ケタルモノ水産講習所在學生五人此金額八百十圓、大學在學生六人此金額千圓ナリ

寄 附 行 爲 (昭和二年四月二十三日改正)

### 一 目 的

第一條 本財團法人ハ水産講習所學生及其他ノ者ニ對シ水産ニ關スル研究ヲ獎勵スル爲メ學資又ハ資金ヲ補給シ貸與シ若クハ賞與ヲ附與スルニアリ

### 二 名 稱

第二條 本財團法人ハ財團法人水産研究獎勵會ト稱ス

### 三 事 務 所

第三條 本法人ハ事務所ヲ東京市深川區越中島町八番地水産講習所

内ニ置ケ

四 資 産

第四條 本法人ハ左記ノ資産ヲ以テ組成ス

一、牧朴眞ノ募集ニ係ル水産講習所奨學資金ノ現金及有價證券

二、牧朴眞ノ募集ニ係ル伊谷以知ニ耶奨學資金ノ現金及有價證券

三、故山脇宗次遺族ノ寄附ニ係ル現金

四、故林田甚八遺族ノ寄附ニ係ル現金

第五條 本法人ハ寄附金品ヲ受ケルコトヲ得

第六條 本法人ノ經費ハ其資産ヨリ生スル收入ヲ以テ支辨ス

但シ寄附金募集ニ要スル經費ハ資産ヨリ支出スルコトヲ得

第七條 本法人ノ事業年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 本法人ノ收支豫算決算並ニ事業ノ狀況ハ毎年一回常議員會

ノ承認ヲ經テ發表ス

第九條 本法人解散スルニ到リタルトキハ顧問理事監事全員ノ同意

ヲ得且ツ常議員會ノ決議ヲ經タル後主務官廳ノ許可ヲ得テ其資産

ヲ本財團法人ノ目的ト同一ナルカ又ハ之ト類似セル他ノ學校團體

若クハ學會ニ寄附シ本法人設立者ノ目的ヲ永遠ニ繼續セシム

五 解 散

第十條 本法人ハ法定ノ解散事由發生スルニアラサレハ解散スルコ

トナシ

六 役 員

第十一條 本法人ニハ理事八名(内一名ハ水産講習所長ヲ以テ之ニ充

ツ但シ其承諾ヲ得サル場合ハコノ限リニアラス)監事三名常議員三

十名ヲ置ケ但シ東京府及ヒ隣接縣在住者、限ル

理事ノ中一名ヲ理事長トシ水産講習所長タル理事ヲ以テ之ニ充ツ

若シ水産講習所長タル理事ノラサル場合ニハ理事ノ互選ニ依リ之

ヲ定ム水産講習所長タル理事以外ノ理事ハ常議員會ニ於テ互選ス

其任期ハ三ケ年トス

理事ハ互選ヲ以テ常務理事ヲ定ム

監事ハ常議員會ニ於テ互選ス其任期ハ二ケ年トス

常議員ノ任期ハ四ケ年トシ其任期満了前常議員會ニ於テ後任者ヲ

推薦ス補缺ノ場合亦同シ

理事監事常議員中缺員ヲ生シタルトキハ之ヲ補缺スルモノトシ其

就任者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條 理事長ハ本法人ヲ代表ス

常務理事ハ常務ヲ處理シ理事具事故アルトキハ之ヲ代理ス

理事ハ本法人ノ事務ヲ掌理ス

監事ハ本法人ノ事務ヲ監査ス

常議員ハ本法人ノ豫算決算並ニ目的ノ實行ノ方法其他重要ナル事項

ヲ審議ス

常議員會ハ本法人ニ功勞アルモノヲ顧問ニ推薦スルコトヲ得

常議員會ハ過半数ノ出席アルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス

顧問ハ各役員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

七 寄附行爲ノ變更

第十三條 本寄附行爲ハ目的ニ關スル規定ヲ除クノ外顧問理事監事

全員ノ同意ヲ經タル後常議員會ノ決議ヲ經主務官廳ノ許可ヲ得テ

之ヲ變更スルコトヲ得

八 附 則

第十四條 本寄附行爲施行ニ關スル細則ハ理事ノ多數ニ依リ之ヲ定

ム之ヲ變更スル場合亦同シ

第十五條 本寄附行爲當初ノ常議員ハ寄附行爲者牧朴眞之ヲ推薦ス

本寄附行爲ノ變更ニヨリ理事新任セラレルマテ現在理事其事務ヲ

掌理ス

昭和四年十二月二十日印刷  
昭和四年十二月二十五日發行

農林省水産講習所

東京市麹町區紀尾井町

印刷者 濱野英太郎

東京市麹町區紀尾井町

印刷所 東京印刷株式會社町田出張所

296  
3

終

